

芦屋町

人権教育・啓発基本計画策定のための  
町民意識調査結果報告書

令和4年3月

芦 屋 町



## 目 次

---

|                           |    |
|---------------------------|----|
| 第 1 部 調査の概要.....          | 1  |
| 第 2 部 調査結果.....           | 3  |
| I. 回答者の基本属性について.....      | 3  |
| II. 人権全般について.....         | 5  |
| III. 女性の人権について.....       | 16 |
| IV. 子どもの人権について.....       | 22 |
| V. 高齢者の人権について.....        | 28 |
| VI. 障がい者の人権について.....      | 34 |
| VII. 同和問題について.....        | 40 |
| VIII. 性的少数者の人権について.....   | 50 |
| IX. 外国人の人権について.....       | 53 |
| X. インターネット上の人権侵害について..... | 59 |
| XI. 芦屋町の人権啓発施策について.....   | 62 |



---

第 1 部  
調査の概要

---



## I. 調査の目的

人権問題に関する意識や人権教育・啓発施策などについての意見等を把握することによって、「第2次芦屋町人権教育・啓発基本計画」の策定や今後の人権教育・啓発施策の推進に反映させるための基礎資料を得ることを目的とする。

## II. 調査の設計

- |         |  |
|---------|--|
| 1. 調査地域 | 芦屋町全域  |
| 2. 調査対象 | 町内在住の満20歳以上の男女                                       |
| 3. 標本数  | 1,500人   |
| 4. 抽出方法 | 住民基本台帳から年齢10歳階層ごとに（70歳以上は1階層とし、全部で6階層とする）男女同数を無作為抽出  |
| 5. 調査方法 | 質問紙法（無記名自記式）<br>郵送による配布・回収（礼状兼督促状を1回発送）              |
| 6. 調査期間 | 令和4年1月19日～令和4年2月4日<br>（ただし、令和4年2月16日回収分までを集計に含めている。） |
| 7. 調査主体 | 芦屋町教育委員会 生涯学習課 社会教育係                                 |

## III. 回収の結果

配布数：1,500件 有効回収数：575件 回収率：38.3%

## IV. 報告書の見方

1. 回答は、各質問の回答者数（N）を基数とした百分率（%）で示している。小数点第2位を四捨五入しているため、比率の合計が100.0%にならない場合がある。
2. 複数回答を求めた質問では、回答比率の合計が100.0%を超える。
3. 表・グラフにおいて、回答選択肢を簡略化して表記している場合がある。





---

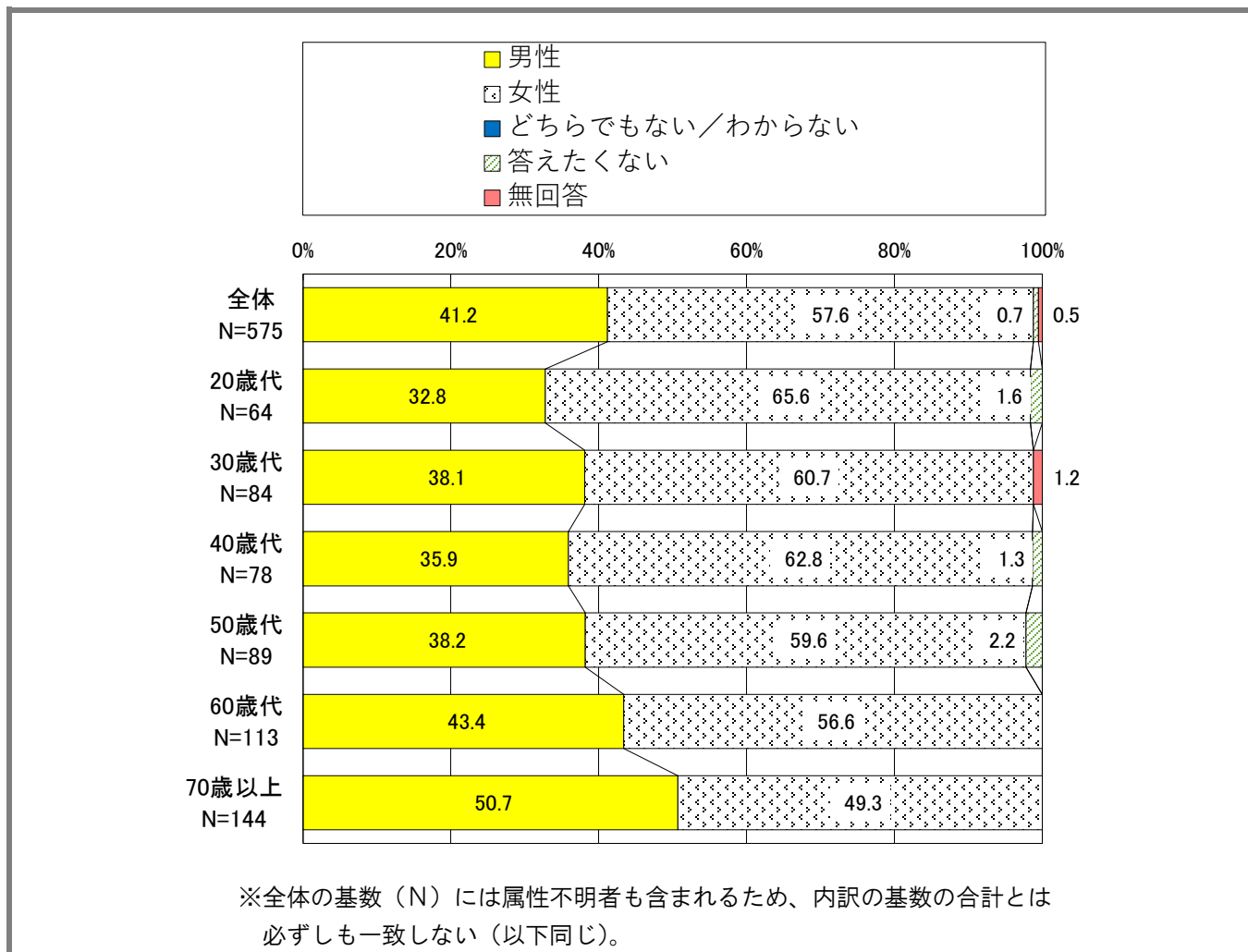
第 2 部  
調 查 結 果

---



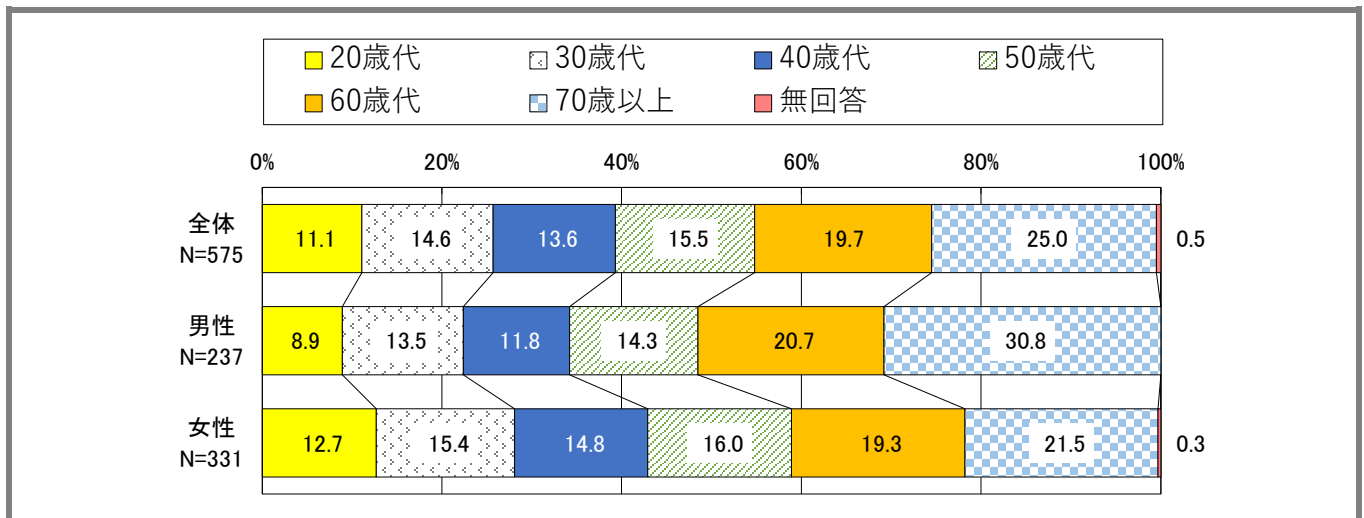
## I. 回答者の基本属性について

F 1 あなたの性別をお聞かせください。(1つに〇)



- 回答者の性別については、「男性」が41.2%、「女性」が57.6%、「答えたくない」が0.7%となっている。
- 調査対象者の抽出は男女同数であったため、「70歳以上」を除く全年齢階層において女性の方が回答率が高かったことがわかる。

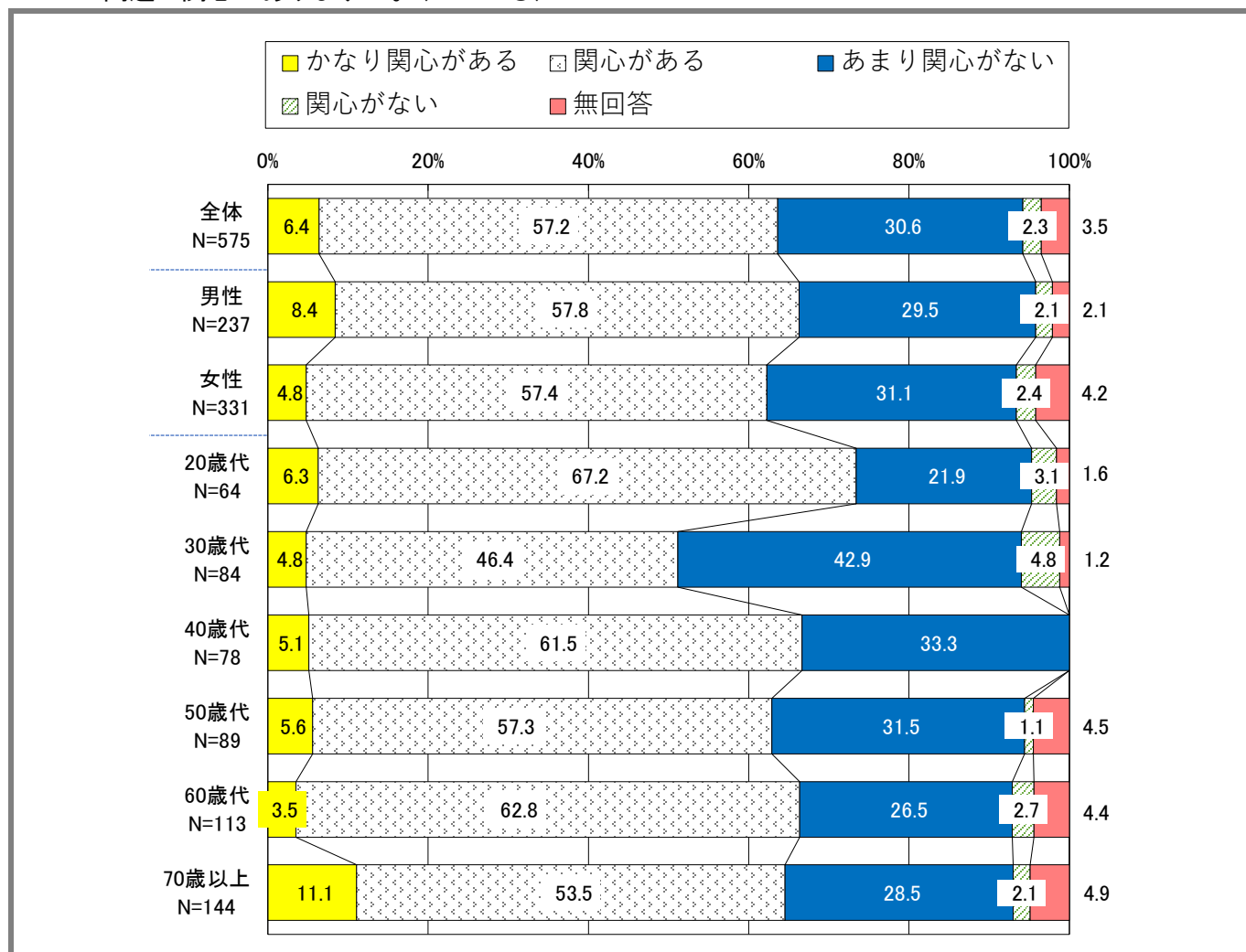
F2 あなたの年齢をお聞かせください。(1つに○)



- 回答者の年齢構成は上のおりで、60歳以上が男性の51.5%、女性の40.8%を占めている。
- 調査対象者の抽出は各年齢階層同数であったため、20歳代の回答率が特に低かったことがわかる。

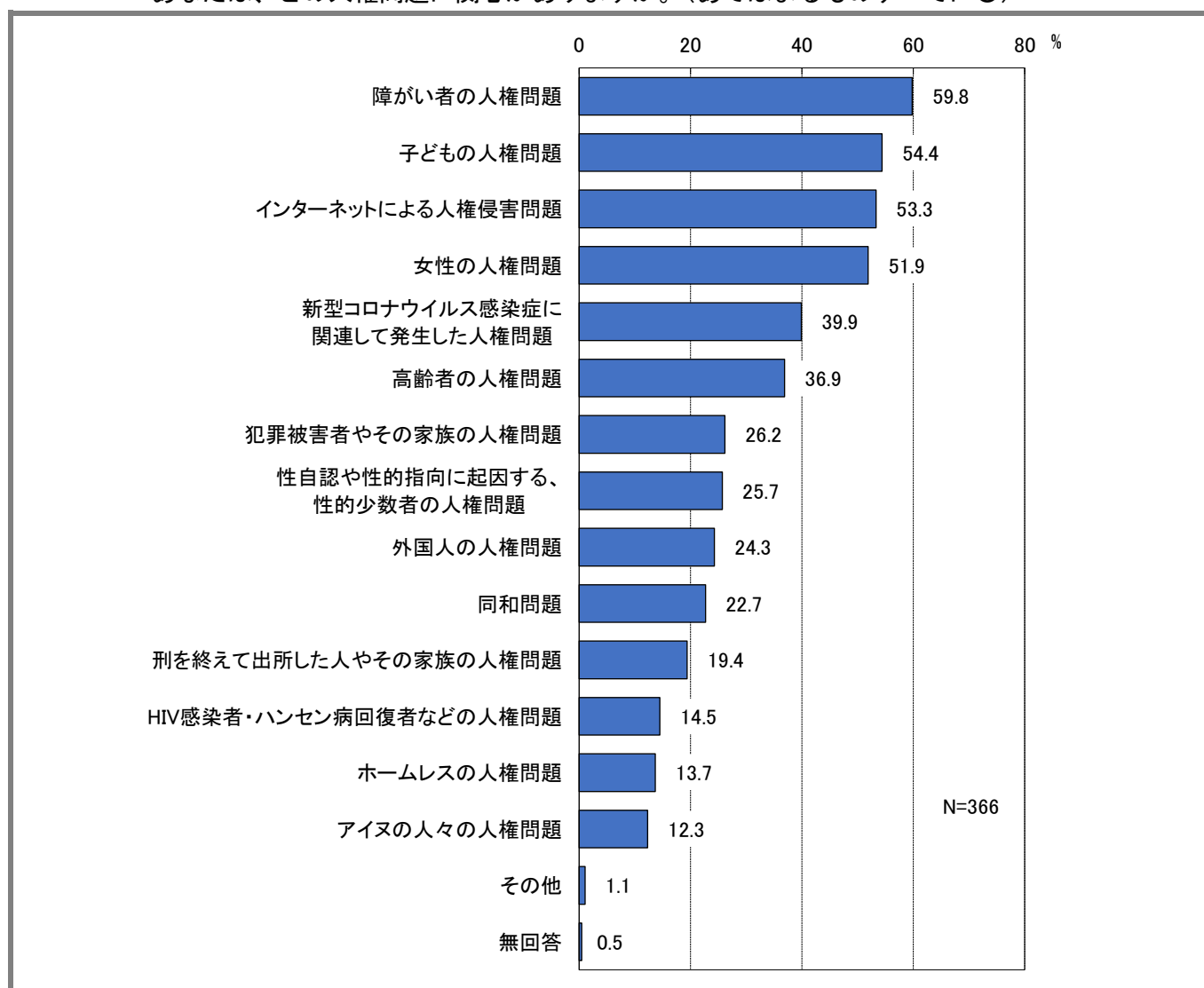
## Ⅱ. 人権全般について

問1 基本的人権は侵すことのできない永久の権利として憲法で保障されていますが、あなたは、人権問題に関心がありますか。(1つに○)



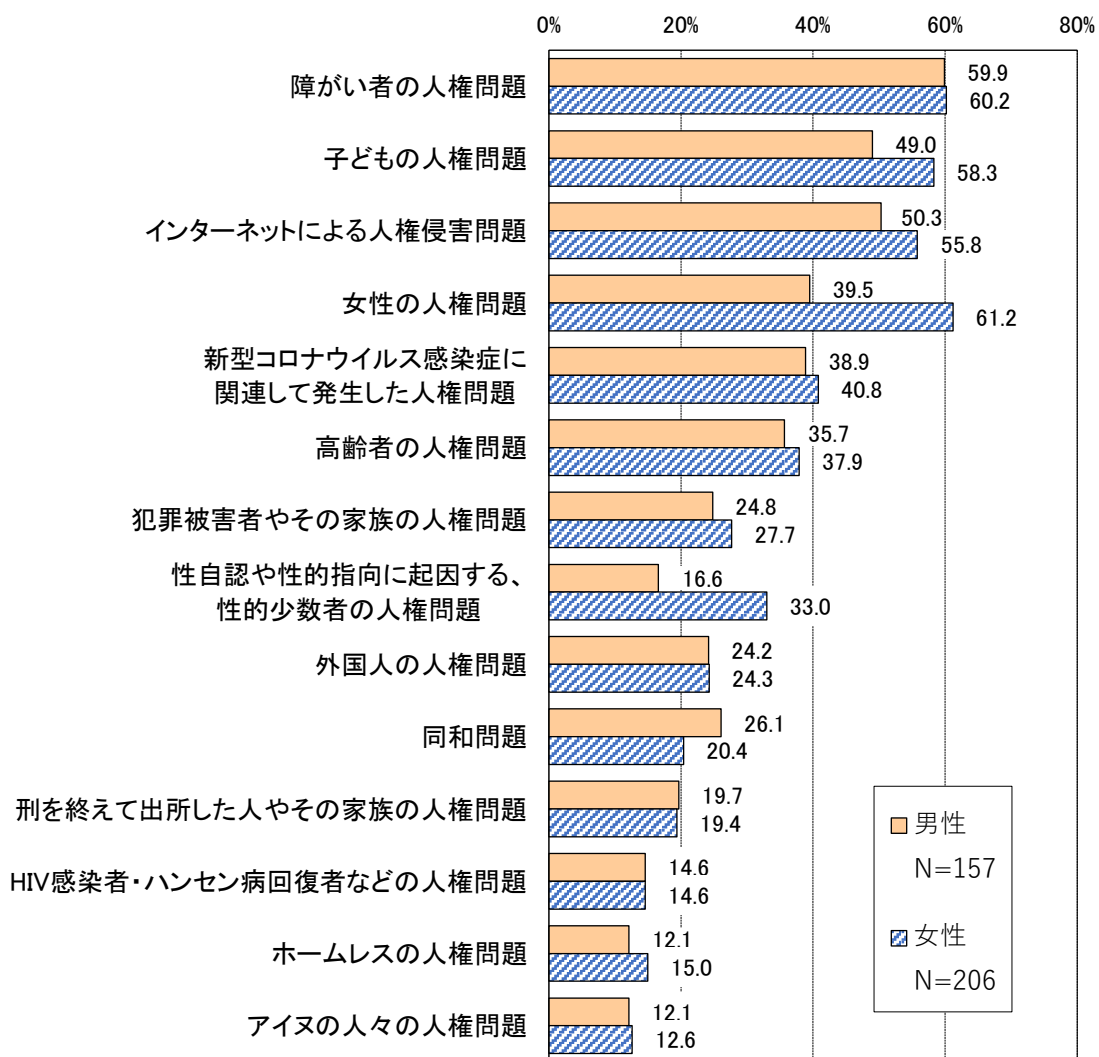
- 人権問題に「かなり関心がある」「関心がある」と回答した人の割合は全体の 63.6%で、「あまり関心がない」「関心がない」と回答した人の割合 (32.9%) を 30.7 ポイント上回っている。
- 男女別に見ると、「かなり関心がある」「関心がある」と回答した人の割合は女性 (62.2%) より男性 (66.2%) の方がやや高くなっている。
- 年齢階層別に見ると、「かなり関心がある」「関心がある」と回答した人の割合が最も高かったのは「20歳代」(73.5%)、最も低かったのは「30歳代」(51.2%) となっている。

問 1-1 (問1で「1. かなり関心がある」「2. 関心がある」と答えた方へ)  
あなたは、どの人権問題に関心がありますか。(あてはまるものすべてに○)

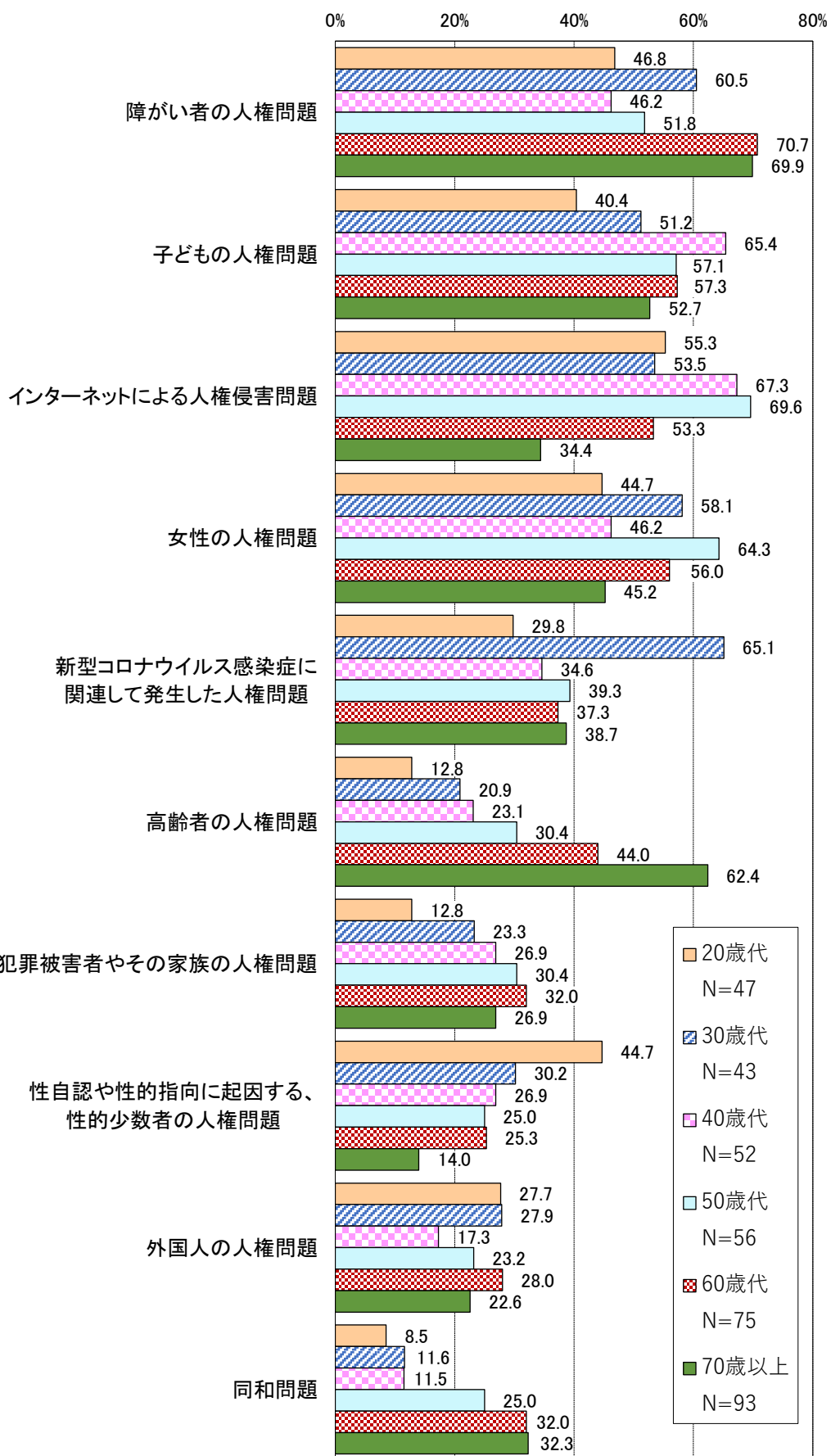


- 前問で人権問題に「かなり関心がある」「関心がある」と回答した人に、どの人権問題に関心があるか尋ねたところ、「障がい者の人権問題」を選択した人の割合が 59.8%と最も高く、以下、「子どもの人権問題」(54.4%)、「インターネットによる人権侵害問題」(53.3%)、「女性の人権問題」(51.9%)と続いている。
- 男女別に見ると、「女性の人権問題」と「性自認や性的指向に起因する性的少数者の人権問題」については、男性に比べ女性の回答率が特に高くなっている(次ページの男女別クロス集計結果参照)。
- 年齢階層別に見ると、「20歳代」と「40歳代」「50歳代」では「インターネットによる人権侵害問題」、「30歳代」では「新型コロナウイルス感染症に関連して発生した人権問題」、「60歳代」「70歳以上」では「障がい者の人権問題」が、それぞれ最も回答割合が高くなっている(次々ページの年齢階層別クロス集計結果参照)。

《男女別クロス集計結果》

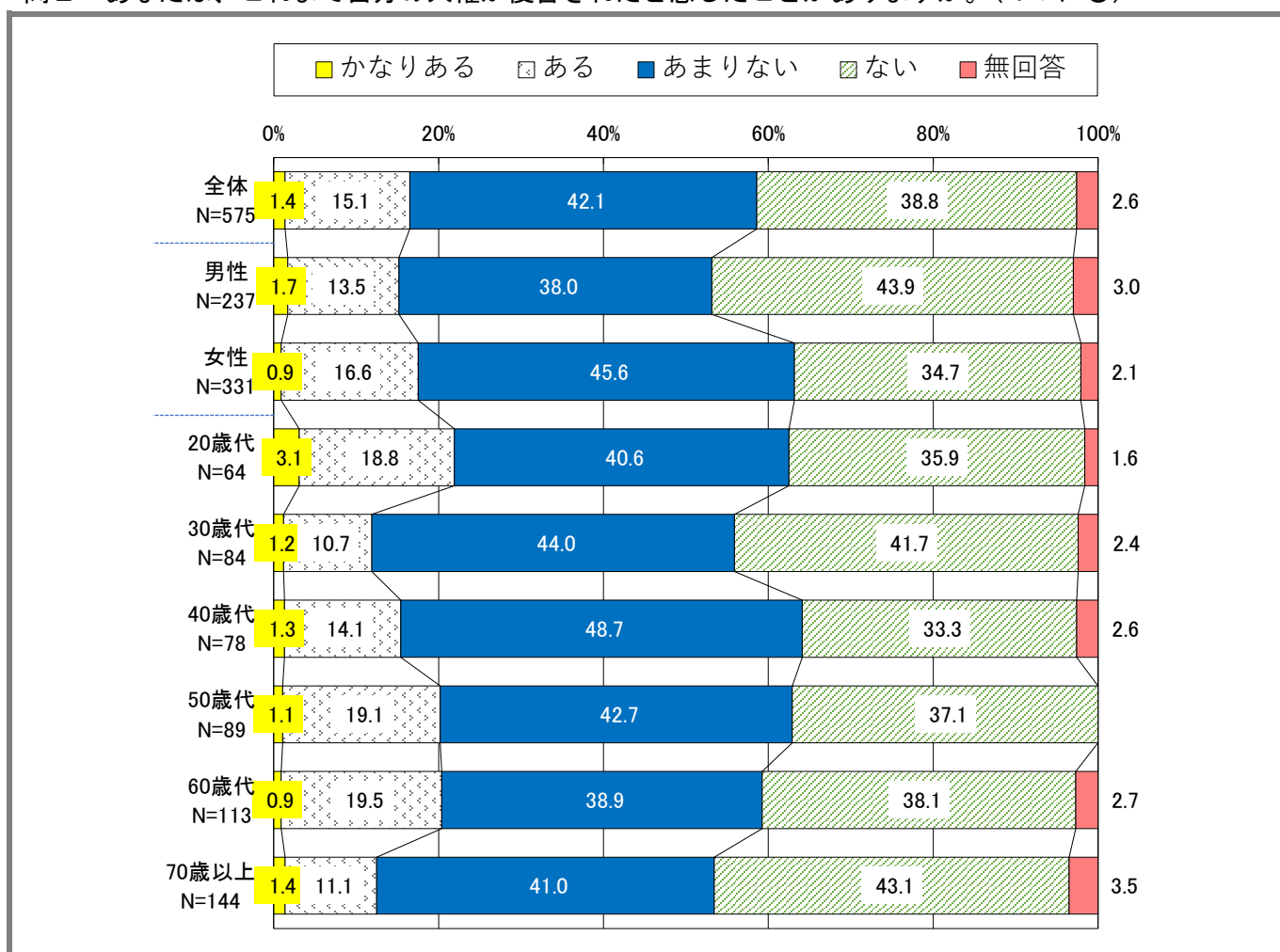


《年齢階層別クロス集計結果》



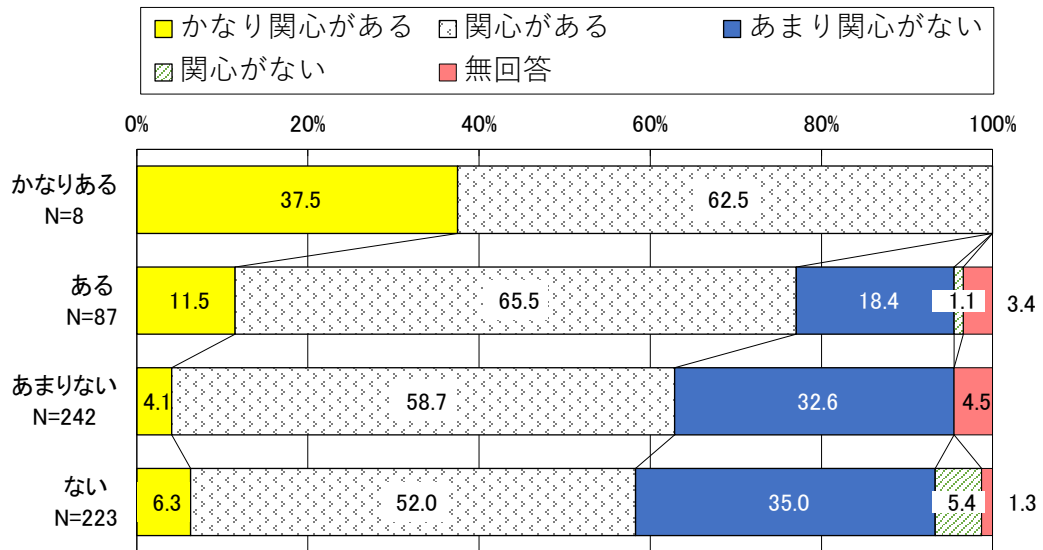


## 問2 あなたは、これまで自己的人権が侵害されたと感じたことがありますか。(1つに○)

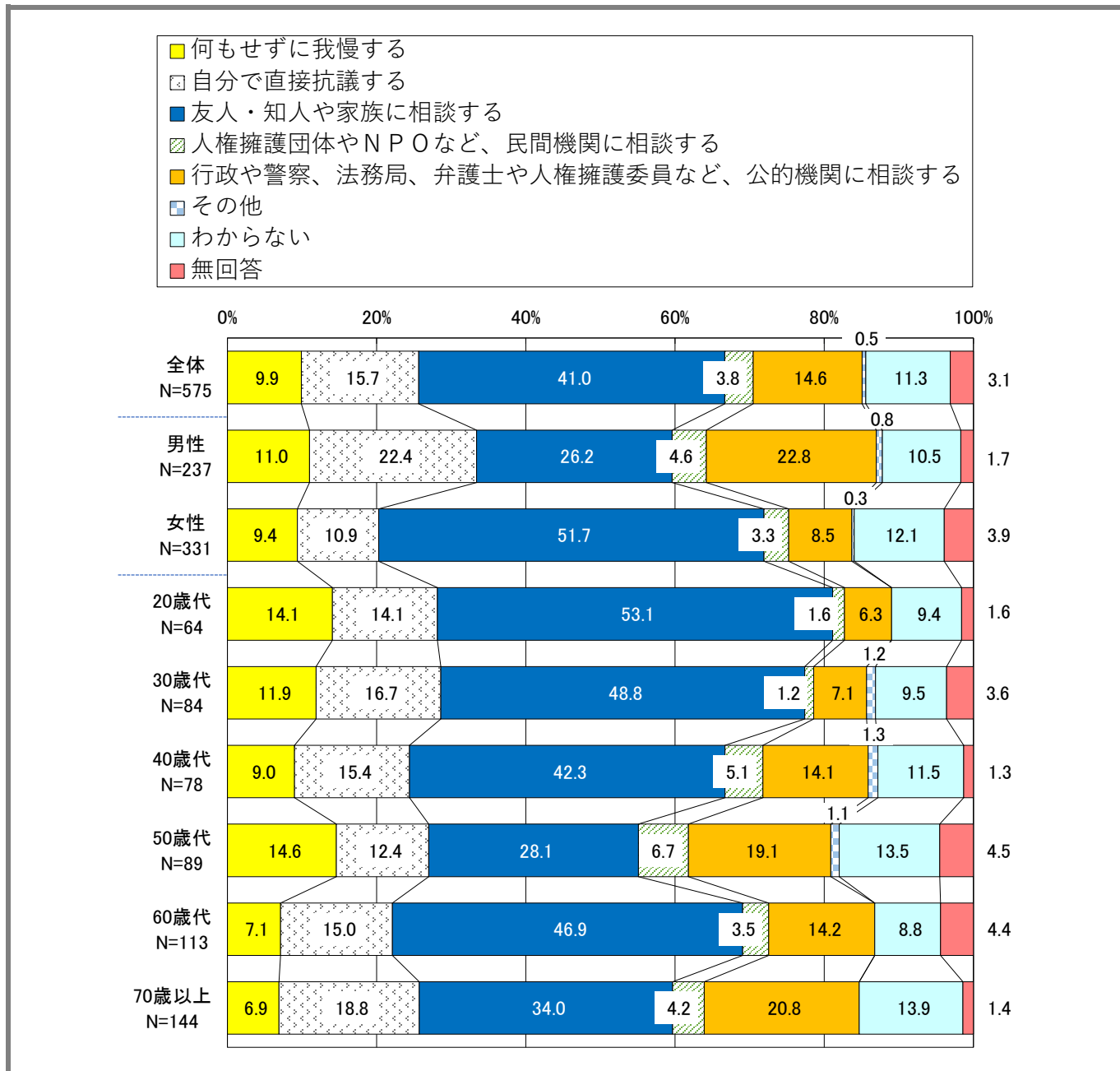


- 自己的人権が侵害されたと感じたことが「かなりある」「ある」と回答した人の割合は全体の16.5%、「あまりない」「ない」と回答した人の割合は80.9%となっている。
- 男女別に見ると、「かなりある」「ある」と回答した人の割合は男性(15.2%)より女性(17.5%)の方がやや高くなっている。
- 年齢階層別に見ると、「かなりある」「ある」と回答した人の割合が最も高かったのは「20歳代」(21.9%)、最も低かったのは「30歳代」(11.9%)となっている。
- 本問の回答別に問1の回答結果を見ると、自己的人権が侵害されたと感じたことがある人の方が、人権問題への関心度が高いことがわかる(次ページのグラフ参照)。

《自分の人権が侵害されたと感じたことの有無別人権問題への関心度》

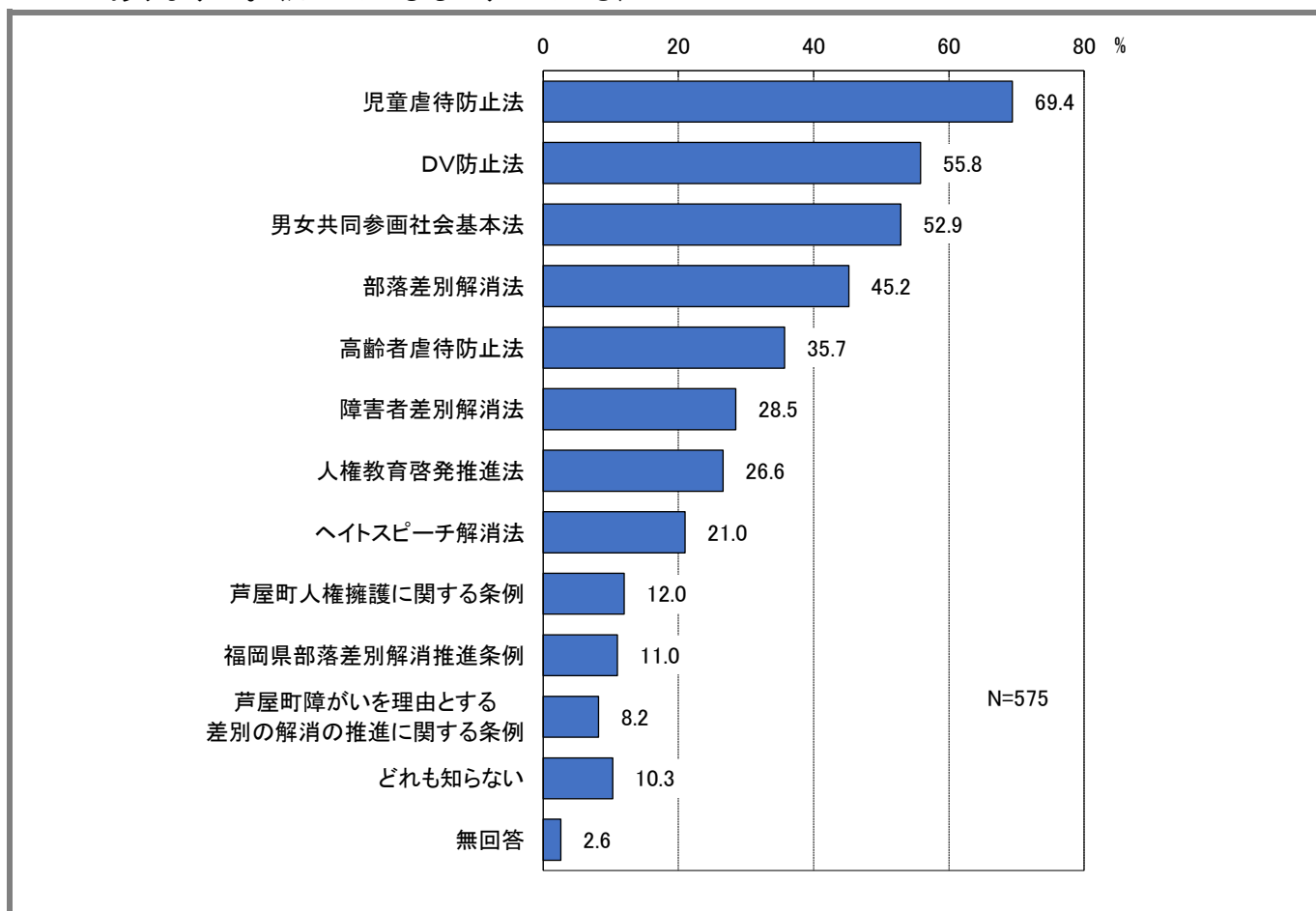


## 問3 あなたは、自分の人権が侵害された場合、どのように対処しますか。(1つに○)



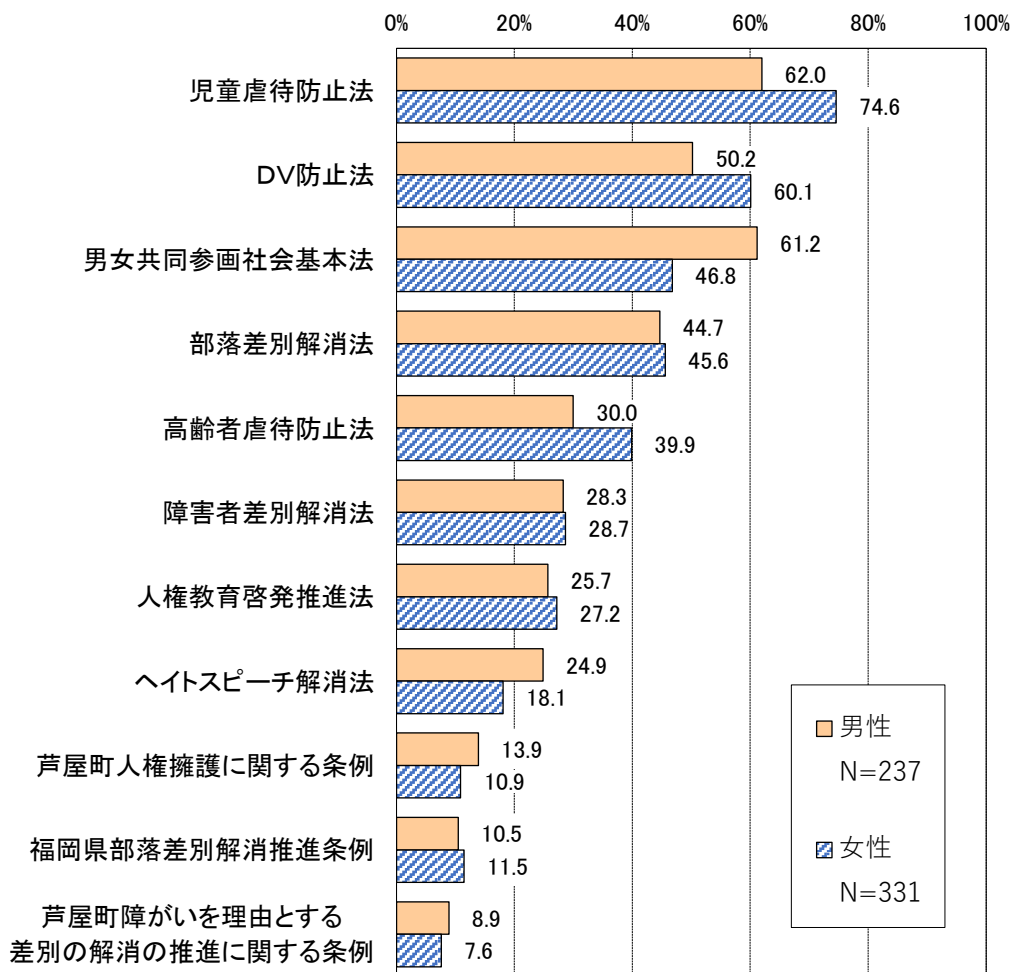
- 自分の人権が侵害された場合の対処法については、「友人・知人や家族に相談する」と回答した人の割合が41.0%と最も高く、以下、「自分で直接抗議する」(15.7%)、「行政や警察、法務局、弁護士や人権擁護委員など、公的機関に相談する」(14.6%)と続いている。
- 男女別に見ると、男性は女性に比べ、「友人・知人や家族に相談する」という回答割合が低く、「行政や警察、法務局、弁護士や人権擁護委員など、公的機関に相談する」「自分で直接抗議する」の回答割合が高くなっている。
- 年齢階層別に見ると、いずれの年齢階層においても「友人・知人や家族に相談する」という回答が最も多くなっているが、「20歳代」では「何もせずに我慢する」「自分で直接抗議する」、「30歳代」「40歳代」「60歳代」では「自分で直接抗議する」、「50歳代」「70歳以上」では「行政や警察、法務局、弁護士や人権擁護委員など、公的機関に相談する」が、それぞれ2番目に高い割合となっている。

問4 さまざまな人権問題に関連する次の法律や条例のうち、大まかな内容も含めて知っているものはありますか。(知っているものすべてに○)

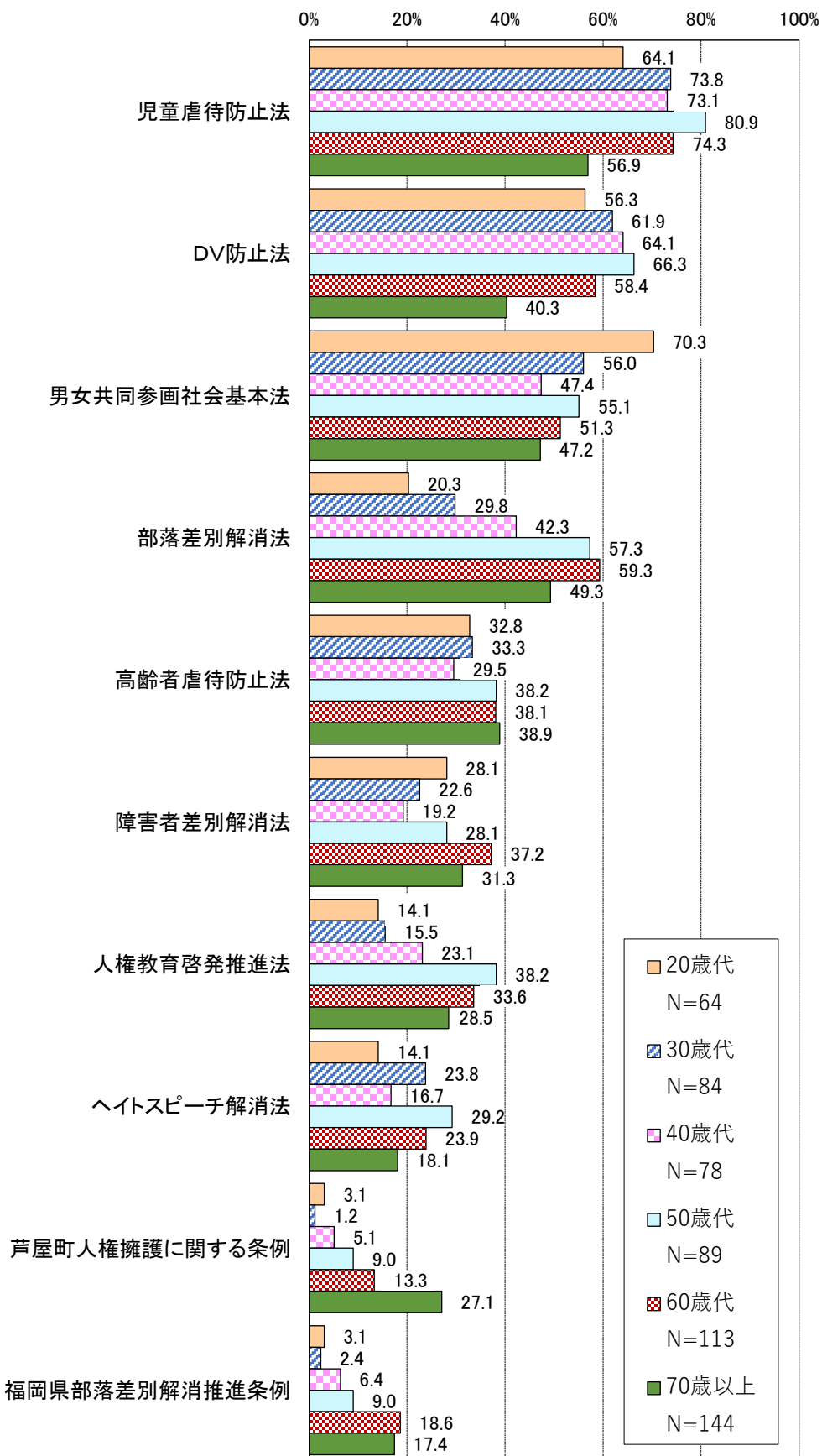


- 人権問題に関連する法律や条例のうち、最も認知度が高かったのは「児童虐待防止法」(69.4%)で、以下、「DV防止法」(55.8%)、「男女共同参画社会基本法」(52.9%)、「部落差別解消法」(45.2%)、「高齢者虐待防止法」(35.7%)と続いている。
- 男女別に見ても回答傾向に大きな差異は見られないが、男性では「DV防止法」(50.2%)より「男女共同参画社会基本法」(61.2%)の回答割合が高くなっており、女性(46.8%)に比べても14.4ポイント高い割合となっている(次ページの男女別クロス集計結果参照)。
- 年齢階層別に見ると、「20歳代」では「男女共同参画社会基本法」、その他の階層では「児童虐待防止法」の回答割合が最も高くなっている(次々ページの年齢階層別クロス集計結果参照)。

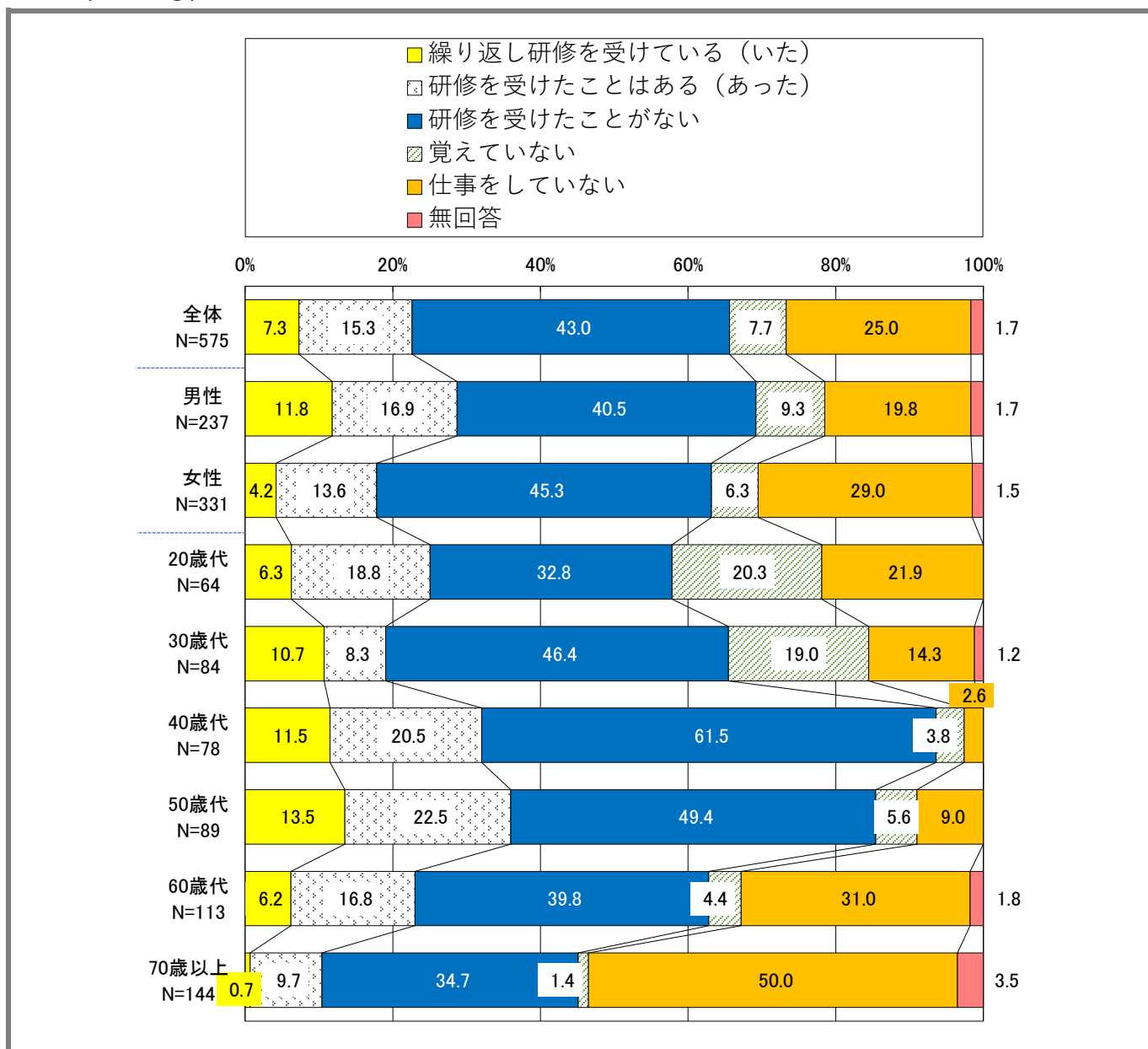
《男女別クロス集計結果》



《年齢階層別クロス集計結果（上位10項目抜粋）》



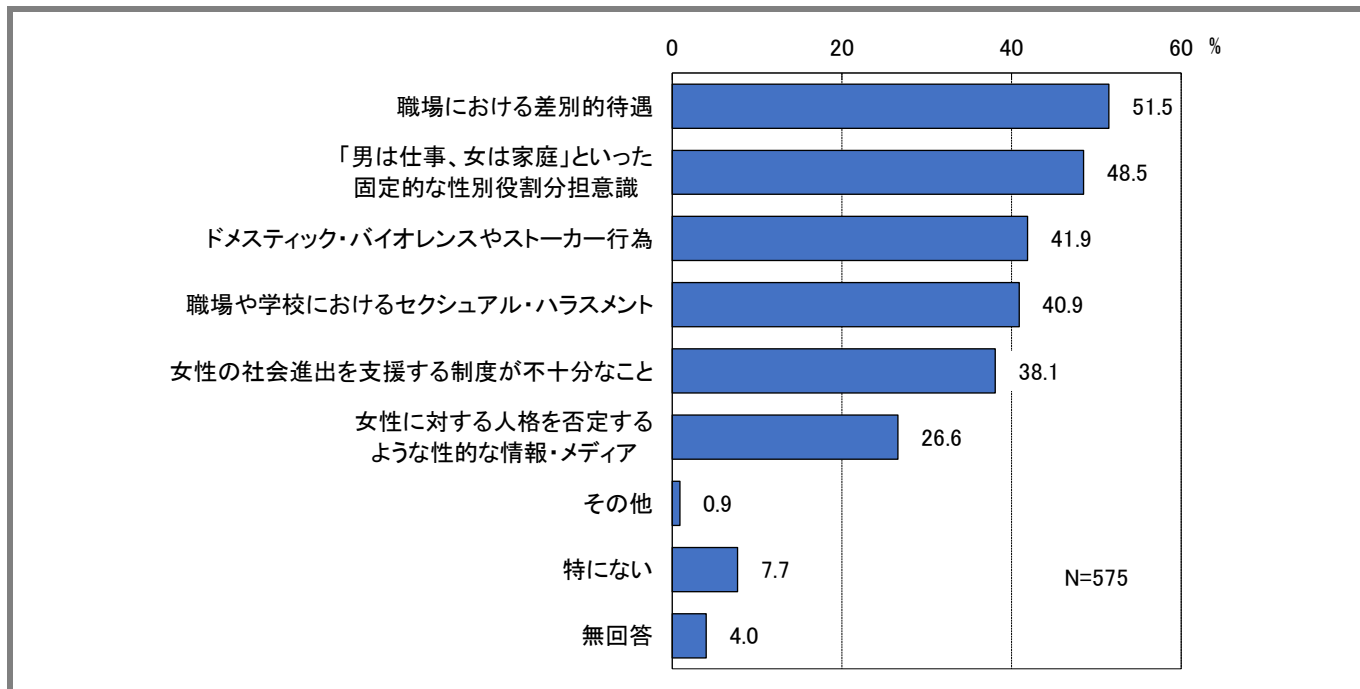
問5 あなたは、この5年間に、仕事の中で人権問題に関する研修を受けたことがありますか。  
(1つに○)



- 人権問題に関する研修について、この5年間に仕事の中で「繰り返し研修を受けている (いた)」「研修を受けたことはある (あった)」と回答した人の割合は全体の 22.6%で、「研修を受けたことがない」と回答した人の割合は 43.0%となっている。
- 男女別に見ると、女性は男性に比べ「仕事をしていない」と回答した人の割合が高い分、「繰り返し研修を受けている (いた)」「研修を受けたことはある (あった)」と回答した人の割合が低くなっている。
- 年齢階層別に見ても、「仕事をしていない」という回答割合の差がそれぞれの回答結果に影響を及ぼしているが、「繰り返し研修を受けている (いた)」「研修を受けたことはある (あった)」と回答した人の割合が最も高かったのは「50歳代」(36.0%)となっている。

### Ⅲ. 女性の人権について

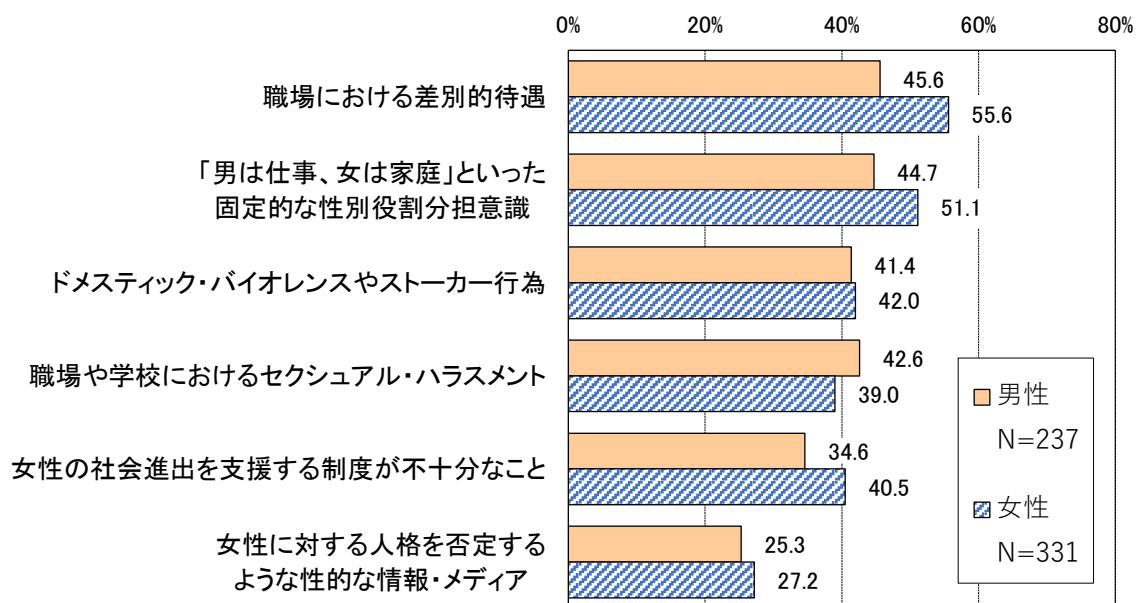
問6 女性に関する事柄で、あなたが特に人権上の問題があると思われるのはどのようなことですか。  
(あてはまるものすべてに○)



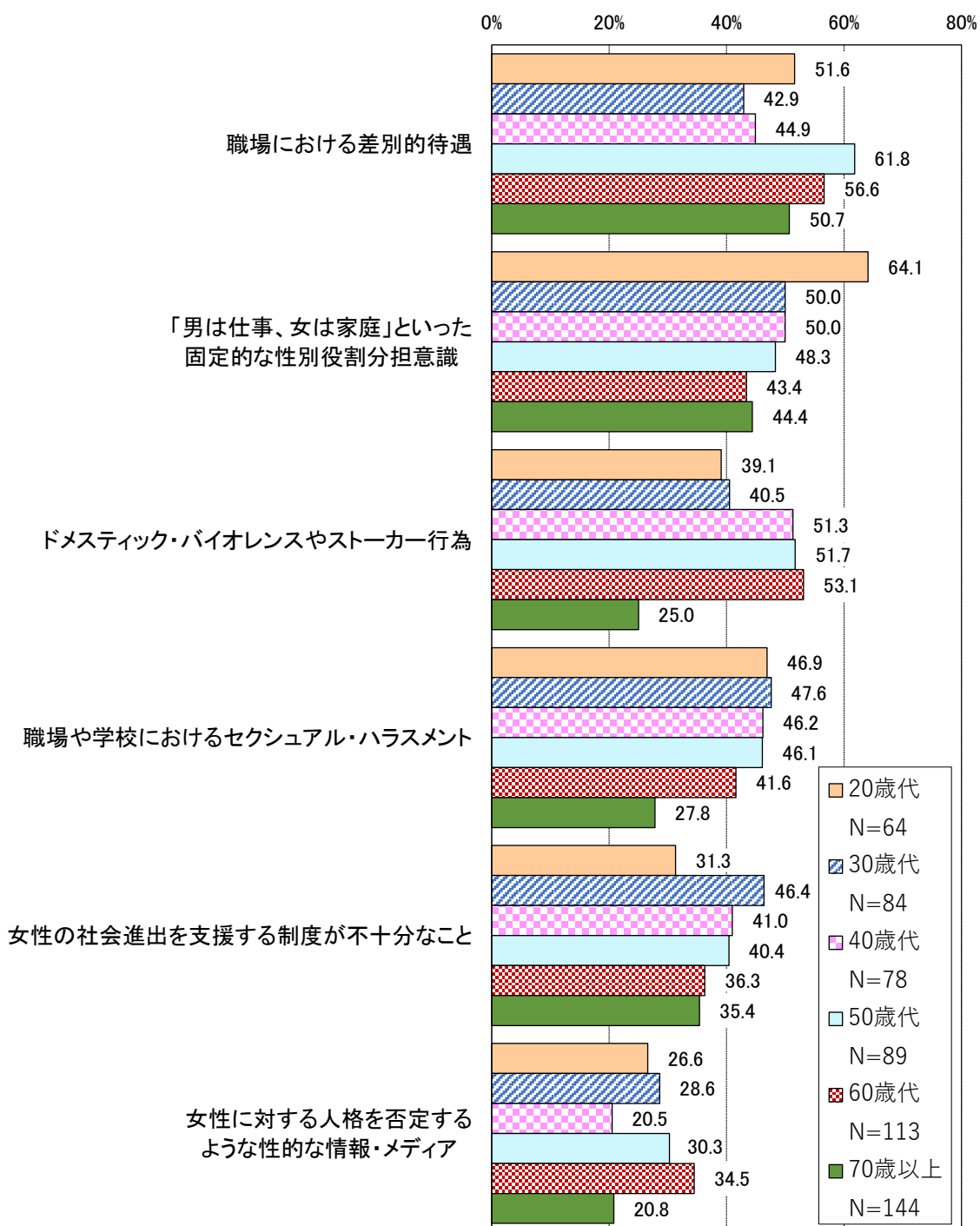
- 女性に関する事柄で、特に人権上の問題があると思われるものとしては、「職場における差別的待遇」を選択した人の割合が 51.5%と最も高く、以下、「男は仕事、女は家庭」といった固定的な性別役割分担意識 (48.5%)、「ドメスティック・バイオレンスやストーカー行為」(41.9%)、「職場や学校におけるセクシュアル・ハラスメント」(40.9%)と続いている。
- 男女別に見ても回答傾向に大きな差異は見られない (次ページの男女別クロス集計結果参照)。
- 年齢階層別に見ると、「20 歳代」「30 歳代」では「男は仕事、女は家庭」といった固定的な性別役割分担意識、「40 歳代」では「ドメスティック・バイオレンスやストーカー行為」、「50 歳代」以上では「職場における差別的待遇」がそれぞれ最も高い回答割合となっている (次々ページの年齢階層別クロス集計結果参照)。



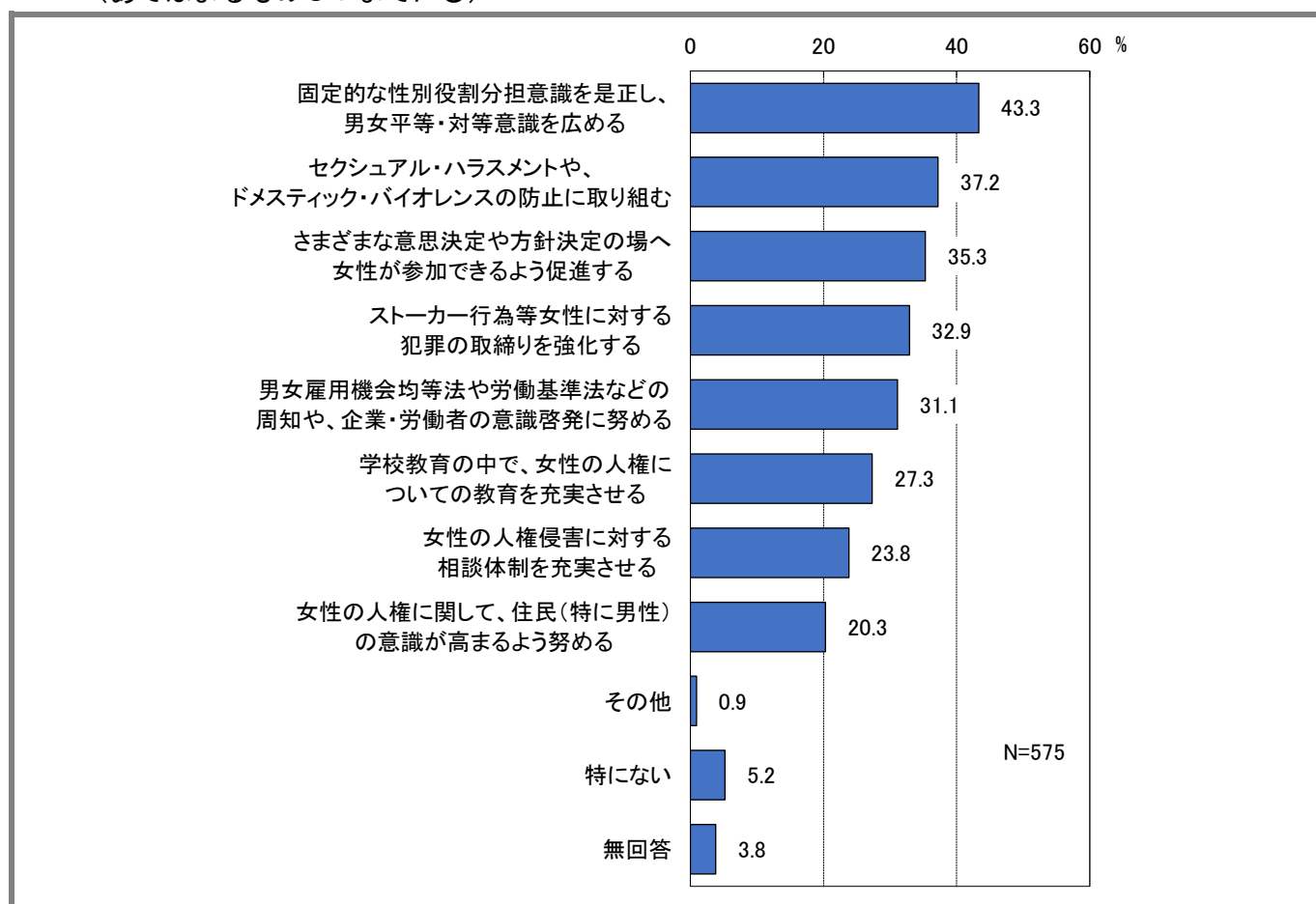
《男女別クロス集計結果》



《年齢階層別クロス集計結果》

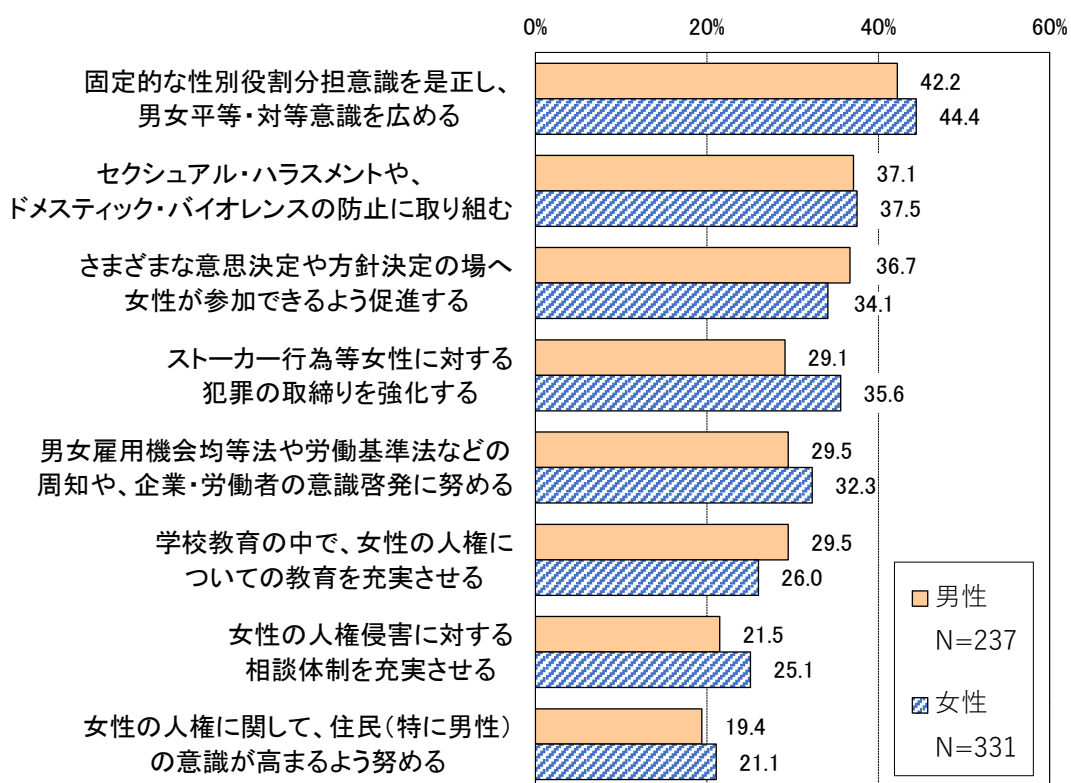


問7 女性の人権を守るために特に必要なことはどのようなことだと思いますか。  
(あてはまるもの3つまでに○)

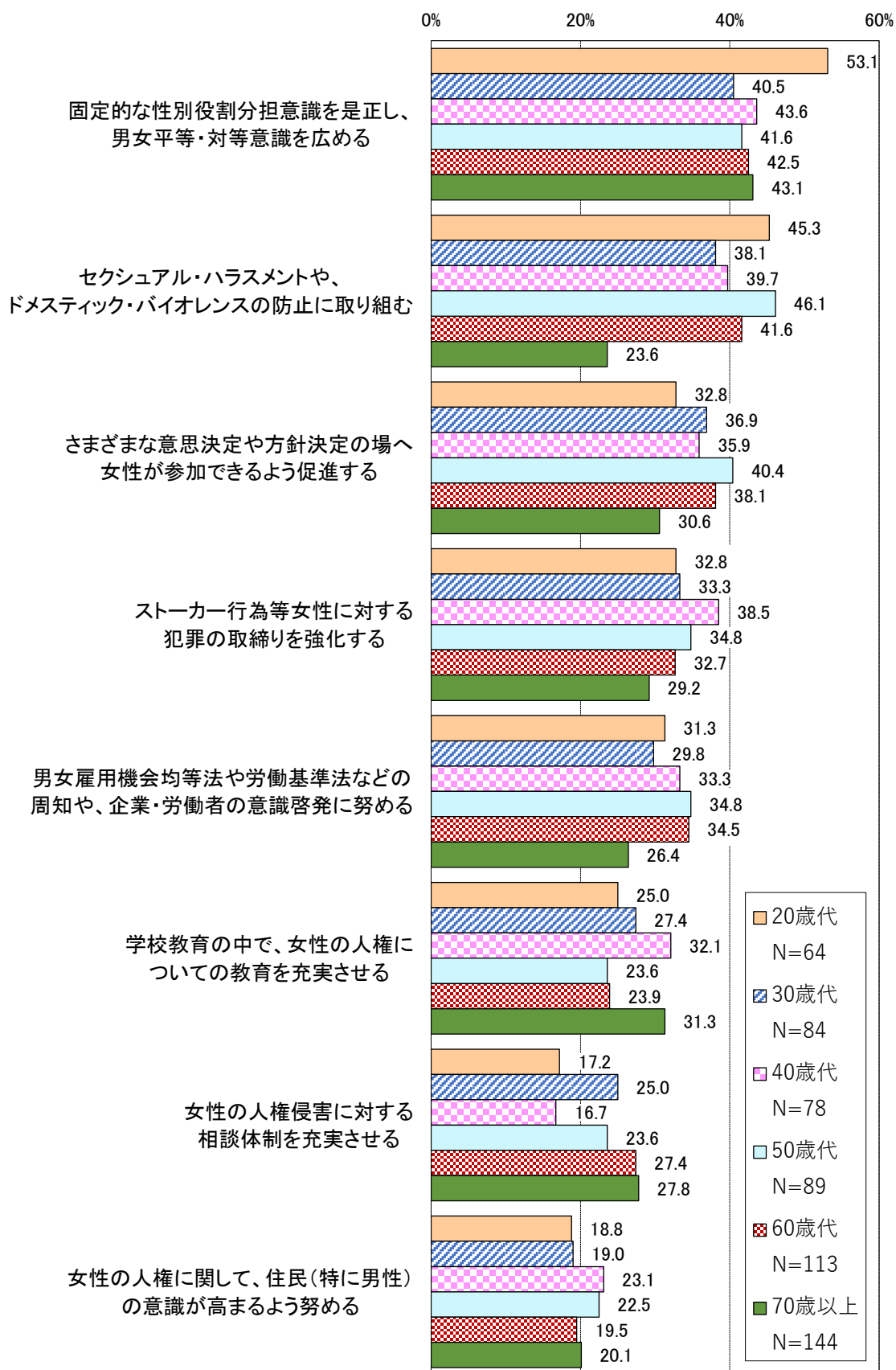


- 女性の人権を守るために特に必要なこととしては、「固定的な性別役割分担意識を是正し、男女平等・対等意識を広める」を選択した人の割合が43.3%と最も高く、以下、「セクシュアル・ハラスメントや、ドメスティック・バイオレンスの防止に取り組む」(37.2%)、「さまざまな意思決定や方針決定の場へ女性が参加できるよう促進する」(35.3%)、「ストーカー行為等女性に対する犯罪の取締りを強化する」(32.9%)と続いている。
- 男女別に見ても回答傾向に大きな差異は見られないが、女性では「さまざまな意思決定や方針決定の場へ女性が参加できるよう促進する」よりも「ストーカー行為等女性に対する犯罪の取締りを強化する」の回答割合の方がやや高くなっている(次ページの男女別クロス集計結果参照)。
- 年齢階層別に見ると、「50歳代」では「セクシュアル・ハラスメントや、ドメスティック・バイオレンスの防止に取り組む」、その他の階層では「固定的な性別役割分担意識を是正し、男女平等・対等意識を広める」の回答割合が最も高くなっている(次々ページの年齢階層別クロス集計結果参照)。

《男女別クロス集計結果》

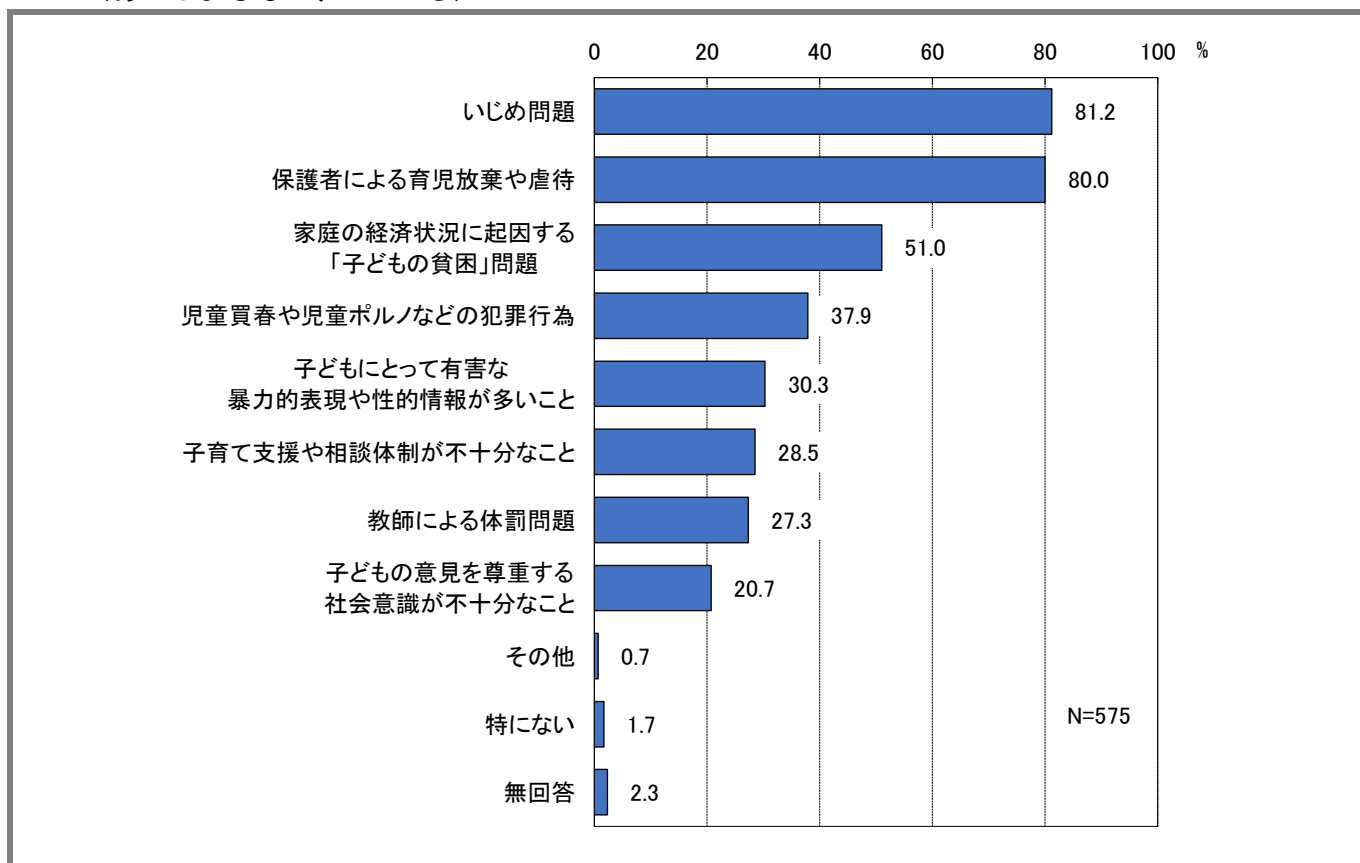


《年齢階層別クロス集計結果》



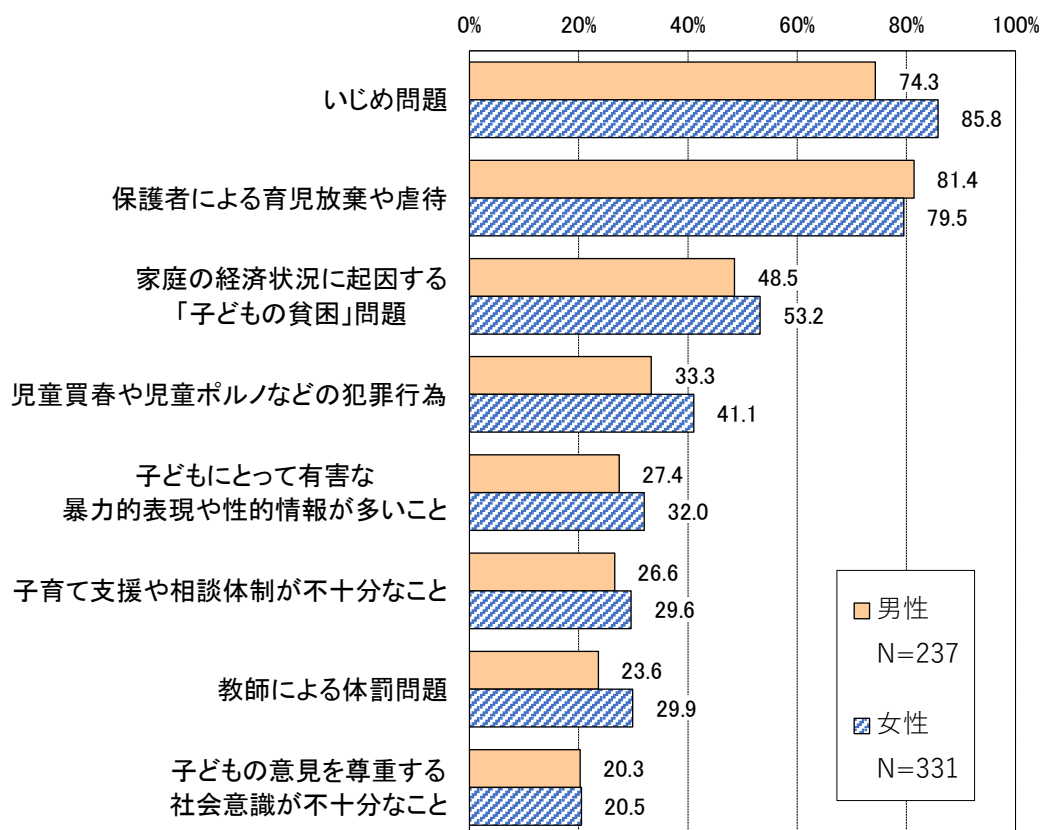
## Ⅳ. 子どもの人権について

問8 子どもに関する事柄で、あなたが特に人権上問題があると思われるのはどのようなことですか。  
(あてはまるものすべてに○)

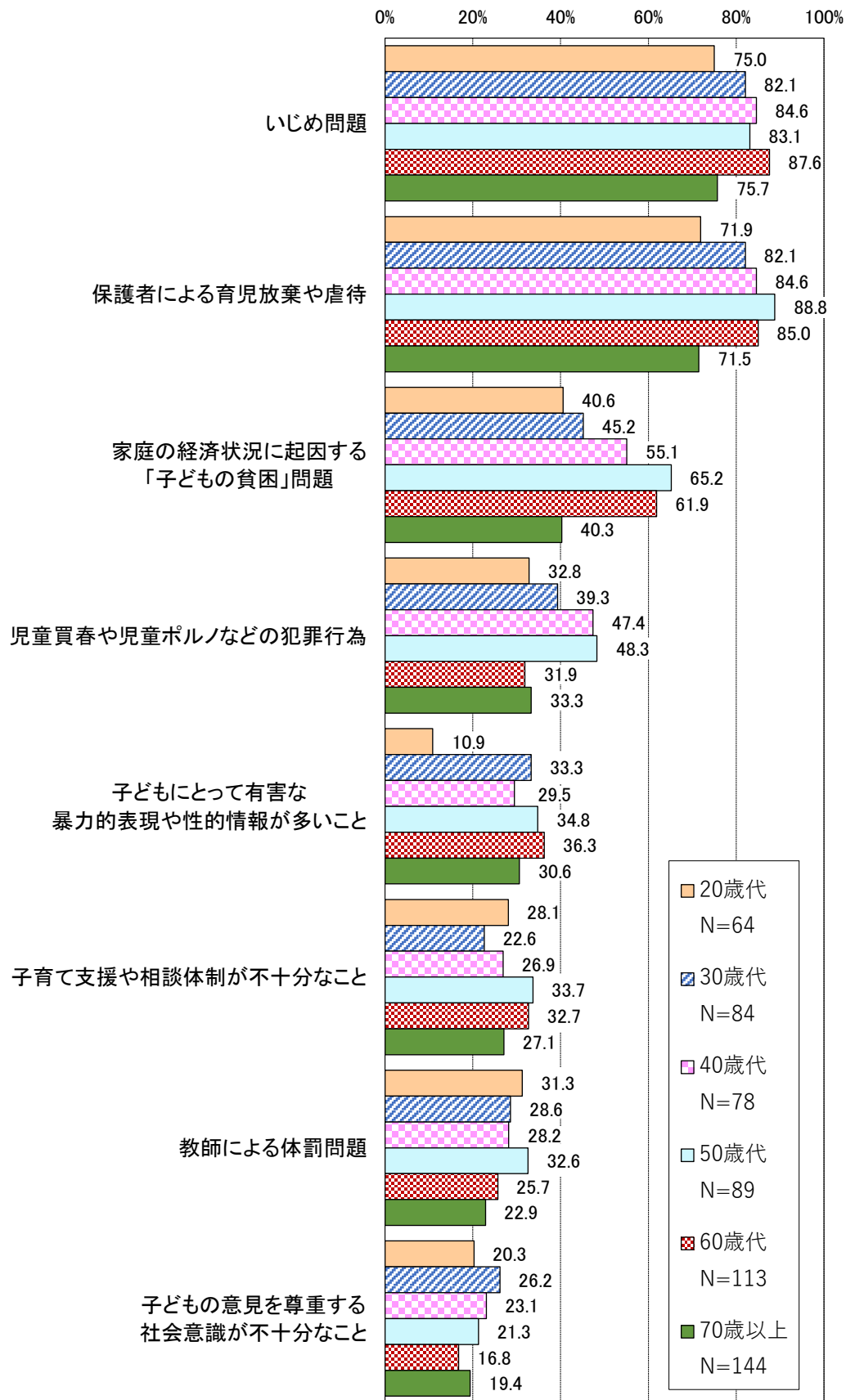


- 子どもに関する事柄で、特に人権上の問題があると思われるものとしては、「いじめ問題」(81.2%)や「保護者による育児放棄や虐待」(80.0%)を選択した人の割合が特に高く、「家庭の経済状況に起因する「子どもの貧困」問題」(51.0%)がそれに続いている。
- 男女別に見ても回答傾向に大きな差異は見られないが、男性では「いじめ問題」よりも「保護者による育児放棄や虐待」の回答割合の方が高くなっている(次ページの男女別クロス集計結果参照)。
- 年齢階層別に見ても、全体の回答傾向と大きな差異はなく、いずれの年齢階層においても「いじめ問題」や「保護者による育児放棄や虐待」が上位にあがっている(次々ページの年齢階層別クロス集計結果参照)。

《男女別クロス集計結果》



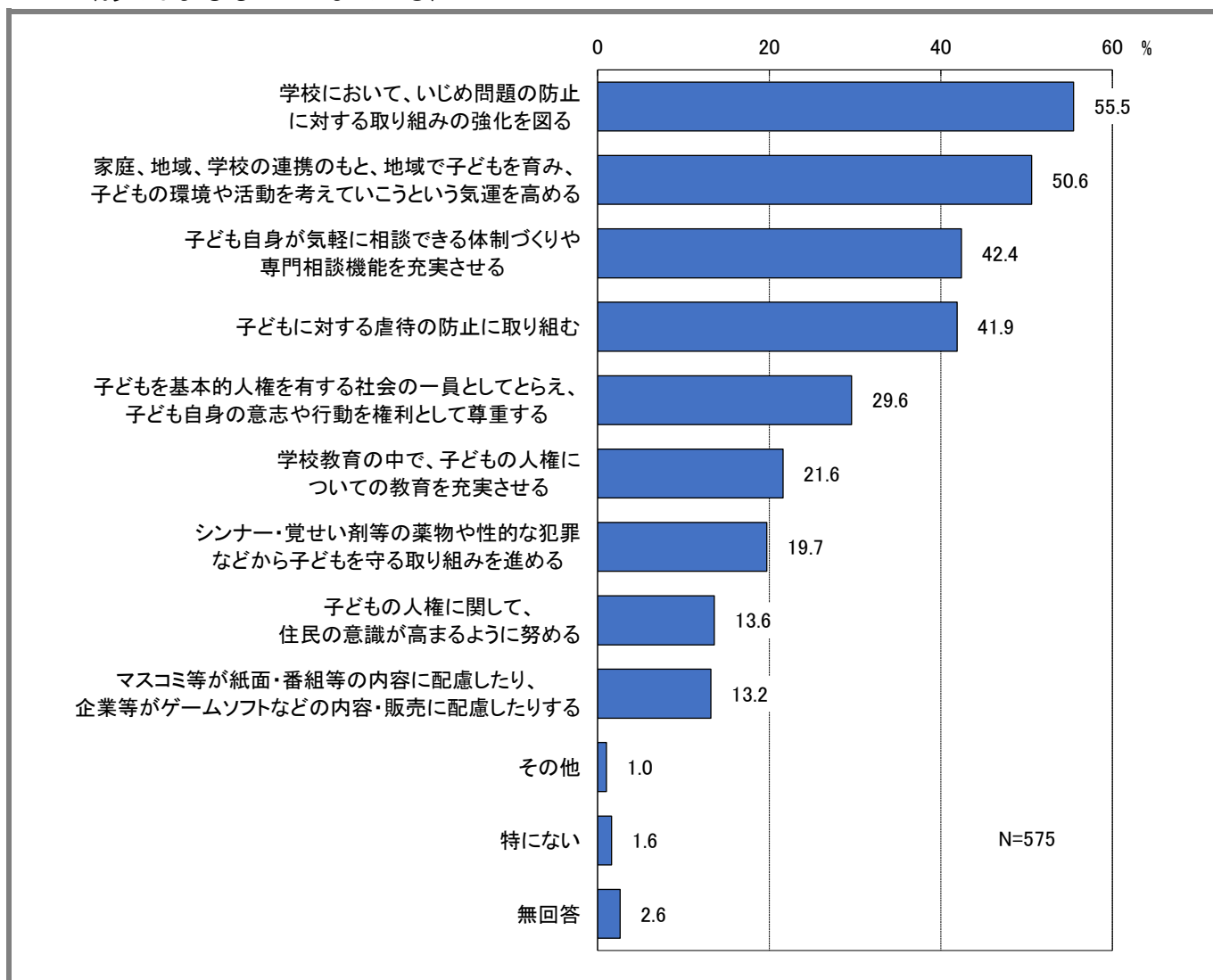
《年齢階層別クロス集計結果》





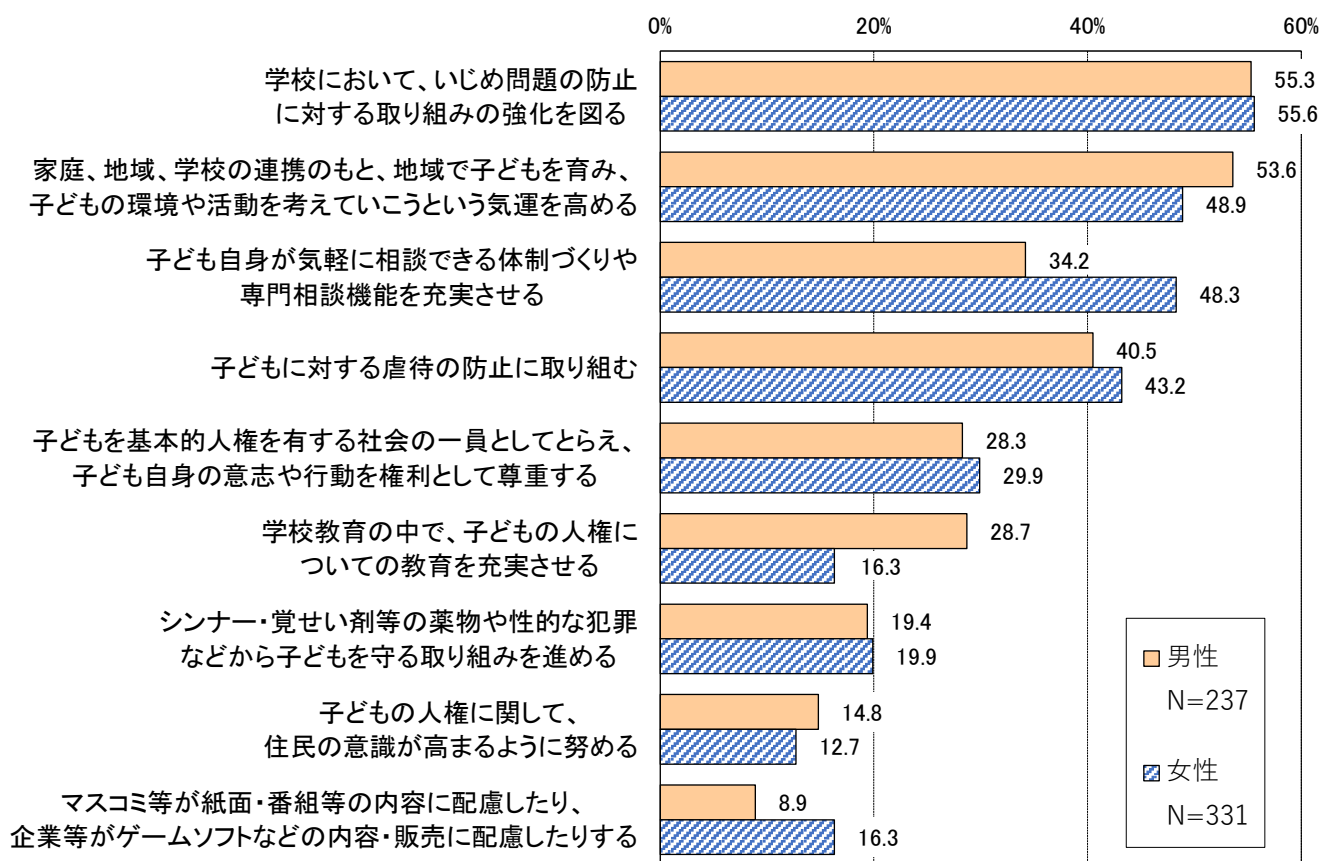
## 問9 子どもの人権を守るために特に必要なことはどのようなことだと思いますか。

(あてはまるもの3つまでに○)

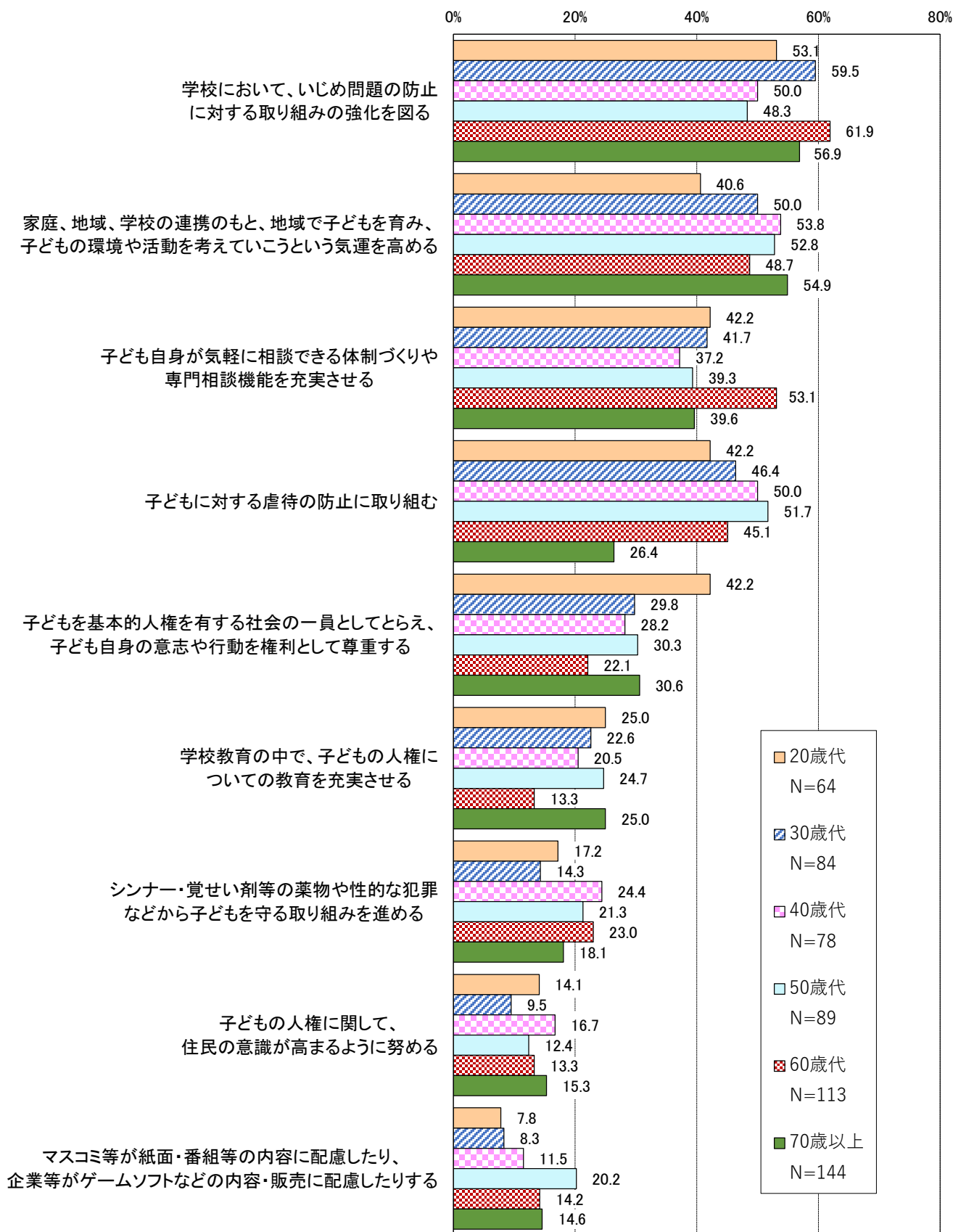


- 子どもの人権を守るために特に必要なこととしては、「学校において、いじめ問題の防止に対する取り組みの強化を図る」を選択した人の割合が55.5%と最も高く、以下、「家庭、地域、学校の連携のもと、地域で子どもを育み、子どもの環境や活動を考えていこうという気運を高める」(50.6%)、「子ども自身が気軽に相談できる体制づくりや専門相談機能を充実させる」(42.4%)、「子どもに対する虐待の防止に取り組む」(41.9%)と続いている。
- 男女別に見ると、男性に比べ女性の回答割合が特に高かったのは「子ども自身が気軽に相談できる体制づくりや専門相談機能を充実させる」(男性：34.2%、女性：48.3%)、逆に女性に比べ男性の回答割合が特に高かったのは「学校教育の中で、子どもの人権についての教育を充実させる」(男性：28.7%、女性：16.3%)となっている(次ページの男女別クロス集計結果参照)。
- 年齢階層別に見ても、全体の回答傾向と大きな差異はないが、「20歳代」では他の階層に比べ「子どもを基本的人権を有する社会の一員としてとらえ、子ども自身の意志や行動を権利として尊重する」の回答割合が高くなっている(次々ページの年齢階層別クロス集計結果参照)。

《男女別クロス集計結果》

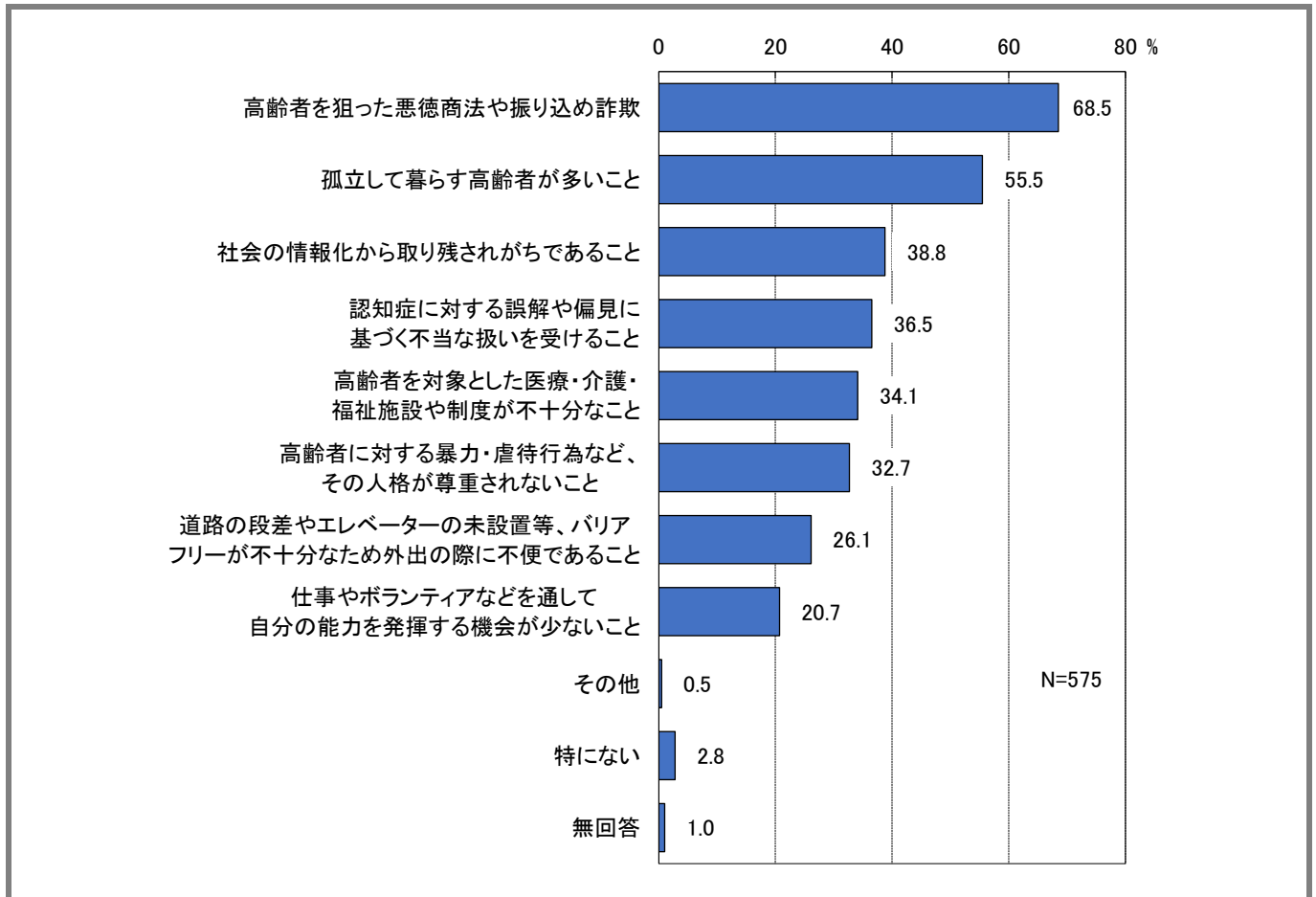


《年齢階層別クロス集計結果》



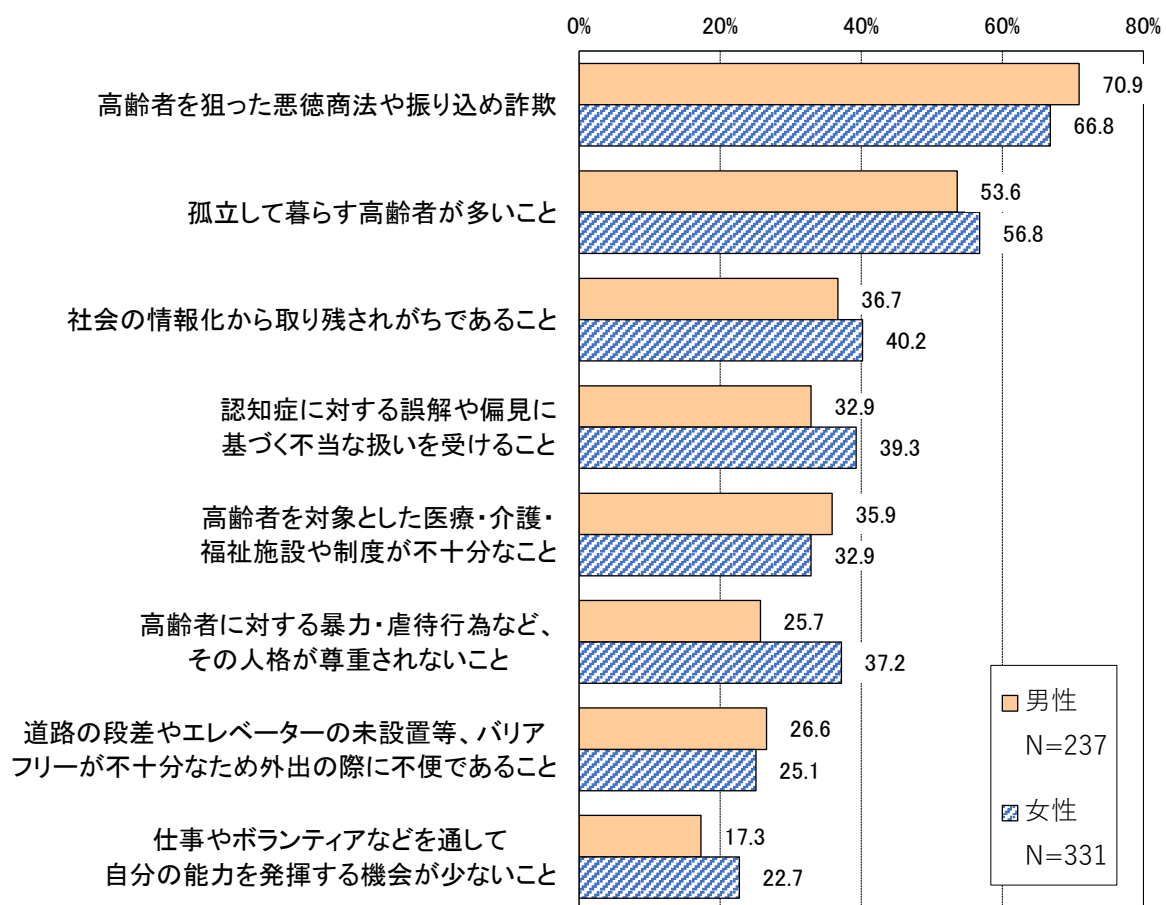
## V. 高齢者の人権について

問10 高齢者に関する事柄で、あなたが特に人権上問題があると思われるのはどのようなことですか。  
(あてはまるものすべてに○)

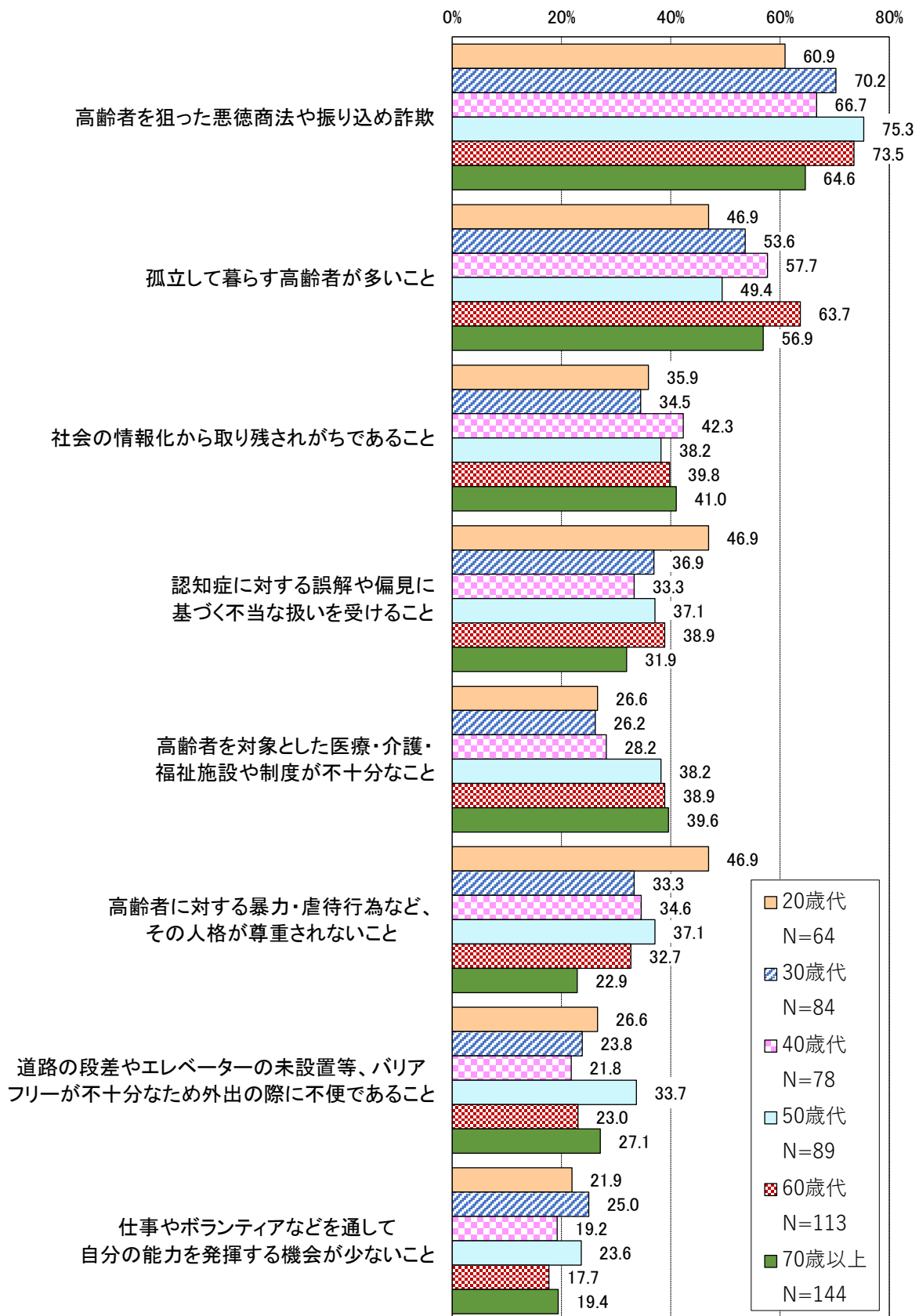


- 高齢者に関する事柄で、特に人権上の問題があると思われるものとしては、「高齢者を狙った悪徳商法や振り込め詐欺」を選択した人の割合が68.5%と最も高く、以下、「孤立して暮らす高齢者が多いこと」(55.5%)、「社会の情報化から取り残されがちであること」(38.8%)、「認知症に対する誤解や偏見に基づく不当な扱いを受けること」(36.5%)と続いている。
- 男女別に見ても回答傾向に大きな差異は見られないが、男性に比べ女性では「高齢者に対する暴力・虐待行為など、その人格が尊重されないこと」の回答割合が高くなっている(次ページの男女別クロス集計結果参照)。
- 年齢階層別に見ても、「高齢者を狙った悪徳商法や振り込め詐欺」と「孤立して暮らす高齢者が多いこと」は、いずれの階層においても高い割合となっているが、「20歳代」では「認知症に対する誤解や偏見に基づく不当な扱いを受けること」と「高齢者に対する暴力・虐待行為など、その人格が尊重されないこと」が「孤立して暮らす高齢者が多いこと」と同率の2位となっている(次々ページの年齢階層別クロス集計結果参照)。

《男女別クロス集計結果》

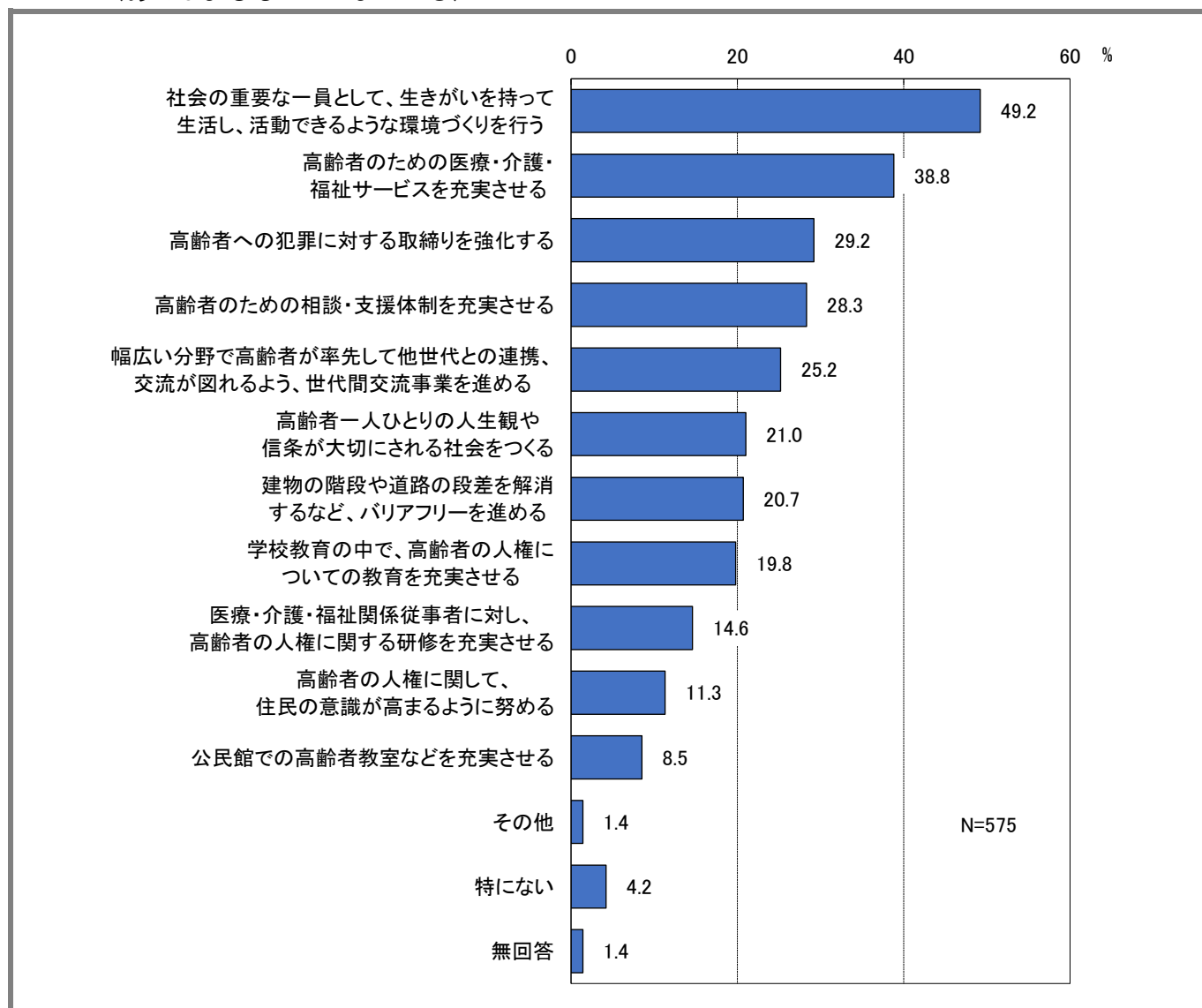


《年齢階層別クロス集計結果》



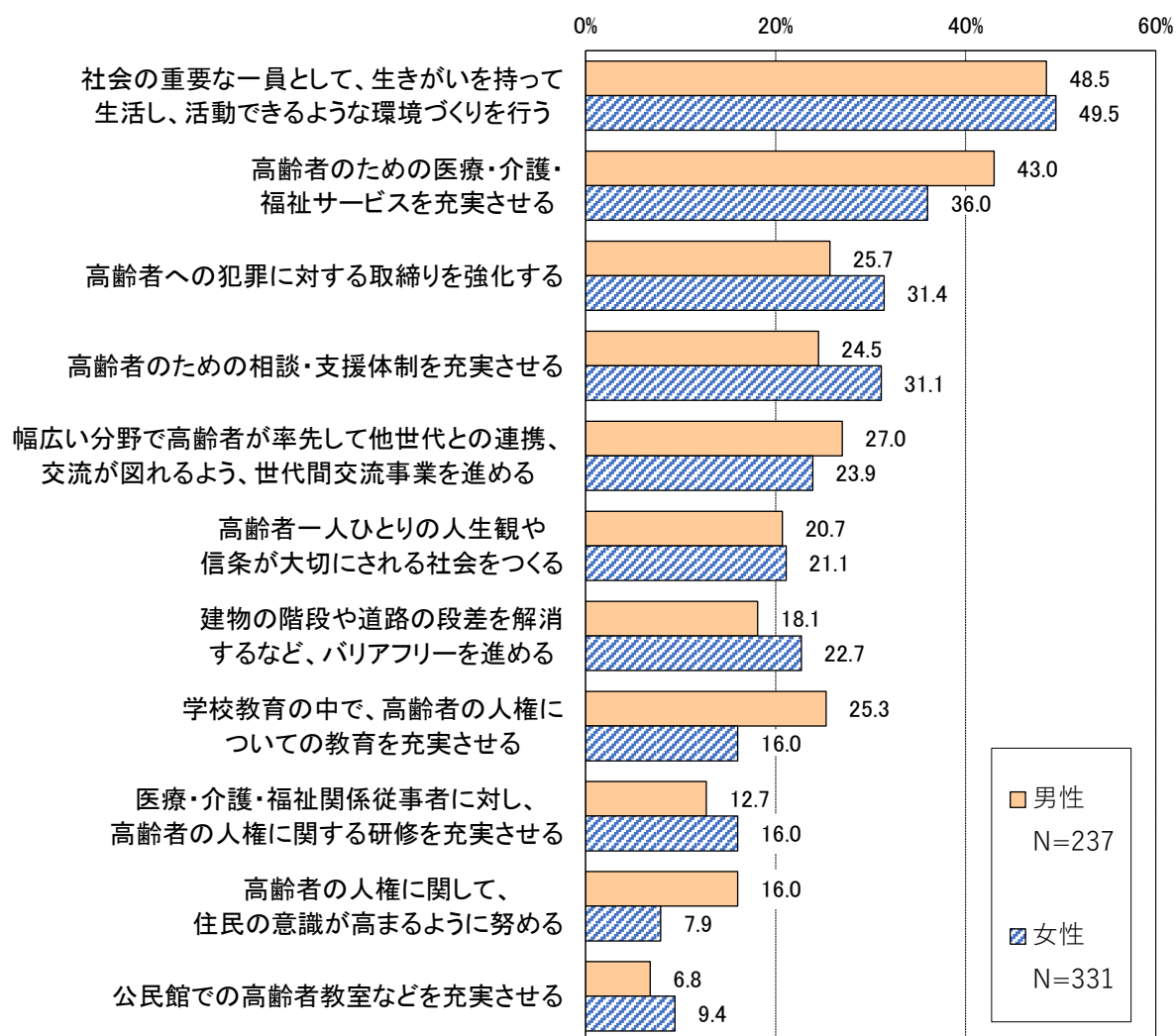
## 問11 高齢者の人権を守るために特に必要なことはどのようなことだと思いますか。

(あてはまるもの3つまでに○)



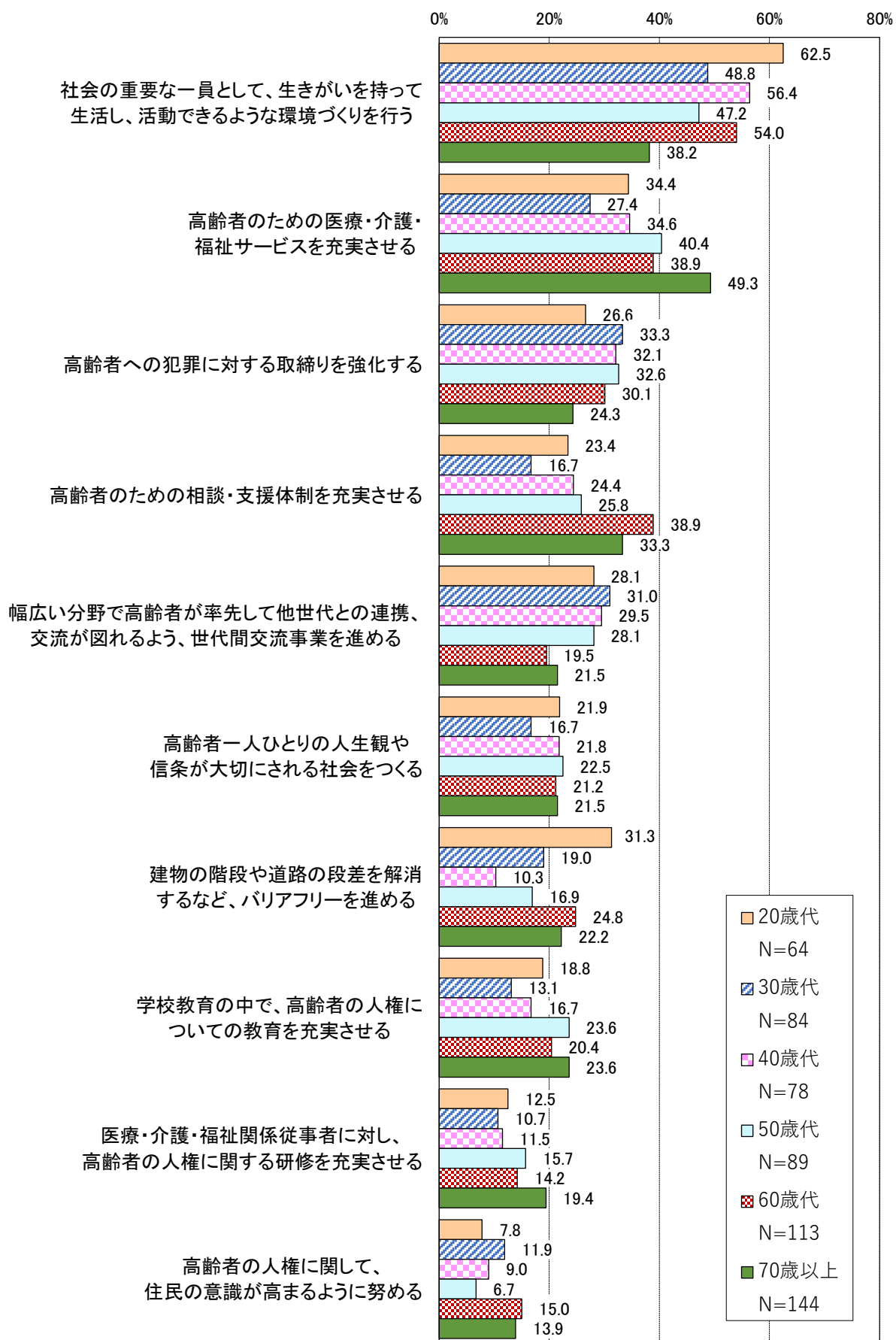
- 高齢者の人権を守るために特に必要なこととしては、「社会の重要な一員として、生きがいを持って生活し、活動できるような環境づくりを行う」を選択した人の割合が49.2%と最も高く、以下、「高齢者のための医療・介護・福祉サービスを充実させる」(38.8%)、「高齢者への犯罪に対する取締りを強化する」(29.2%)、「高齢者のための相談・支援体制を充実させる」(28.3%)と続いている。
- 男女別に見ても上位2項目に差異はないが、男性では「幅広い分野で高齢者が率先して他世代との連携、交流が図れるよう、世代間交流事業を進める」が3位にあがっている(次ページの男女別クロス集計結果参照)。
- 年齢階層別に見ると、「70歳以上」では「高齢者のための医療・介護・福祉サービスを充実させる」、その他の階層では「社会の重要な一員として、生きがいを持って生活し、活動できるような環境づくりを行う」の回答割合が最も高くなっている(次々ページの年齢階層別クロス集計結果参照)。

《男女別クロス集計結果》



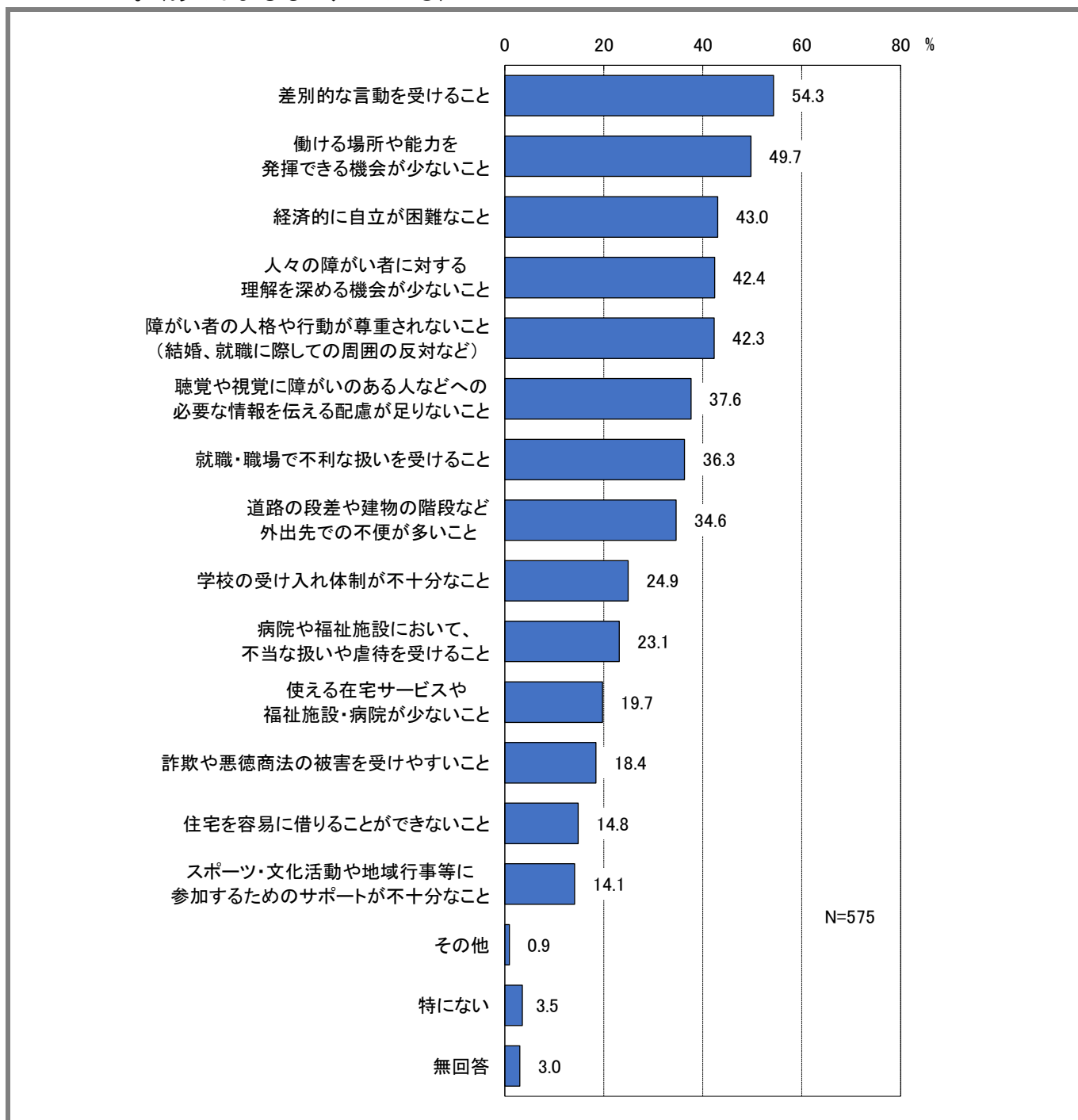


《年齢階層別クロス集計結果》



## VI. 障がい者の人権について

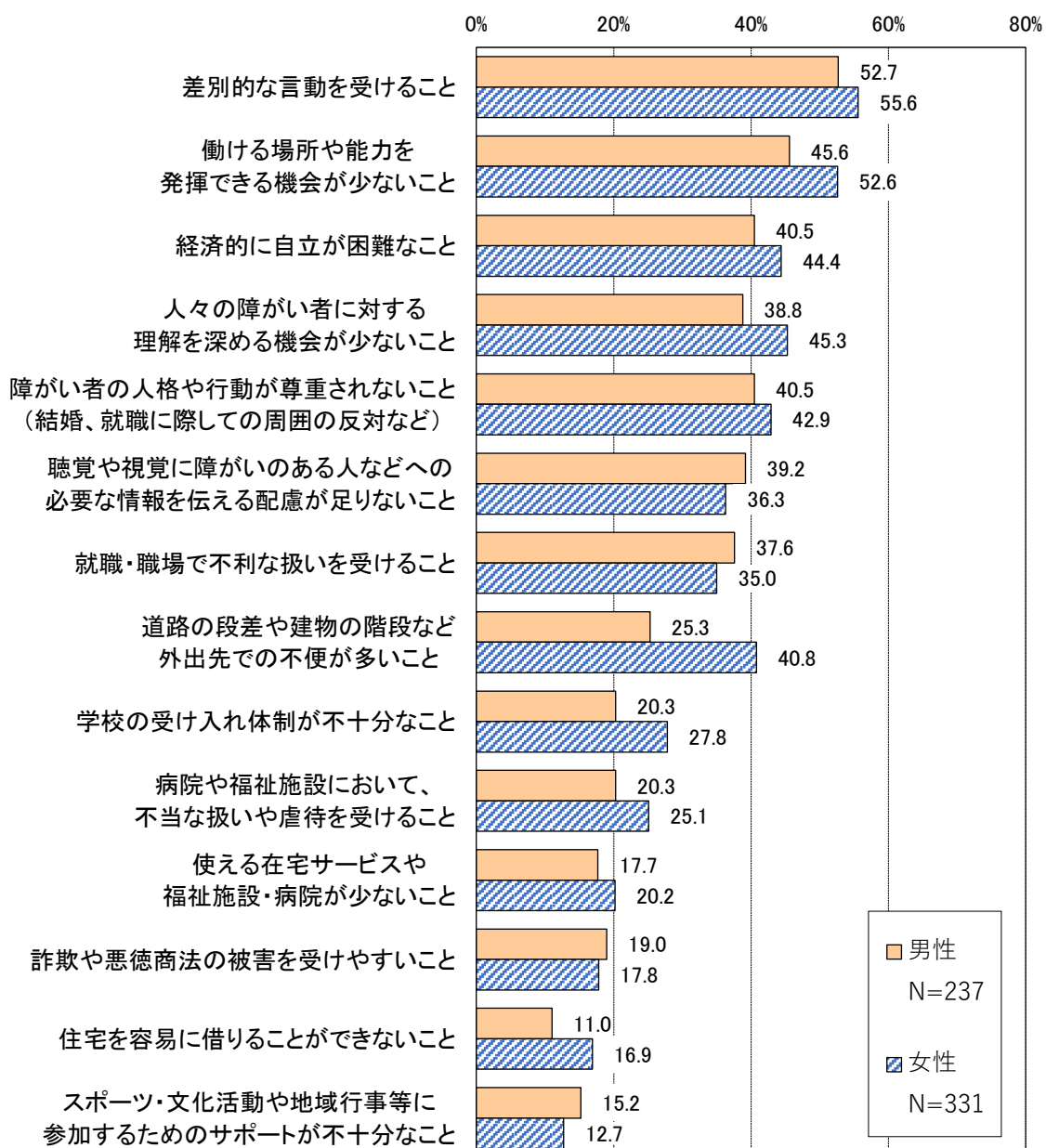
問12 障がい者に関する事柄で、あなたが特に人権上問題があると思われるのはどのようなことですか。(あてはまるものすべてに○)



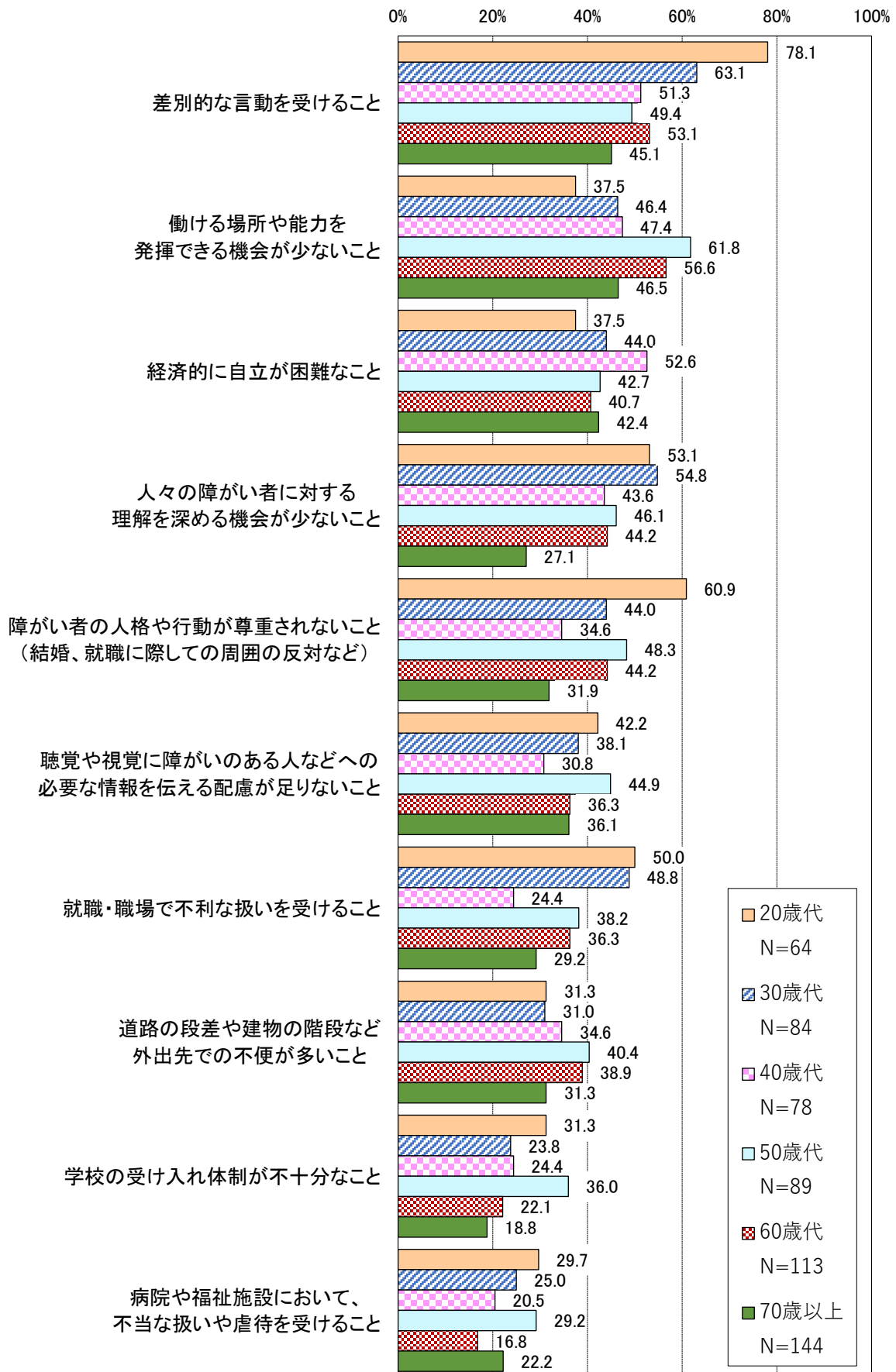
- 障がい者に関する事柄で、特に人権上の問題があると思われるものとしては、「差別的な言動を受けること」を選択した人の割合が54.3%と最も高く、以下、「働ける場所や能力を発揮できる機会が少ないこと」(49.7%)、「経済的に自立が困難なこと」(43.0%)、「人々の障がい者に対する理解を深める機会が少ないこと」(42.4%)、「障がい者の人格や行動が尊重されないこと(結婚、就職に際しての周囲の反対など)」(42.3%)と続いている。

- 男女別に見ても回答傾向に大きな差異は見られないが、「道路の段差や建物の階段など外出先での不便が多いこと」については男性に比べ女性の回答割合がかなり高くなっている（下記年齢階層別クロス集計結果参照）。
- 年齢階層別に見ると、「20歳代」「30歳代」では「差別的な言動を受けること」、「40歳代」では「経済的に自立が困難なこと」、50歳以上では「働ける場所や能力を發揮できる機会が少ないこと」がそれぞれ最も高い回答割合となっている（次ページの年齢階層別クロス集計結果参照）。

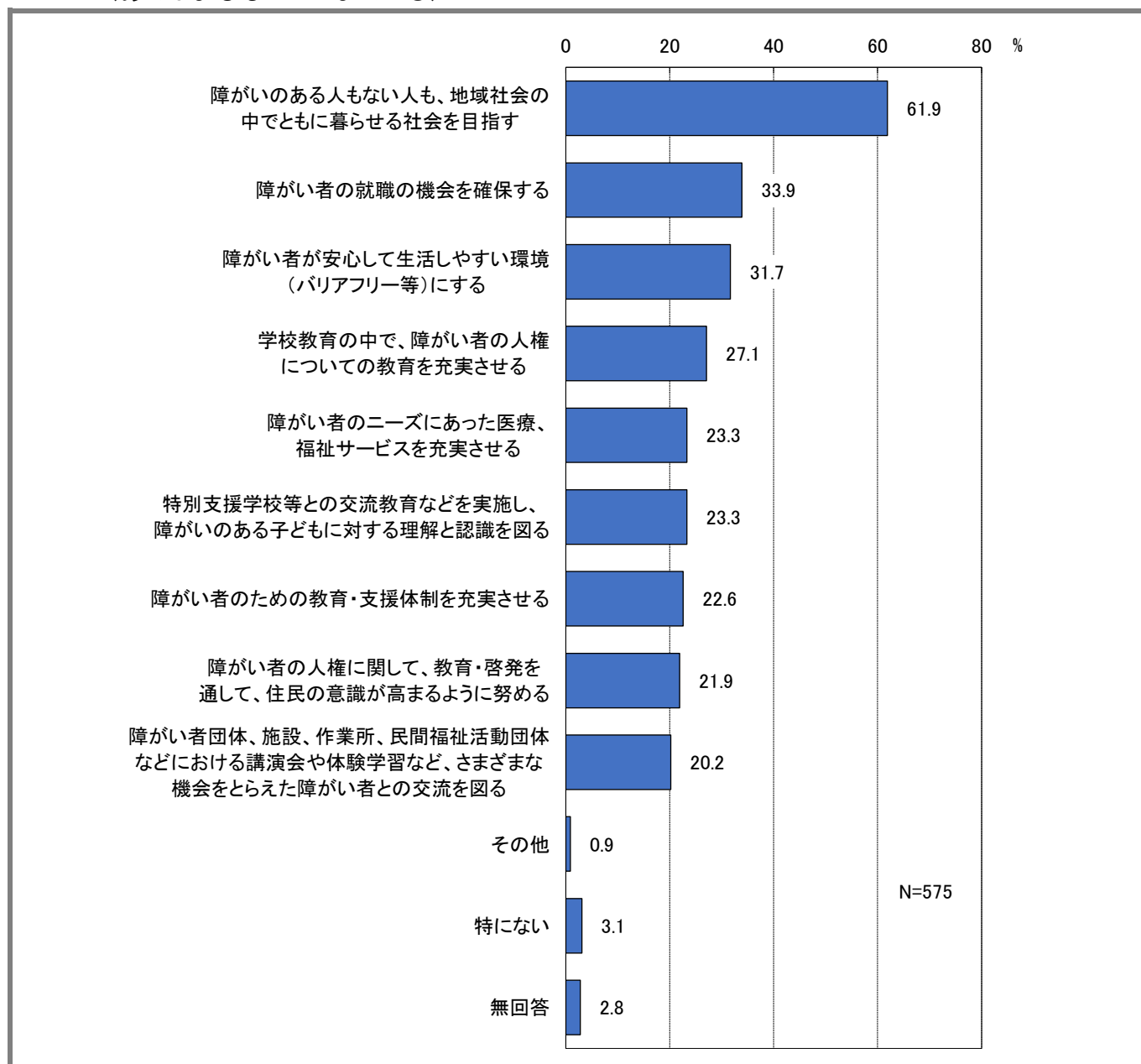
## 《男女別クロス集計結果》



《年齢階層別クロス集計結果（上位10項目抜粋）》



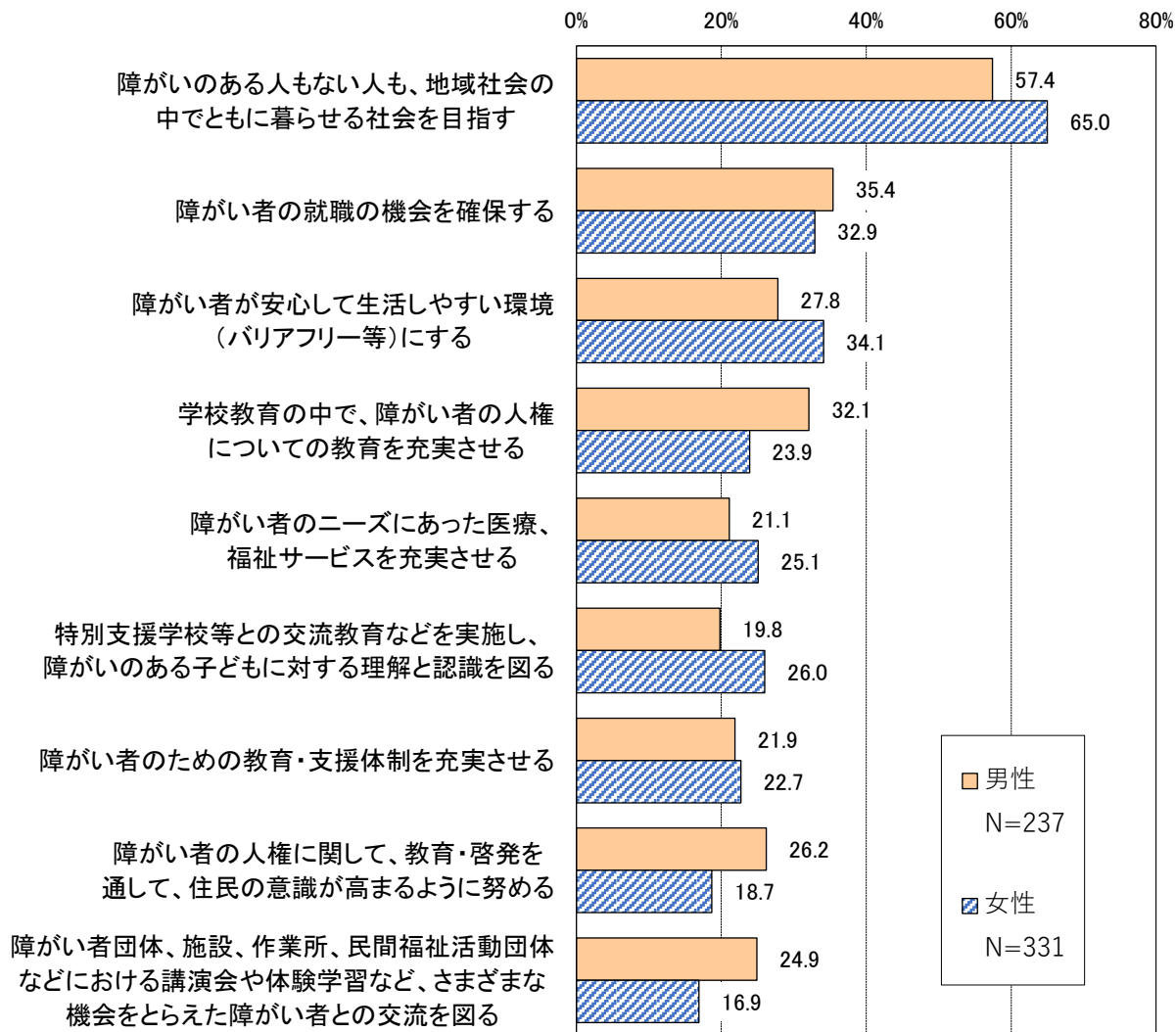
問13 障がい者の人権を守るために特に必要なことはどのようなことだと思いますか。  
(あてはまるもの3つまでに○)



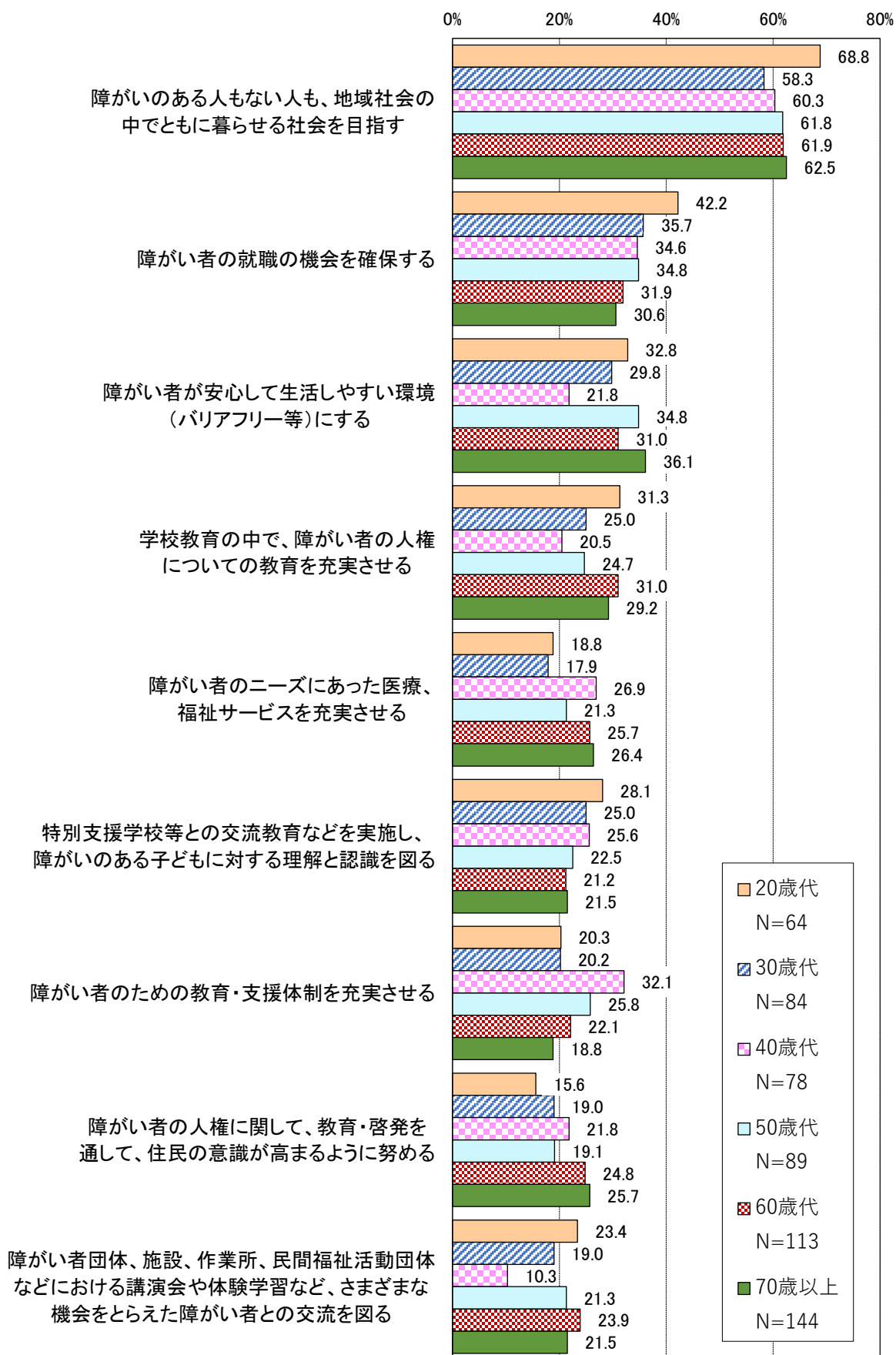
- 障がい者の人権を守るために特に必要なこととしては、「障がいのある人もない人も、地域社会の中でともに暮らせる社会を目指す」を選択した人の割合が61.9%と最も高く、以下、「障がい者の就職の機会を確保する」(33.9%)、「障がい者が安心して生活しやすい環境（バリアフリー等）にする」(31.7%)、「学校教育の中で、障がい者の人権についての教育を充実させる」(27.1%)と続いている。
- 男女別に見ても回答傾向に大きな差異は見られないが、女性では「障がい者の就職の機会を確保する」よりも「障がい者が安心して生活しやすい環境（バリアフリー等）にする」の回答割合の方がやや高く、男性では「障がい者が安心して生活しやすい環境（バリアフリー等）にする」よりも「学校教育の中で、障がい者の人権についての教育を充実させる」の回答割合の方がやや高くなっている（次ページの男女別クロス集計結果参照）。

- 年齢階層別に見ても、「障がいのある人もない人も、地域社会の中でともに暮らせる社会を目指す」を筆頭に回答傾向に大きな差異はないが、「40歳代」では「障がい者のための教育・支援体制を充実させる」が3位にあがっている（次ページの年齢階層別クロス集計結果参照）。

《男女別クロス集計結果》

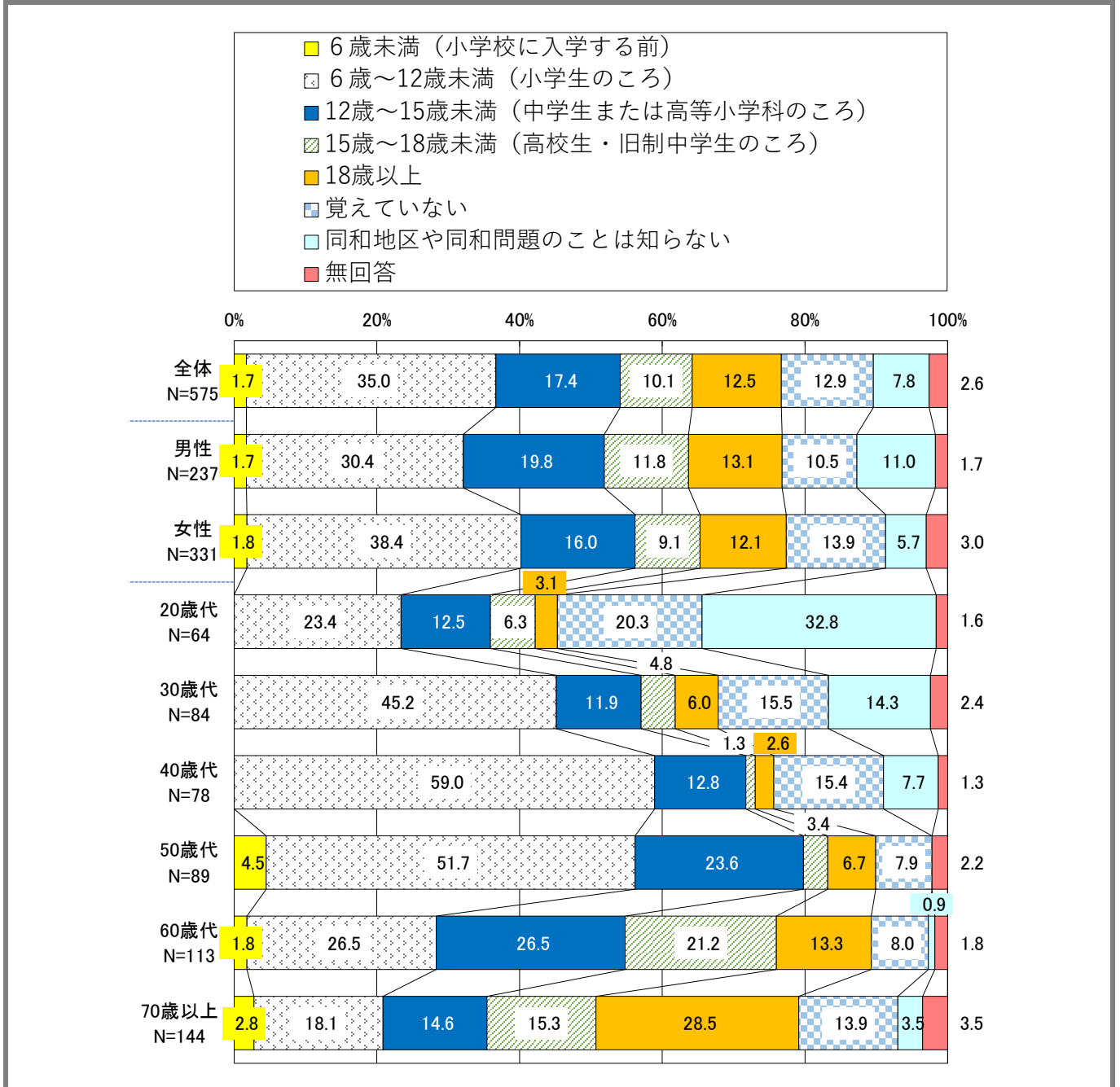


《年齢階層別クロス集計結果》



## Ⅶ. 同和問題について

問14 あなたが日本の社会に同和地区や同和問題があるということをはじめて知ったのはいつごろですか。(1つに○)

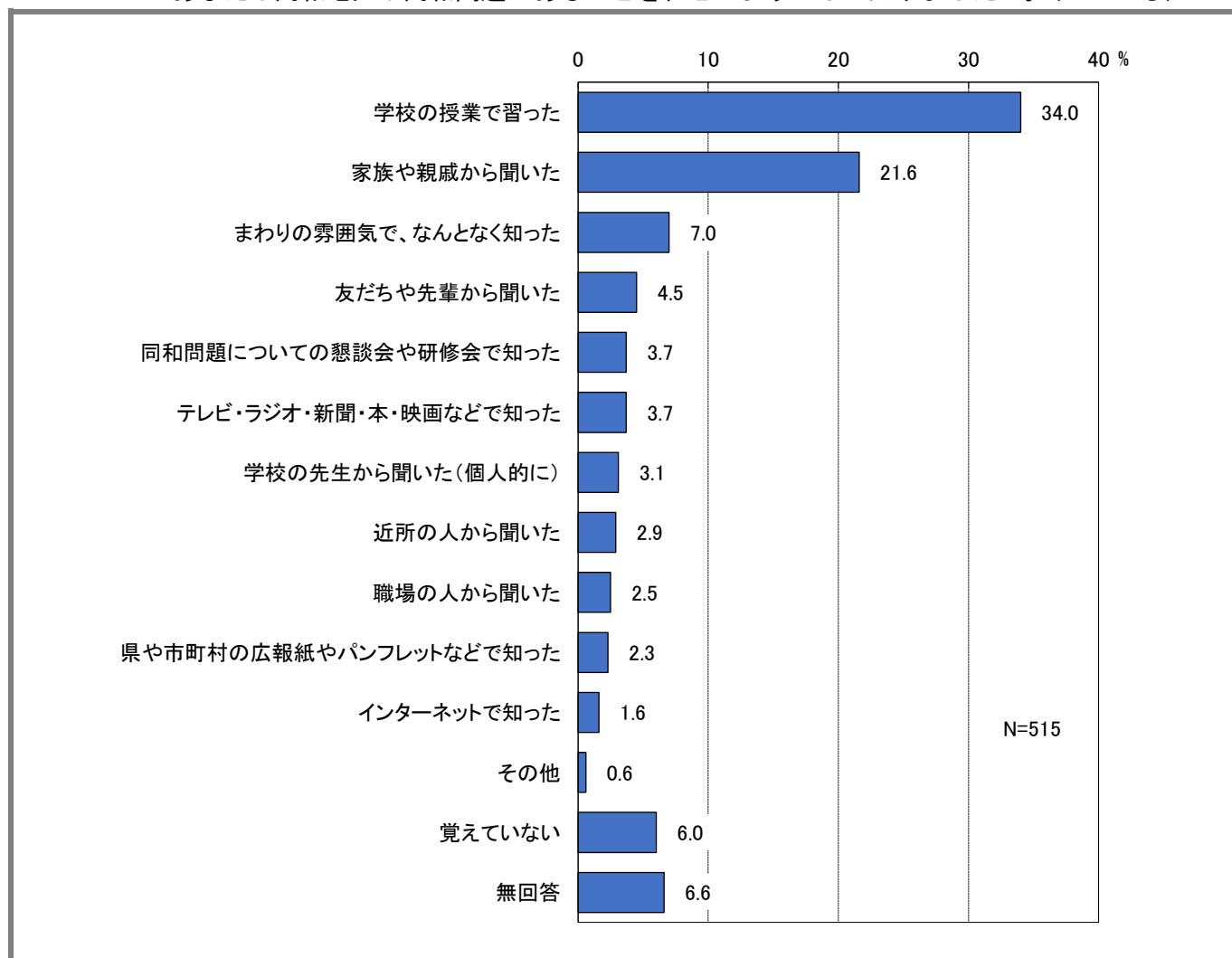


- 同和地区や同和問題があるということをはじめて知った時期については、「6歳～12歳未満 (小学生のころ)」が全体の35.0%と最も多くなっており、「12歳～15歳未満 (中学生または高等小学校のころ)」が17.4%で、それに続いている。
- 年齢階層別に見ると、「20歳代」では「同和地区や同和問題のことは知らない」と回答した人の割合が32.8%と最も高くなっている。



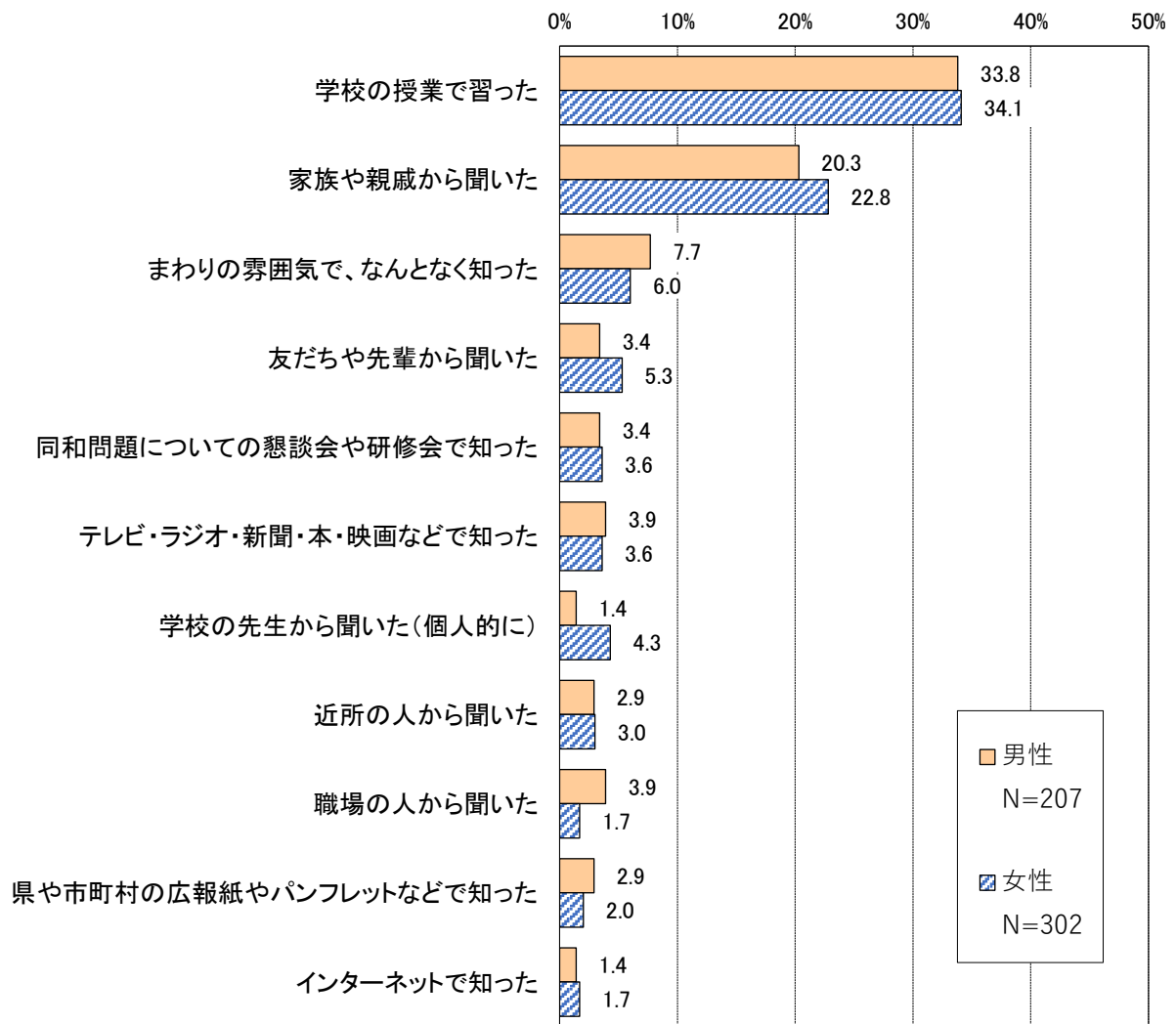
## 問14-1 (問14で「1」～「6」と答えた方へ)

あなたは同和地区や同和問題のあることを、どのようにして知りましたか。(1つに○)

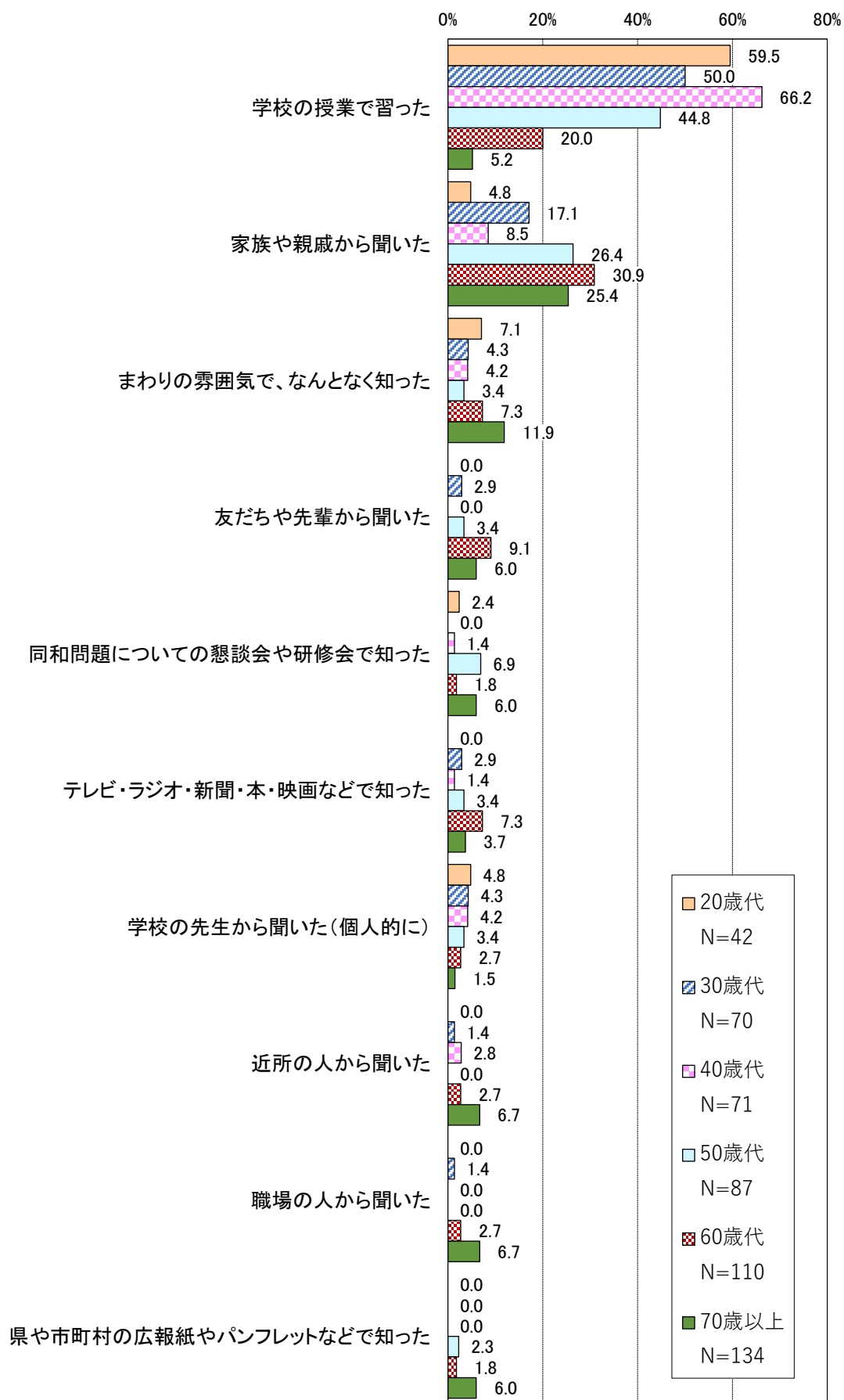


- 同和地区や同和問題があるということを知っていた人に、どのようにしてそれを知ったかを尋ねたところ、「学校の授業で習った」を選択した人の割合が34.0%と最も高く、「家族や親戚から聞いた」が21.6%で、それに続いている。
- 男女別に見ても回答傾向に大きな差異は見られない(次ページの男女別クロス集計結果参照)。
- 年齢階層別に見ると、「20歳代」から「50歳代」までは「学校の授業で習った」の回答割合が圧倒的に高くなっているが、「60歳代」以上ではその割合が低くなり、「家族や親戚から聞いた」の回答割合が最も高くなっている(次々ページの年齢階層別クロス集計結果参照)。

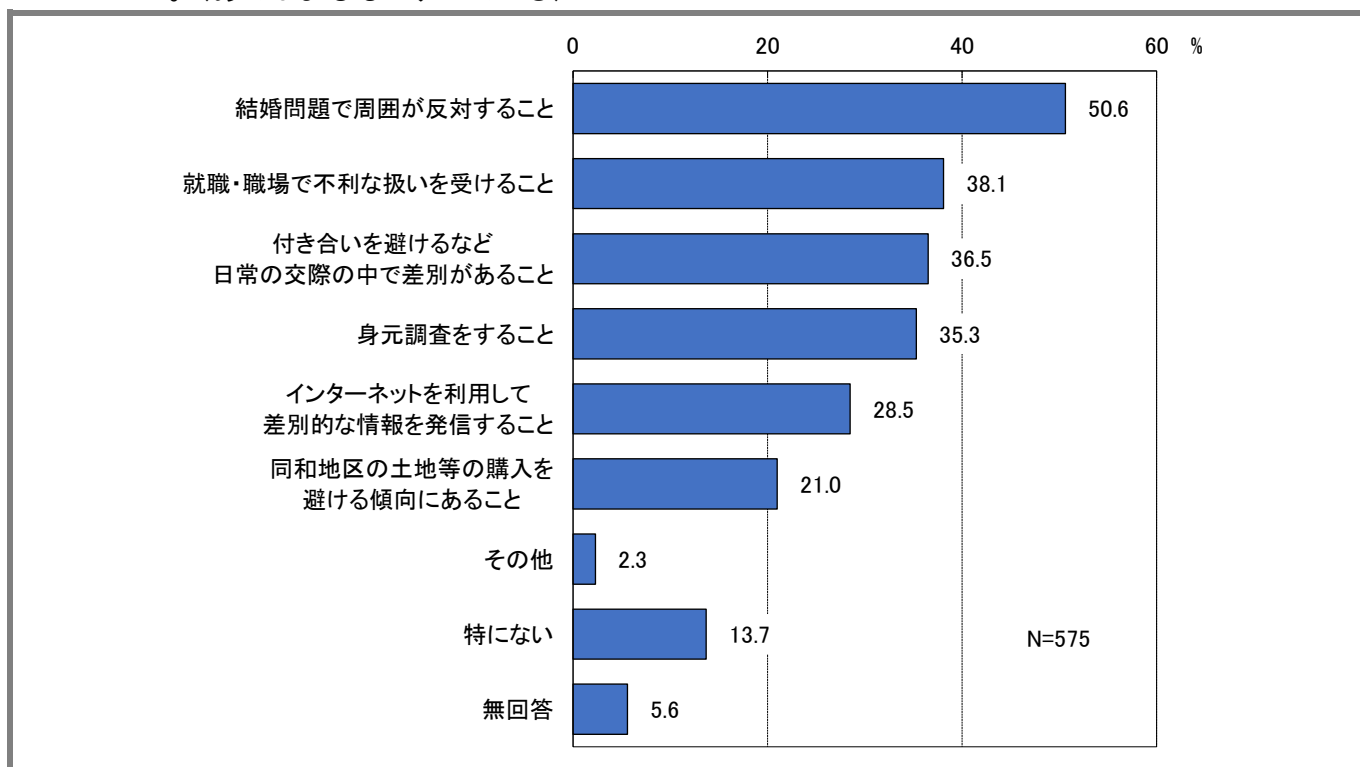
《男女別クロス集計結果》



《年齢階層別クロス集計結果》

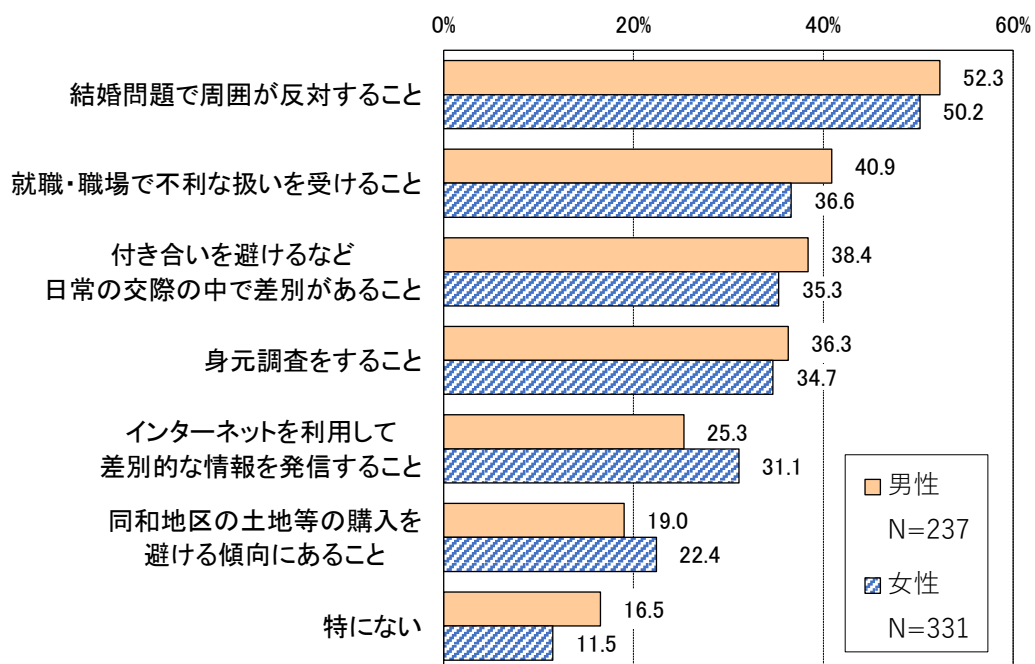


問15 同和問題に関する事柄で、あなたが特に人権上問題があると思われるのはどのような事柄ですか。(あてはまるものすべてに○)

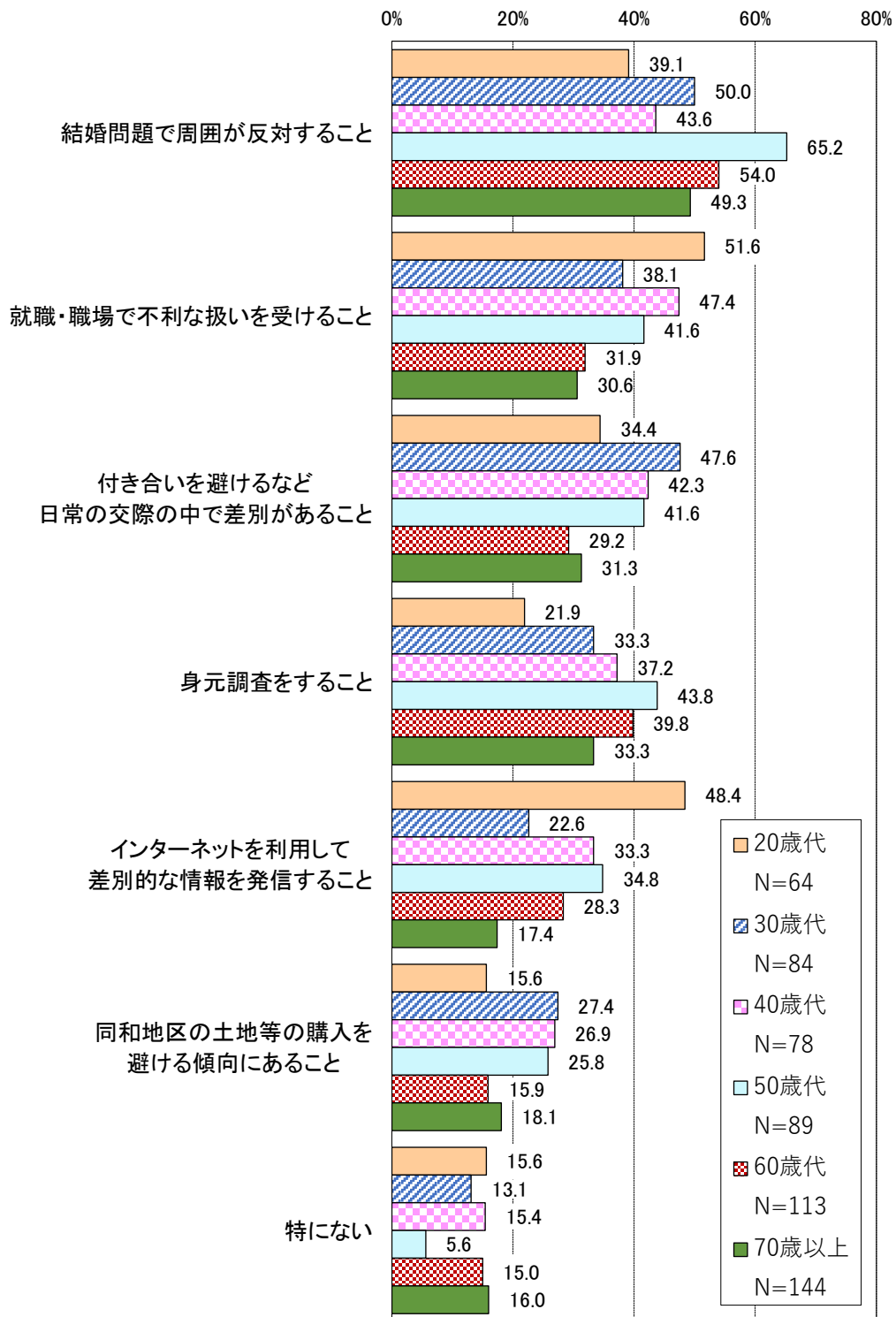


- 同和問題に関する事柄で、特に人権上の問題があると思われるものとしては、「結婚問題で周囲が反対すること」を選択した人の割合が50.6%と最も高く、以下、「就職・職場で不利な扱いを受けること」(38.1%)、「付き合いを避けるなど日常の交際の中で差別があること」(36.5%)、「身元調査をすること」(35.3%)と続いている。
- 男女別に見ても回答傾向に大きな差異は見られない(次ページの男女別クロス集計結果参照)。
- 年齢階層別に見ると、「20歳代」と「40歳代」では「就職・職場で不利な扱いを受けること」、その他の階層では「結婚問題で周囲が反対すること」がそれぞれ最も高い回答割合となっている(次々ページの年齢階層別クロス集計結果参照)。
- 「インターネットを利用して差別的な情報を発信すること」については、他の年齢階層に比べ「20歳代」で特に高い割合となっている(次々ページの年齢階層別クロス集計結果参照)。

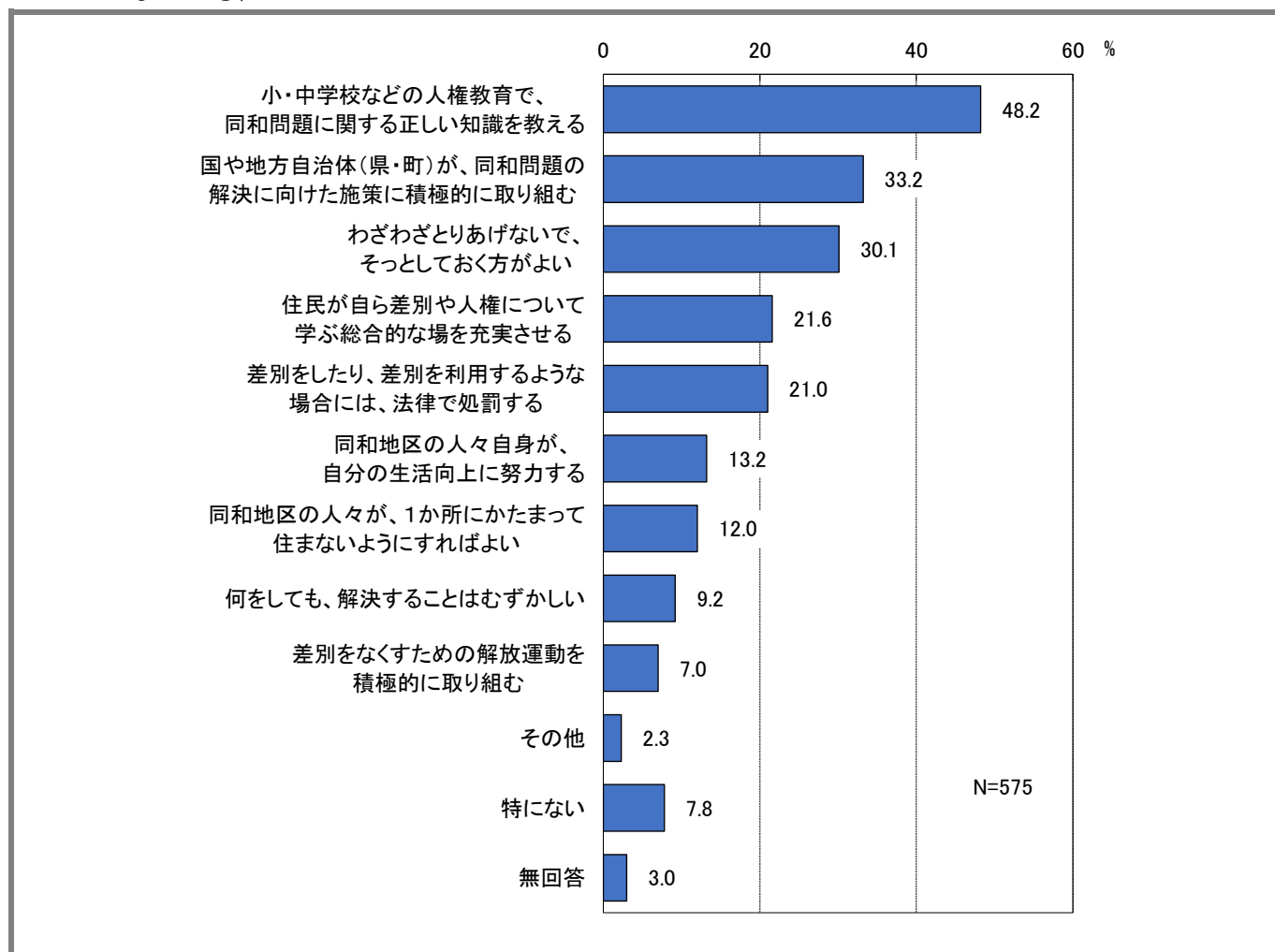
## 《男女別クロス集計結果》



《年齢階層別クロス集計結果》

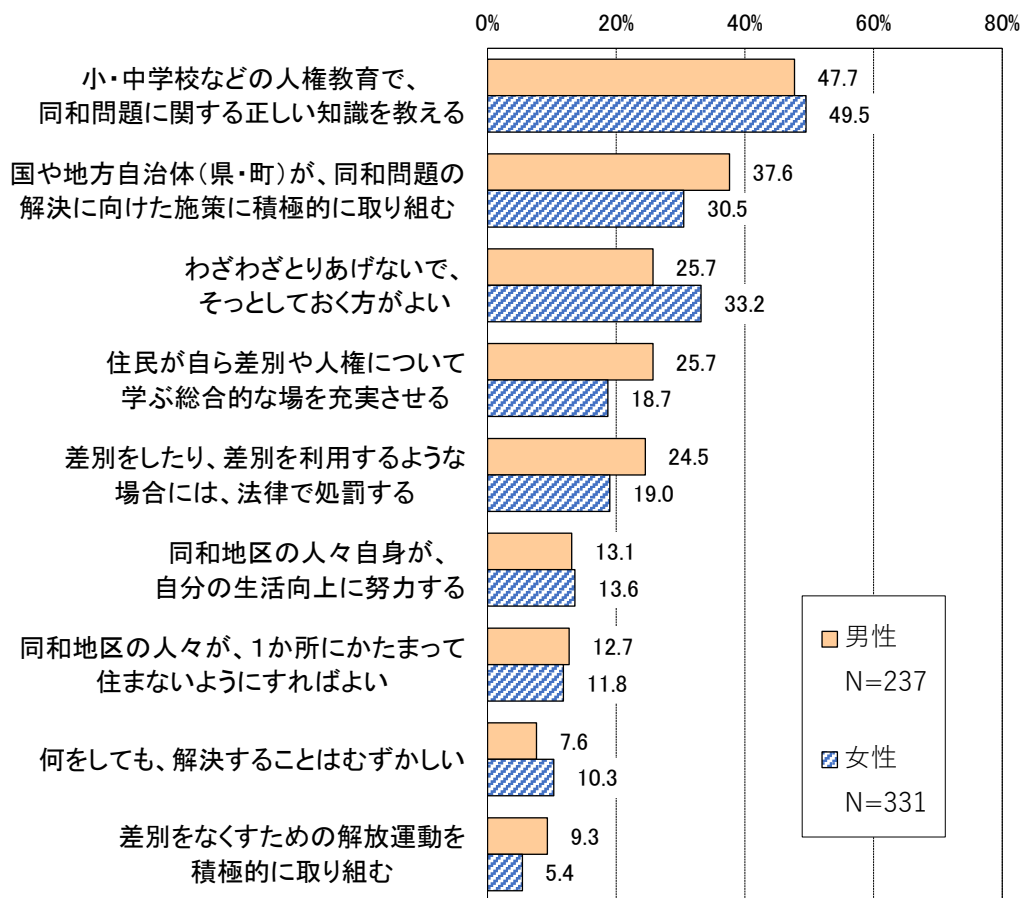


問16 同和問題を解決するためには、どのような方法が望ましいと思いますか。(あてはまるもの3つまでに○)



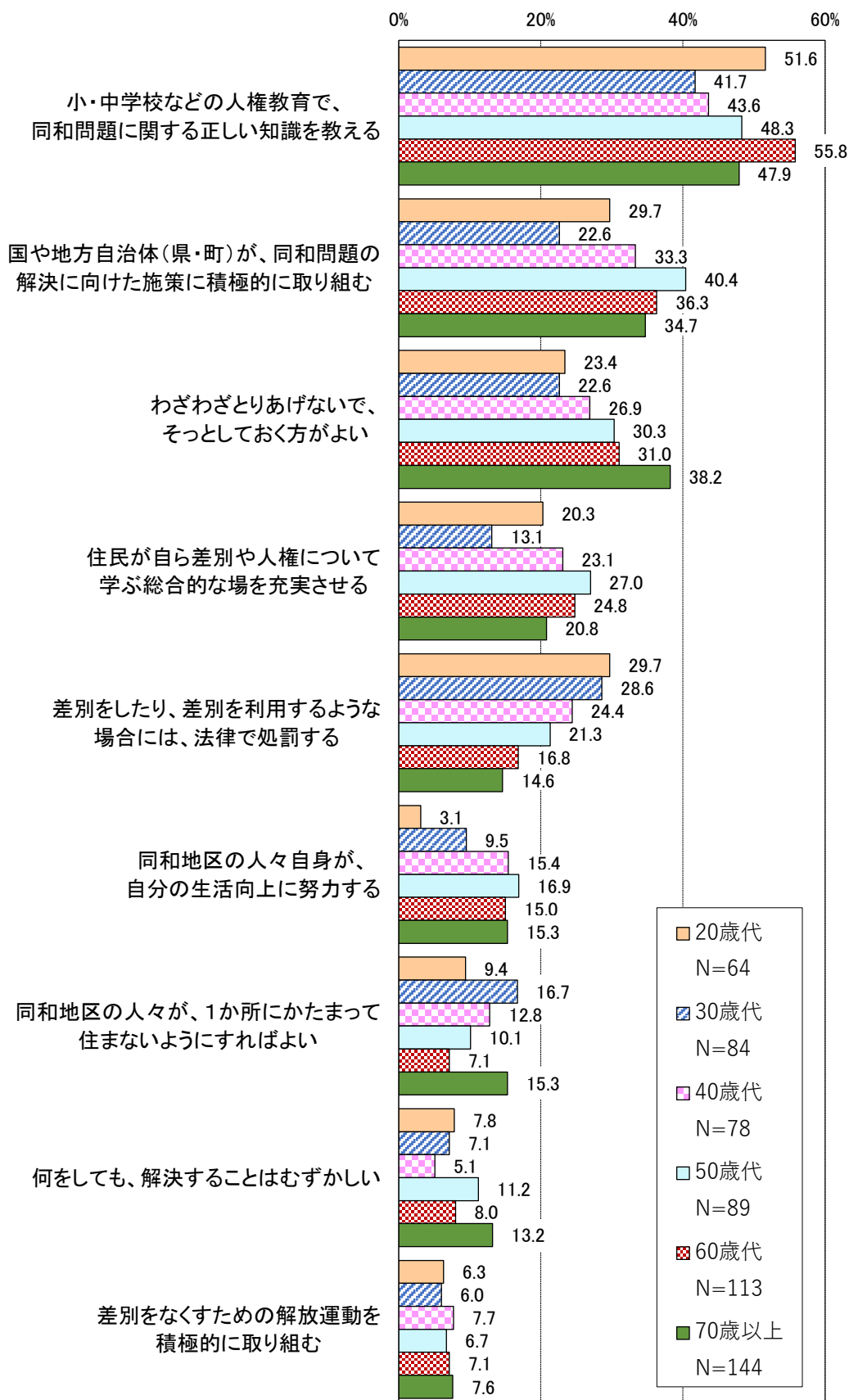
- 同和問題の解決方法として望ましい方法としては、「小・中学校などの人権教育で、同和問題に関する正しい知識を教える」を選択した人の割合が48.2%と最も高く、以下、「国や地方自治体(県・町)が、同和問題の解決に向けた施策に積極的に取り組む」(33.2%)、「わざわざとりあげないで、そっとしておく方がよい」(30.1%)、「住民が自ら差別や人権について学ぶ総合的な場を充実させる」(21.6%)、「差別をしたり、差別を利用するような場合には、法律で処罰する」(21.0%)と続いている。
- 男女別に見ても回答傾向に大きな差異は見られないが、女性では「国や地方自治体(県・町)が、同和問題の解決に向けた施策に積極的に取り組む」よりも「わざわざとりあげないで、そっとしておく方がよい」の回答割合の方がやや高くなっている(次ページの男女別クロス集計結果参照)。
- 年齢階層別に見ると、いずれの階層においても「小・中学校などの人権教育で、同和問題に関する正しい知識を教える」という回答割合が最も高くなっており、「20歳代」では「国や地方自治体(県・町)が、同和問題の解決に向けた施策に積極的に取り組む」と「差別をしたり、差別を利用するような場合には、法律で処罰する」、「30歳代」では「差別をしたり、差別を利用するような場合には、法律で処罰する」、「40歳代」から「60歳代」では「国や地方自治体(県・町)が、同和問題の解決に向けた施策に積極的に取り組む」、「70歳以上」では「わざわざとりあげないで、そっとしておく方がよい」がそれぞれ2番目に高い割合となっている(次々ページの年齢階層別クロス集計結果参照)。

《男女別クロス集計結果》



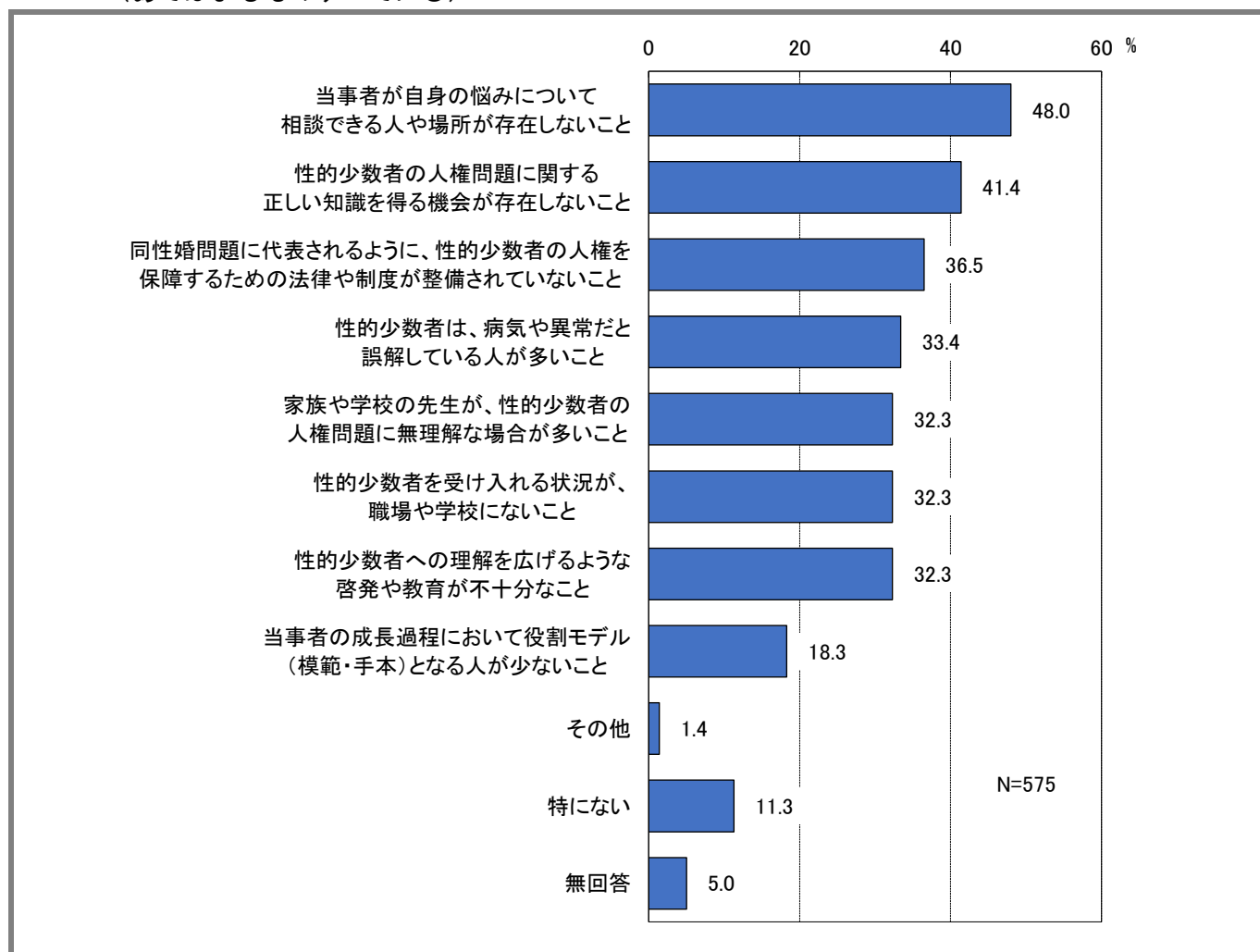


《年齢階層別クロス集計結果》



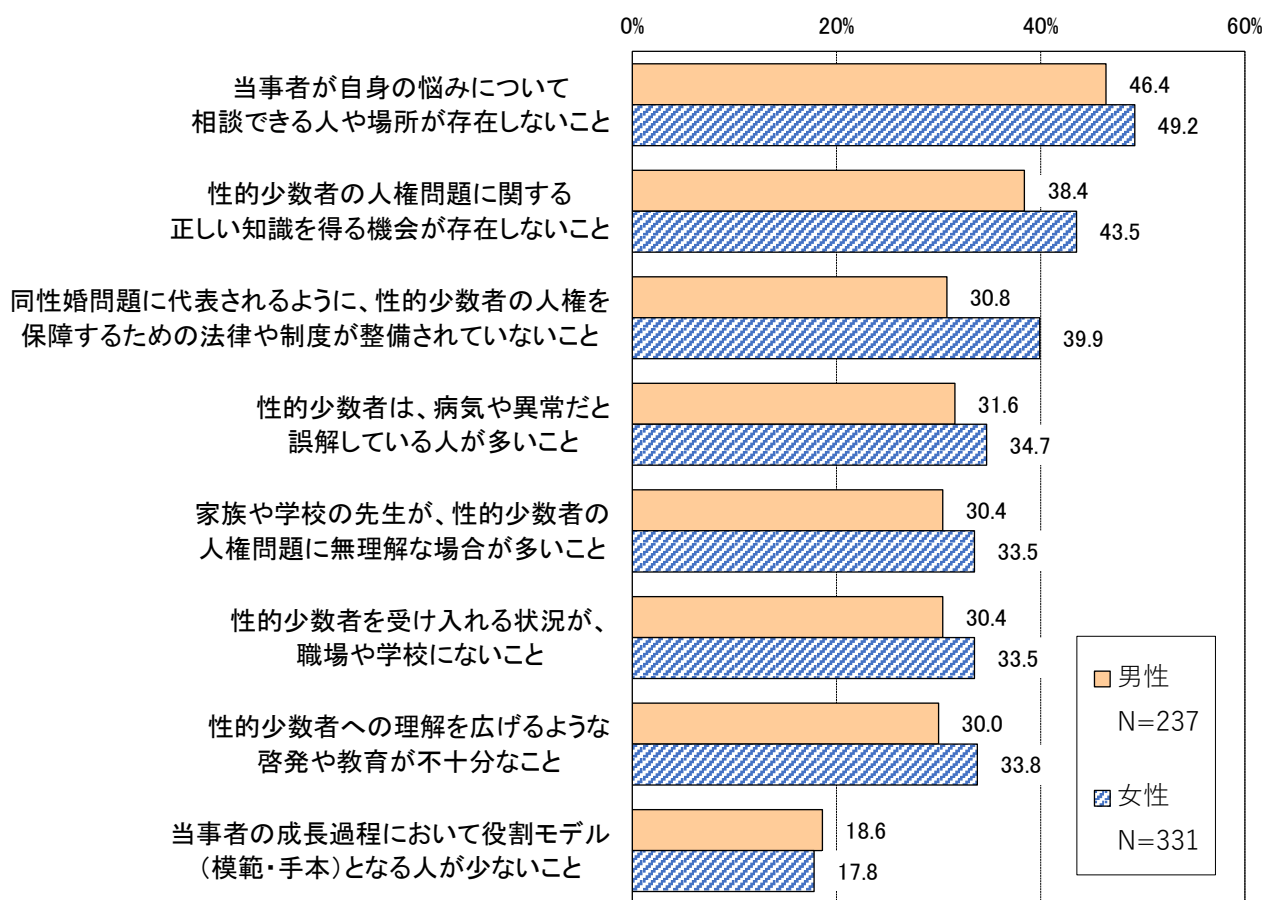
## Ⅷ. 性的少数者の人権について

問17 「性自認（こころの性）」や「性的指向（同性愛・両性愛等）」に起因する、性的少数者の人権に関する事柄で、あなたが特に人権上問題があると思われるのはどのようなことですか。  
（あてはまるものすべてに○）

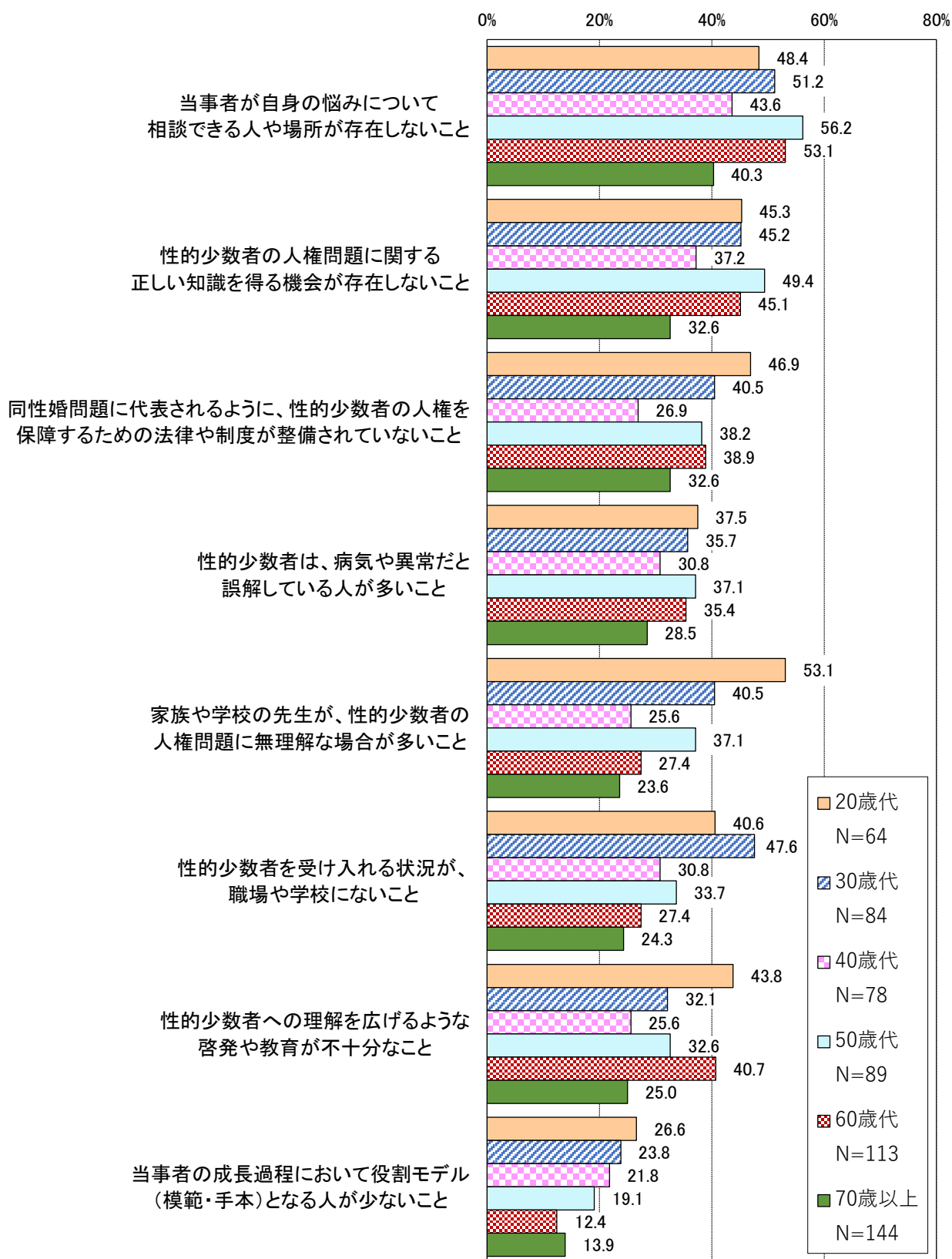


- 性的少数者の人権に関する事柄で、特に人権上の問題があると思われるものとしては、「当事者が自身の悩みについて相談できる人や場所が存在しないこと」を選択した人の割合が48.0%と最も高く、以下、「性的少数者の人権問題に関する正しい知識を得る機会が存在しないこと」（41.4%）、「同性婚問題に代表されるように、性的少数者の人権を保障するための法律や制度が整備されていないこと」（36.5%）、「性的少数者は、病気や異常だと誤解している人が多いこと」（33.4%）と続いている。
- 男女別に見ても回答傾向に大きな差異は見られない（次ページの男女別クロス集計結果参照）。
- 年齢階層別に見ると、「20歳代」では「家族や学校の先生が、性的少数者の人権問題に無理解な場合が多いこと」、その他の階層では「当事者が自身の悩みについて相談できる人や場所が存在しないこと」がそれぞれ最も高い回答割合となっている（次々ページの年齢階層別クロス集計結果参照）。

《男女別クロス集計結果》

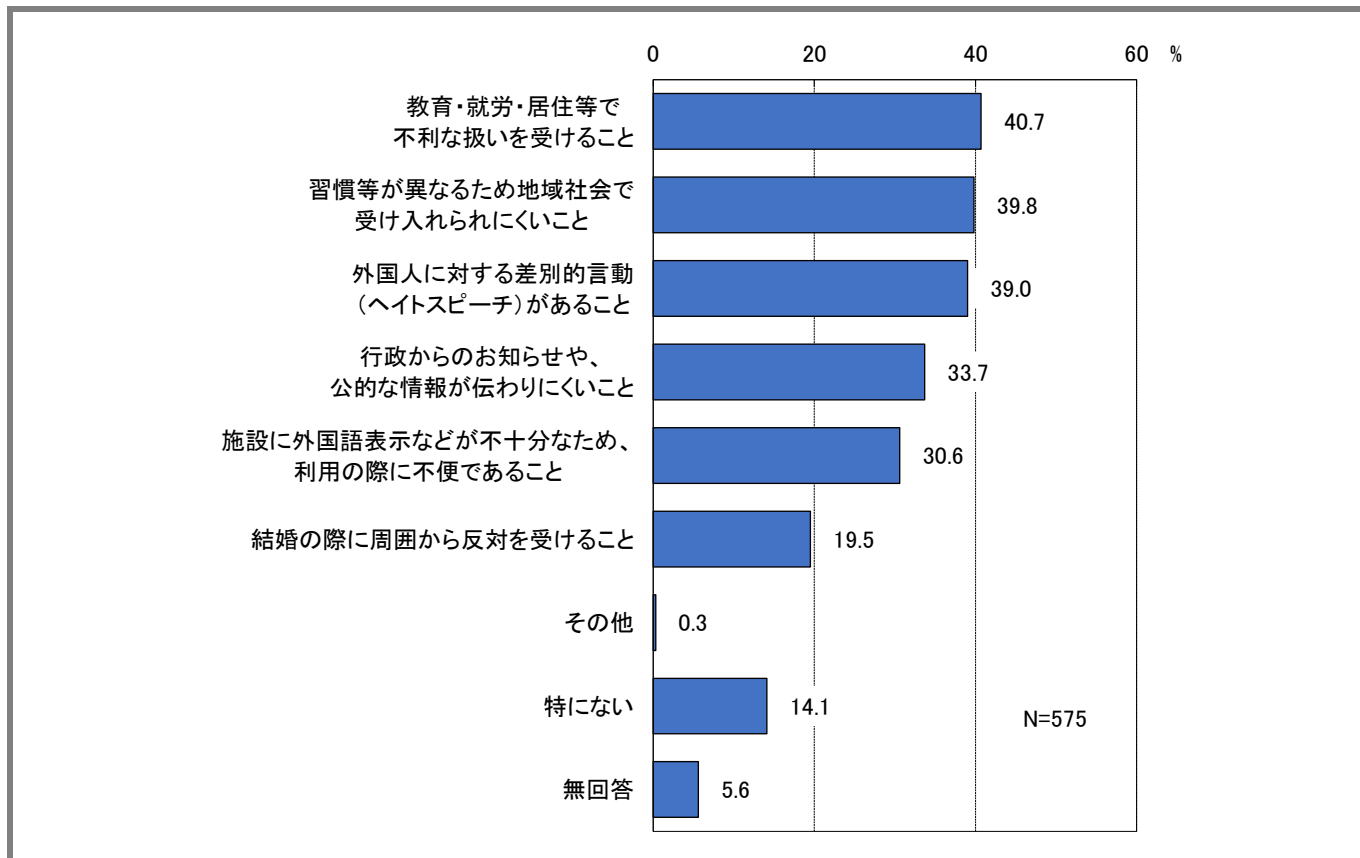


《年齢階層別クロス集計結果》



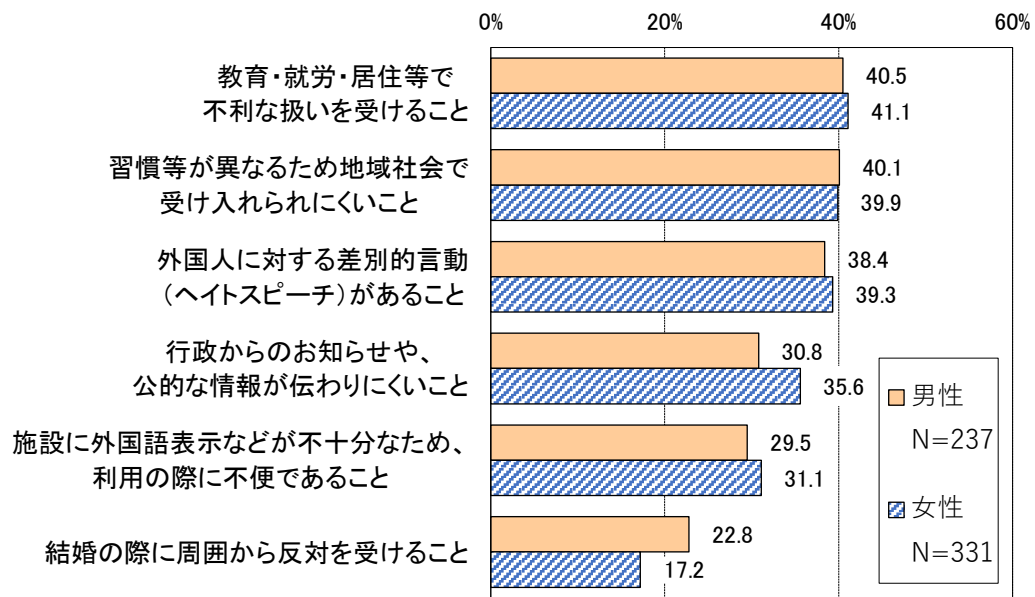
## Ⅸ. 外国人の人権について

問18 外国人に関する事柄で、あなたが特に人権上問題があると思われるのはどのようなことですか。  
(あてはまるものすべてに○)

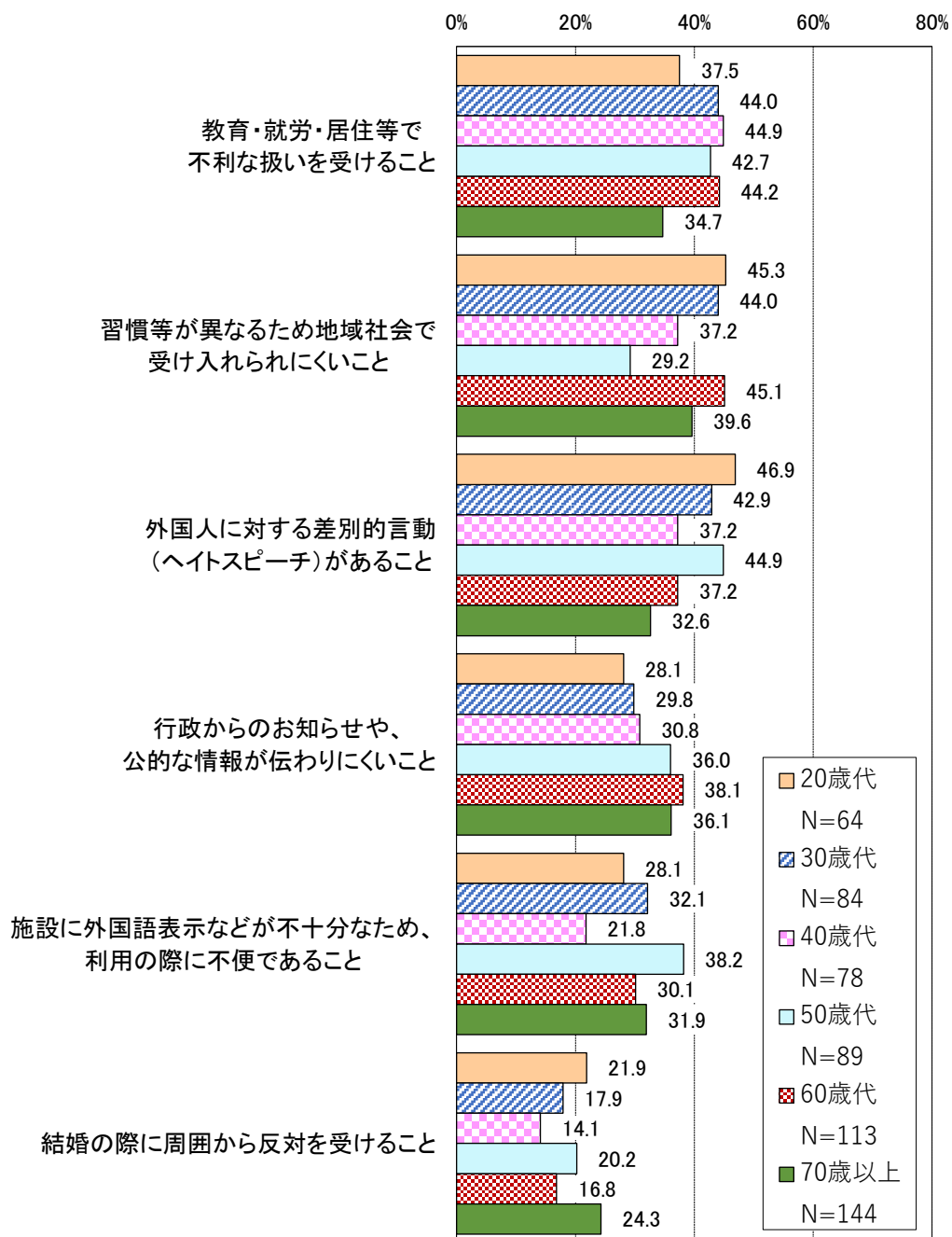


- 外国人に関する事柄で、特に人権上の問題があると思われるものとしては、「教育・就労・居住等で不利な扱いを受けること」を選択した人の割合が40.7%と最も高く、以下、「習慣等が異なるため地域社会で受け入れられにくいこと」(39.8%)、「外国人に対する差別的言動(ヘイトスピーチ)があること」(39.0%)、「行政からのお知らせや、公的な情報が伝わりにくいこと」(33.7%)と続いている。
- 男女別に見ても回答傾向に大きな差異は見られない(次ページの男女別クロス集計結果参照)。
- 年齢階層別に見ると、「20歳代」と「50歳代」では「外国人に対する差別的言動(ヘイトスピーチ)があること」、その他の階層では「教育・就労・居住等で不利な扱いを受けること」がそれぞれ最も高い回答割合となっている(次々ページの年齢階層別クロス集計結果参照)。

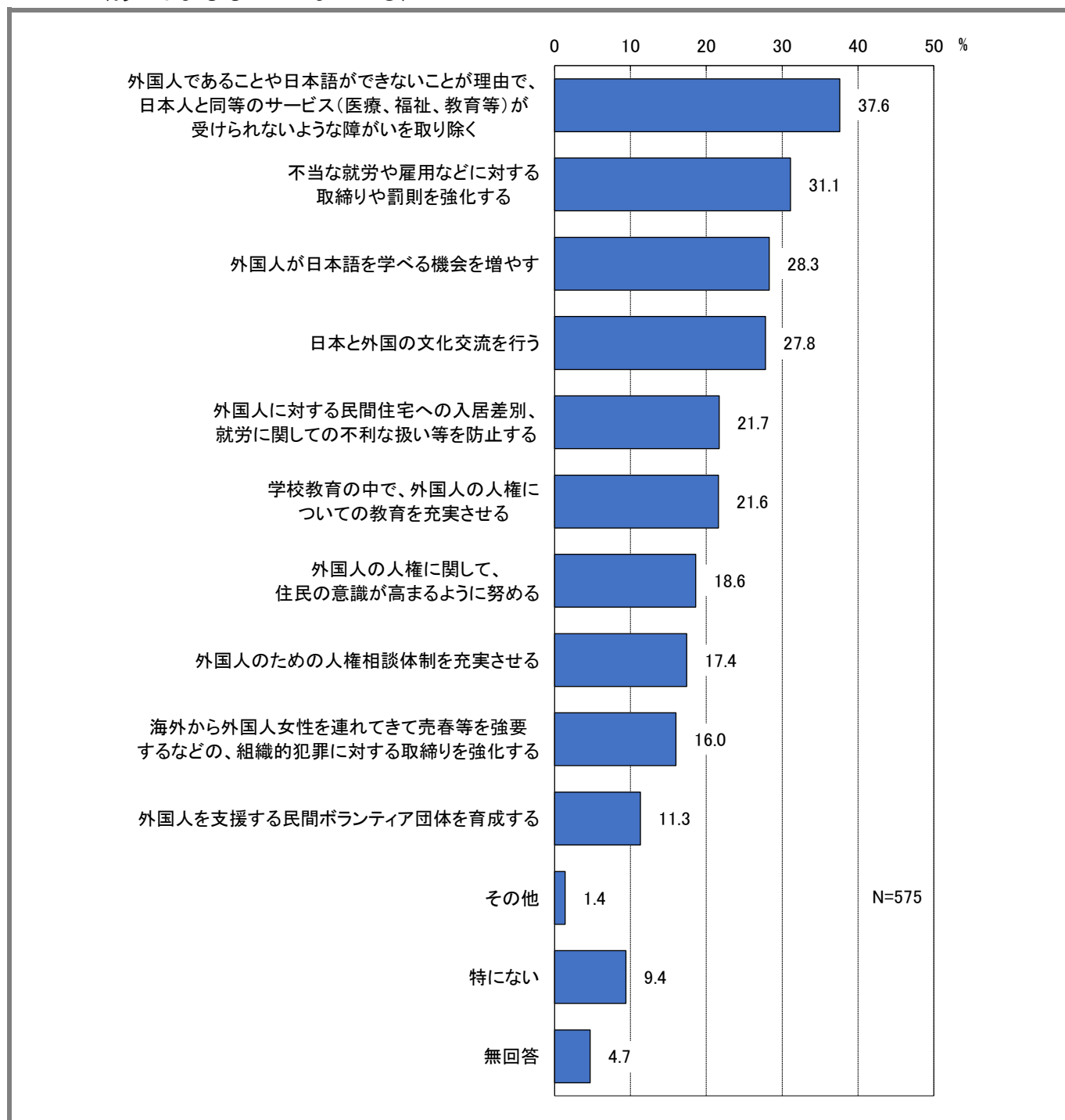
《男女別クロス集計結果》



《年齢階層別クロス集計結果》



問19 外国人の人権を守るために特に必要なことはどのようなことだと思いますか。  
(あてはまるもの3つまでに○)

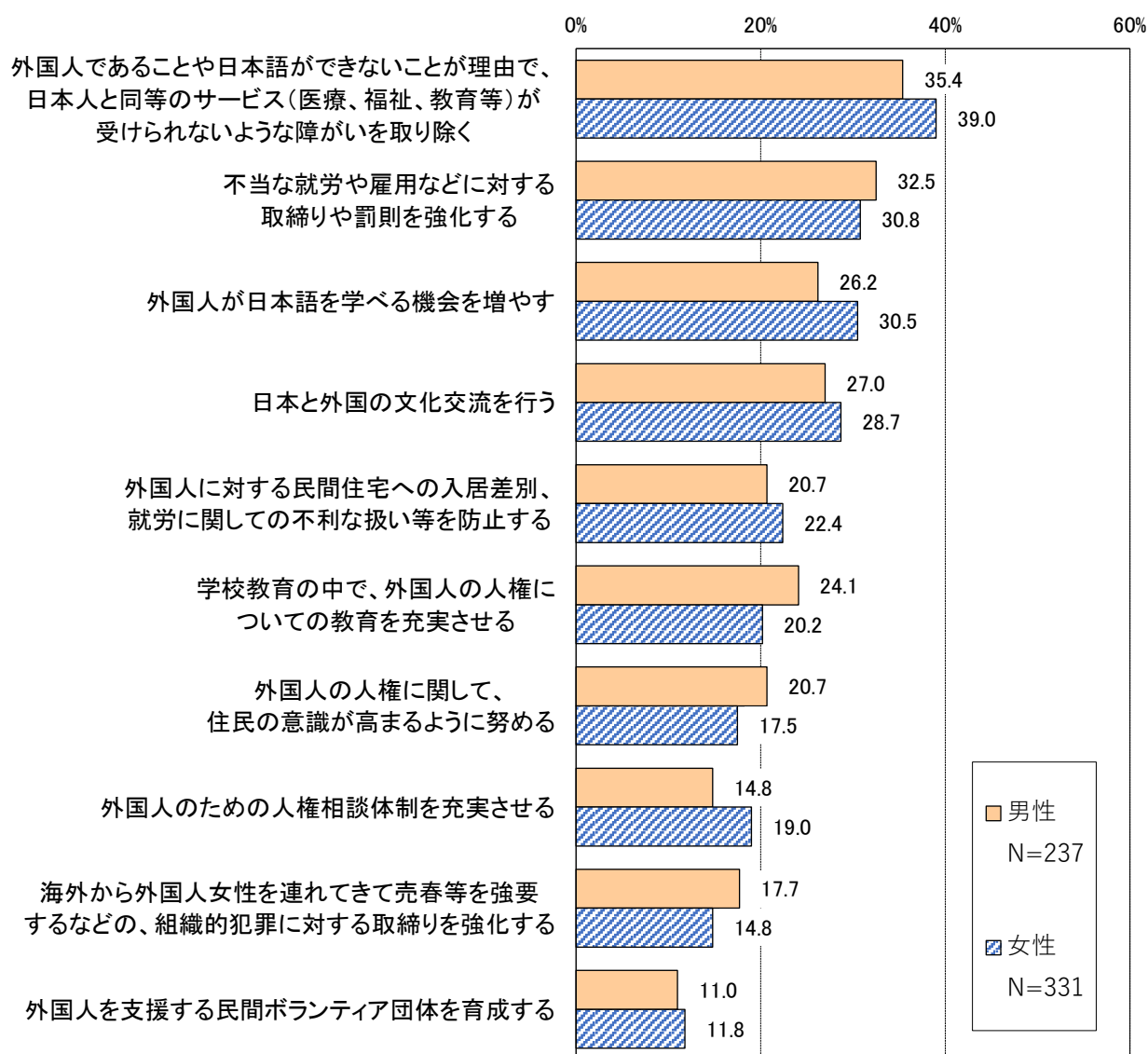


- 外国人の人権を守るために特に必要なこととしては、「外国人であることや日本語ができないことが理由で、日本人と同等のサービス（医療、福祉、教育等）が受けられないような障がいを取り除く」を選択した人の割合が37.6%と最も高く、以下、「不当な就労や雇用などに対する取締りや罰則を強化する」（31.1%）、「外国人が日本語を学べる機会を増やす」（28.3%）、「日本と外国の文化交流を行う」（27.8%）と続いている。
- 男女別に見ても回答傾向に大きな差異は見られない（次ページの男女別クロス集計結果参照）。

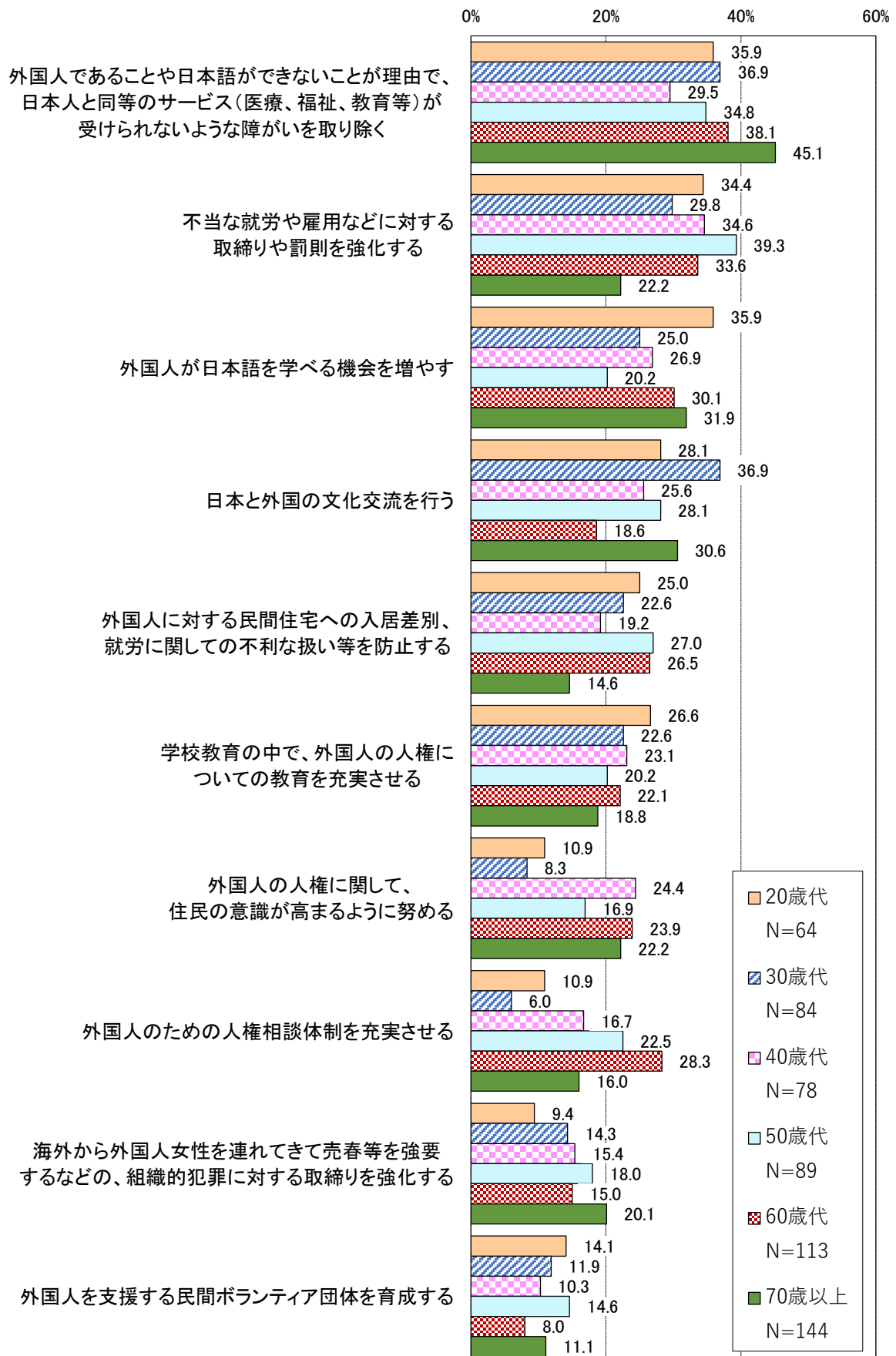


- 年齢階層別に見ると、「20歳代」では「外国人であることや日本語ができないことが理由で、日本人と同等のサービス（医療、福祉、教育等）が受けられないような障がいを取り除く」と「外国人が日本語を学べる機会を増やす」、「30歳代」では「外国人であることや日本語ができないことが理由で、日本人と同等のサービス（医療、福祉、教育等）が受けられないような障がいを取り除く」と「日本と外国の文化交流を行う」、「40歳代」と「50歳代」では「不当な就労や雇用などに対する取締りや罰則を強化する」、「60歳代」以上では「外国人であることや日本語ができないことが理由で、日本人と同等のサービス（医療、福祉、教育等）が受けられないような障がいを取り除く」の回答割合がそれぞれ最も高くなっている（次ページの年齢階層別クロス集計結果参照）。

## 《男女別クロス集計結果》

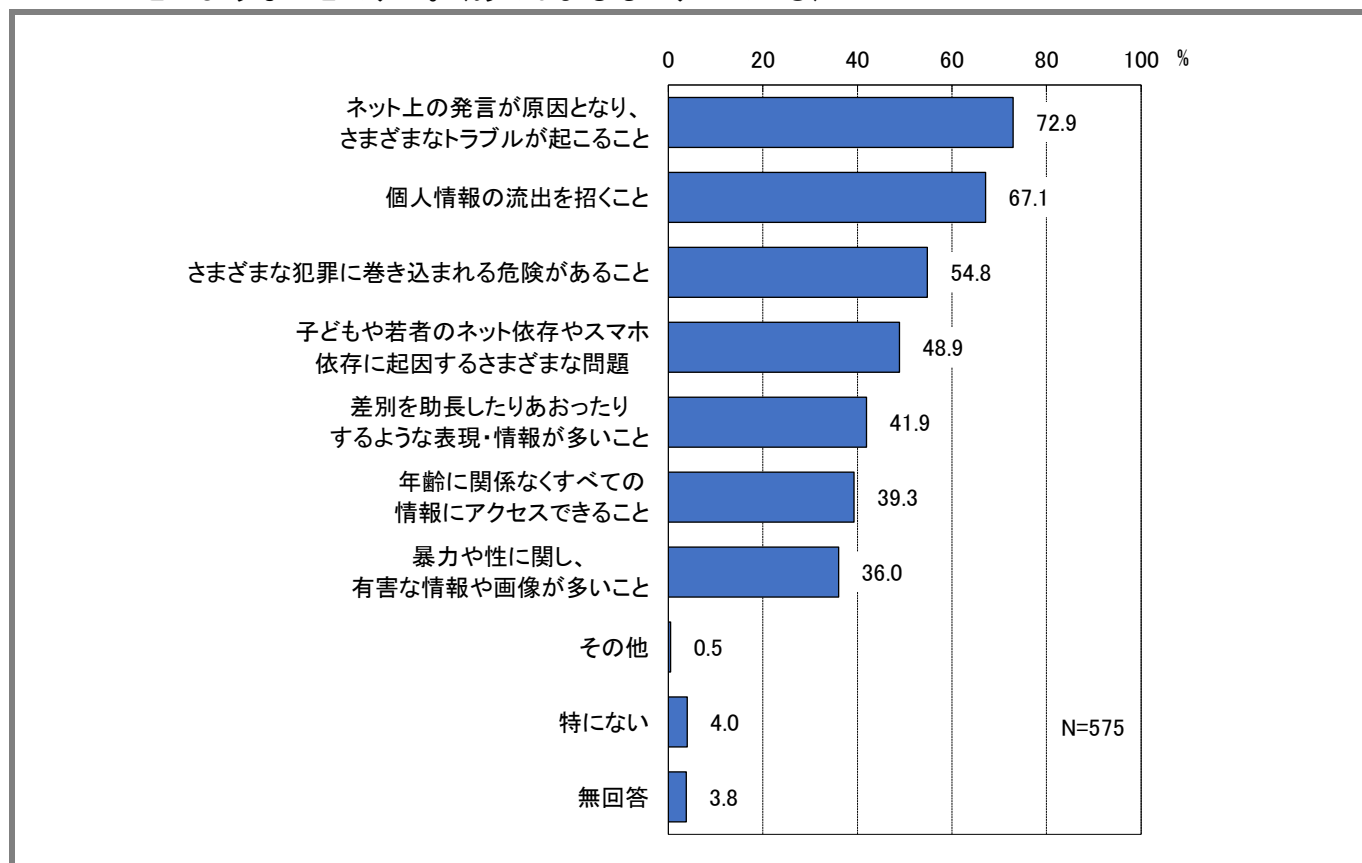


《年齢階層別クロス集計結果》



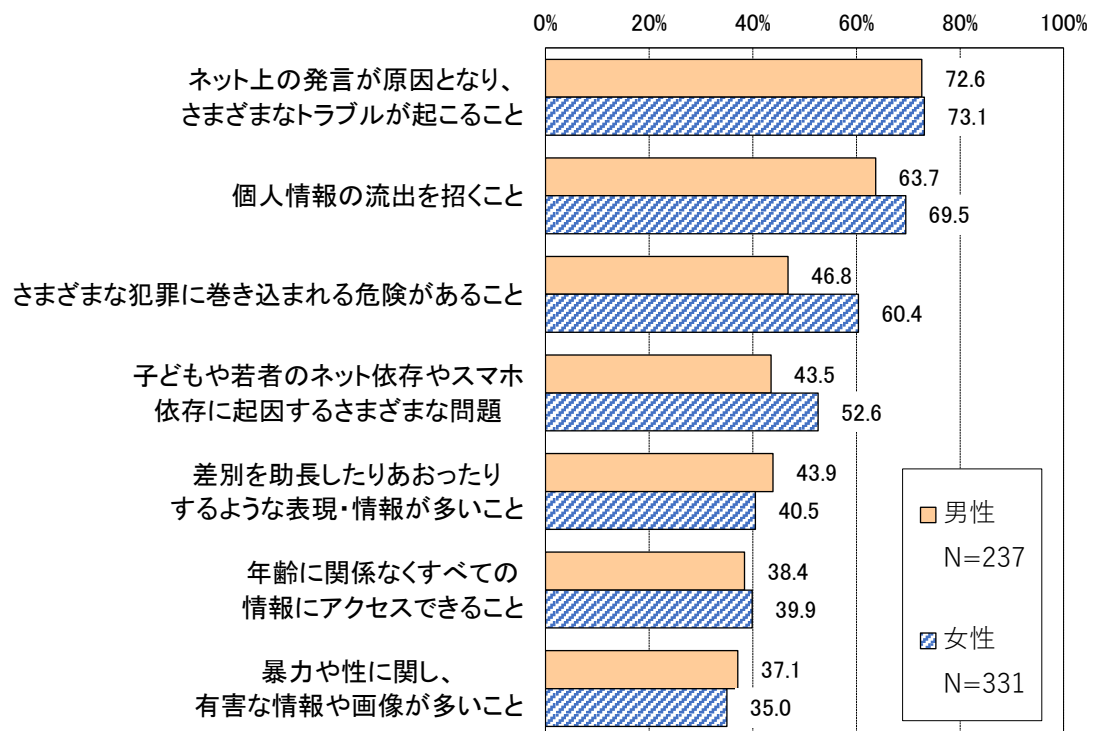
## X. インターネット上の人権侵害について

問20 インターネット上の人権侵害に関する事柄で、あなたが特に人権上問題があると思われるのはどのようなことですか。(あてはまるものすべてに○)

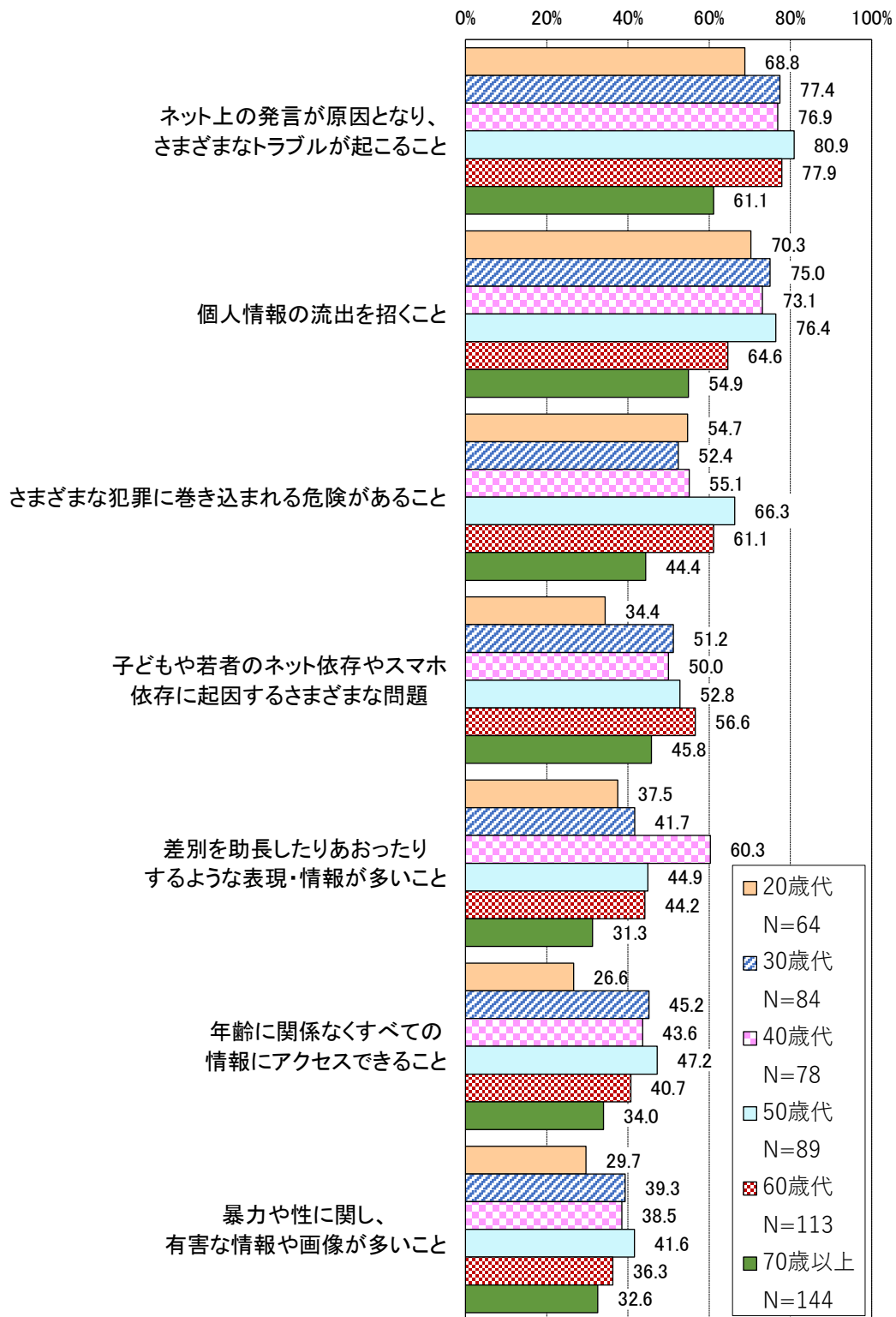


- インターネット上の人権侵害に関する事柄で、特に人権上の問題があると思われるものとしては、「ネット上の発言が原因となり、さまざまなトラブルが起ること」を選択した人の割合が72.9%と最も高く、以下、「個人情報の流出を招くこと」(67.1%)、「さまざまな犯罪に巻き込まれる危険があること」(54.8%)、「子どもや若者のネット依存やスマホ依存に起因するさまざまな問題」(48.9%)と続いている。
- 男女別に見ても回答傾向に大きな差異は見られない(次ページの男女別クロス集計結果参照)。
- 年齢階層別に見ても回答傾向に大きな差異は見られない(次々ページの年齢階層別クロス集計結果参照)。

《男女別クロス集計結果》

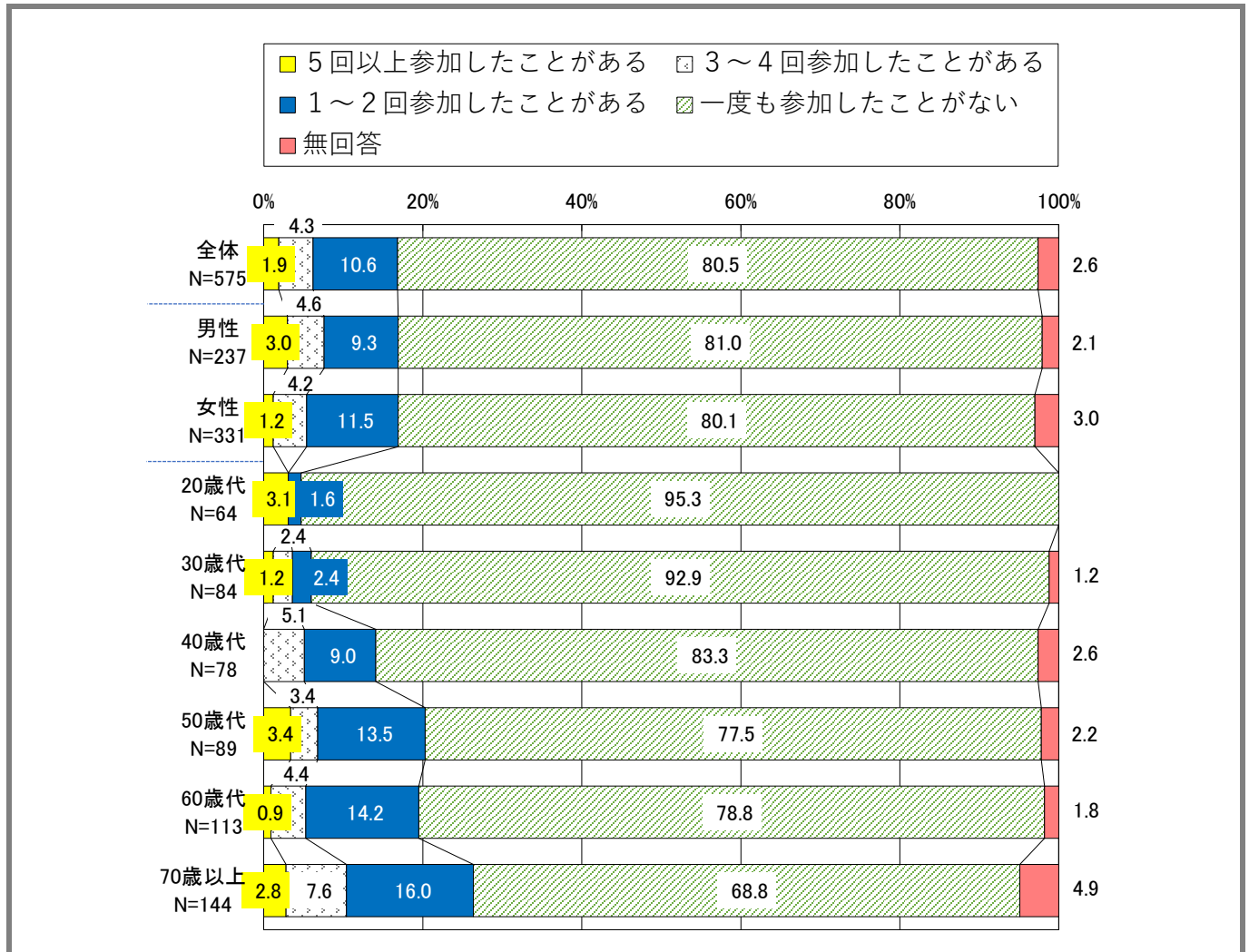


《年齢階層別クロス集計結果》



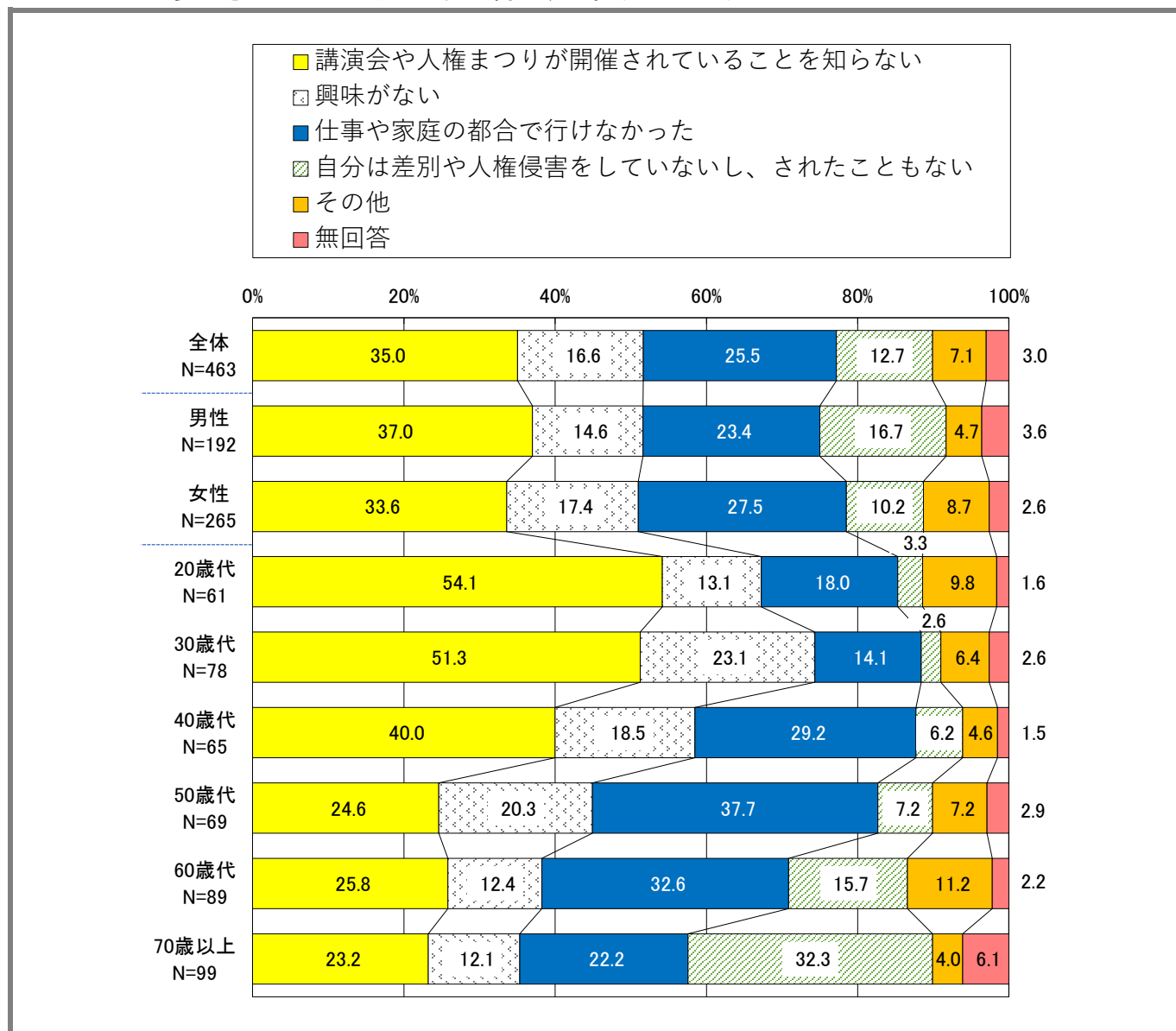
## XI. 芦屋町の人権啓発施策について

問2-1 毎年、7月に人権講演会、12月に人権まつりを開催していますが、あなたは、過去5年以内に参加したことがありますか。※オンライン試聴も参加に含みます。(1つに○)



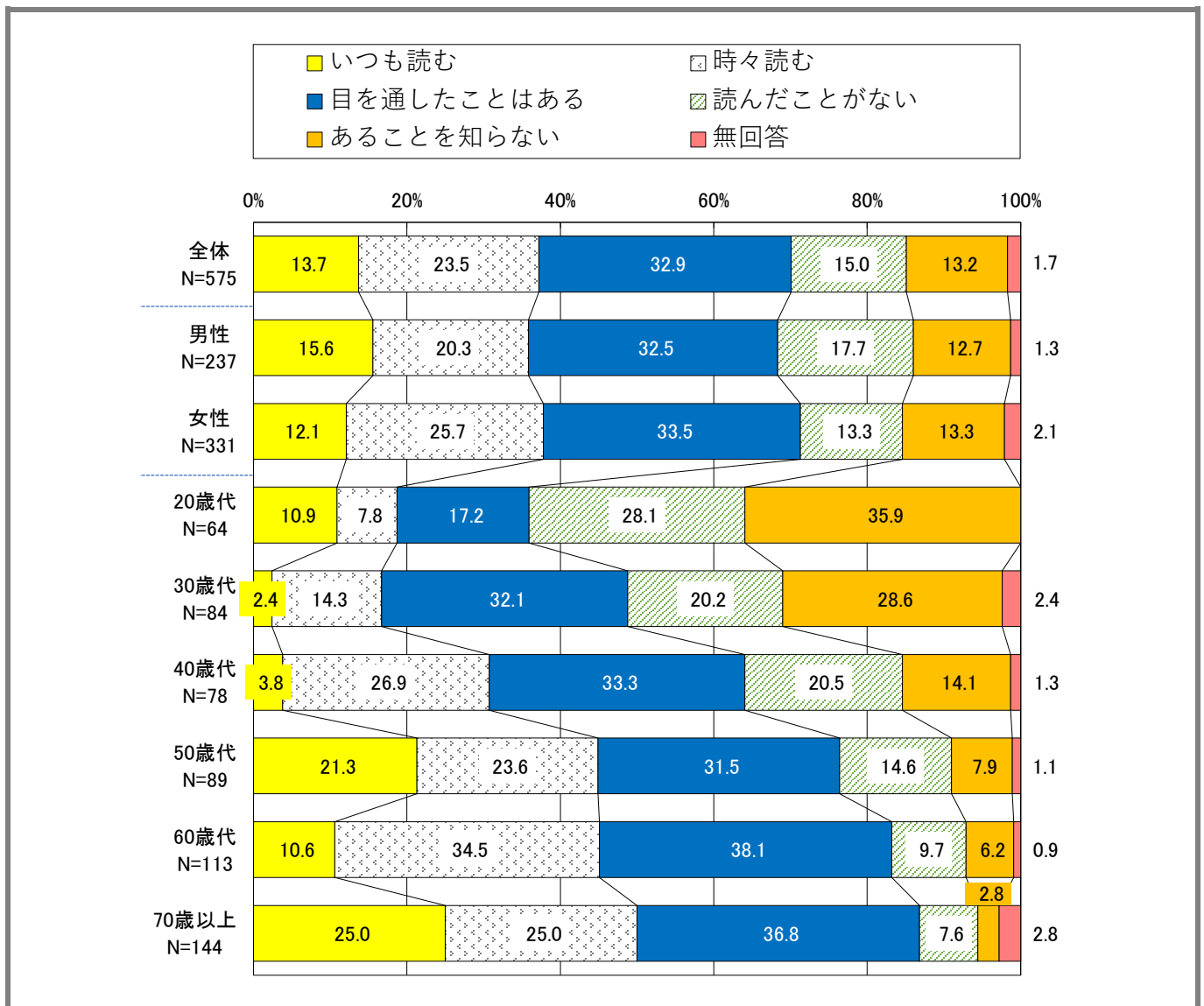
- 人権講演会や人権まつりに「参加したことがある」と回答した人の割合は全体の16.8%で、「一度も参加したことがない」と回答した人の割合は80.5%となっている。
- 男女別に見ても回答傾向に差異は見られない。
- 年齢階層別に見ると、概ね年齢階層が高くなるにつれて「参加したことがある」と回答した人の割合も少し高くなる傾向が見られる。

問21-1 (問21で「4. 一度も参加したことがない」と答えた方へ)  
参加されたことのない理由は何ですか。(1つに〇)



- 前問で、人権講演会や人権まつりに「一度も参加したことがない」と回答した人にその理由を尋ねたところ、「講演会や人権まつりが開催されていることを知らない」と回答した人が全体の35.0%と最も多く、「仕事や家庭の都合で行けなかった」が25.5%で、それに続いている。
- 男女別に見ても回答傾向に差異は見られない。
- 年齢階層別に見ると、「講演会や人権まつりが開催されていることを知らない」という回答割合は、概ね年齢階層が高くなるにつれて低くなっており、「50歳代」と「60歳代」では「仕事や家庭の都合で行けなかった」という回答が最も多くなっている。

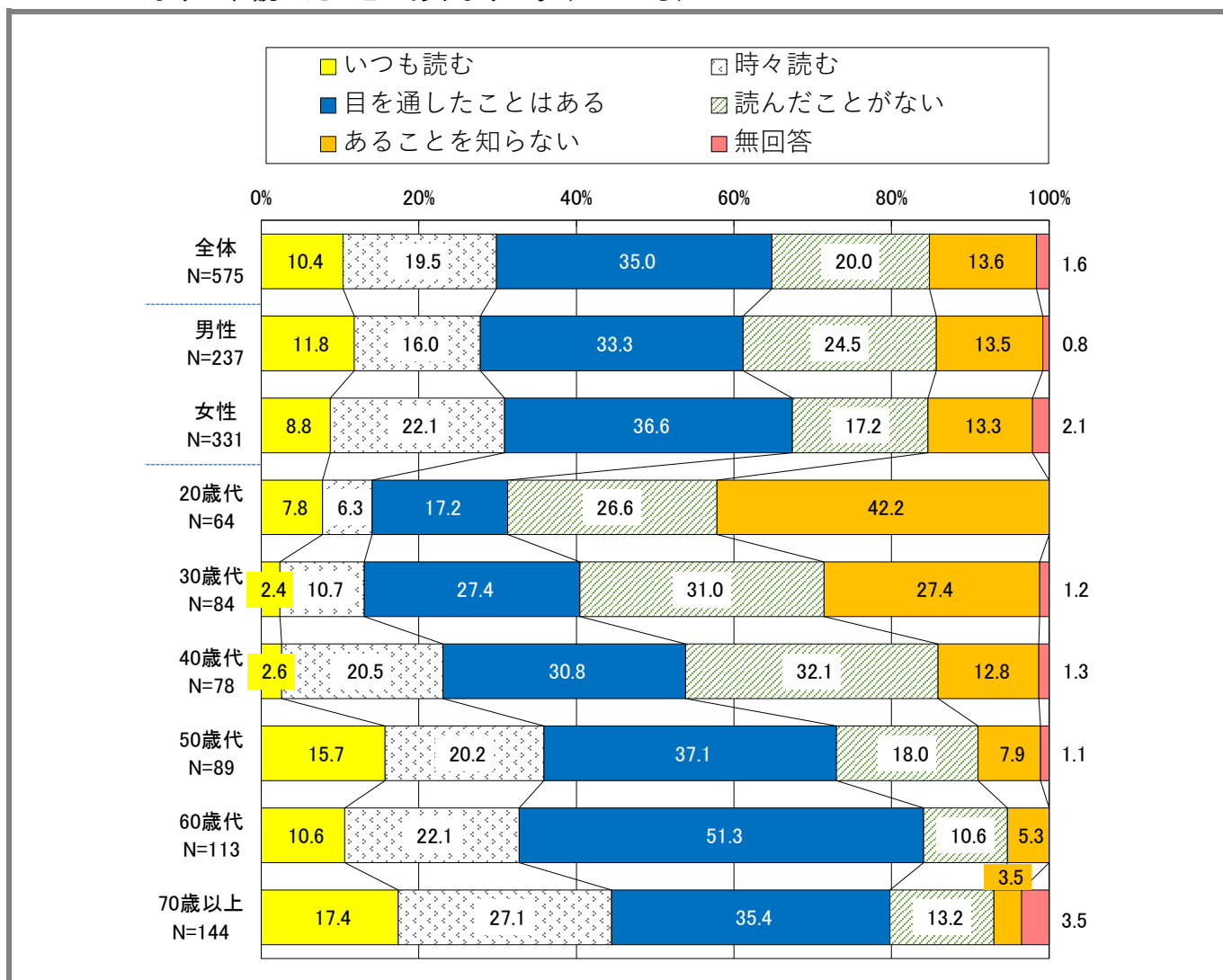
問22 毎月、広報あしやに「差別をなくすために」という記事を掲載していますが、読んだことがありますか。(1つに○)



- 広報あしやの「差別をなくすために」という記事を「いつも読む」「時々読む」と回答した人の割合は全体の37.2%で、「読んだことがない」「あることを知らない」と回答した人は28.2%となっている。
- 男女別に見ても回答傾向に大きな差異は見られない。
- 年齢階層別に見ると、「読んだことがない」「あることを知らない」と回答した人の割合は、年齢階層が高くなるにつれて低くなっている。

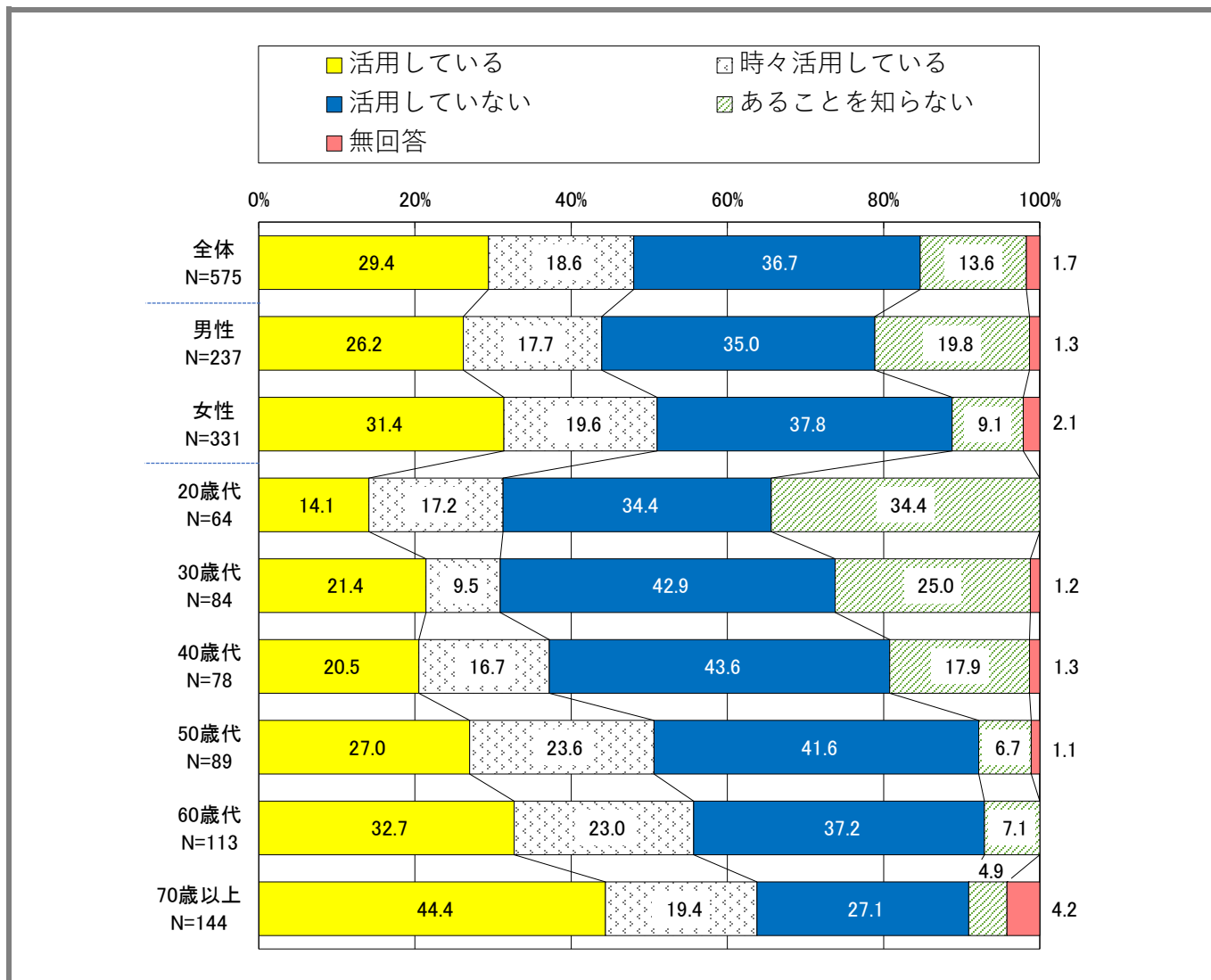


問23 毎年、広報あしや3月号と同時に人権啓発冊子「お互いが尊重される地域づくり」を発行していますが、読んだことがありますか。(1つに○)



- 人権啓発冊子「お互いが尊重される地域づくり」を「いつも読む」「時々読む」と回答した人の割合は全体の29.9%で、「読んだことがない」「あることを知らない」と回答した人は33.6%となっている。
- 男女別に見ても回答傾向に大きな差異は見られない。
- 年齢階層別に見ると、「読んだことがない」「あることを知らない」と回答した人の割合は、概ね年齢階層が高くなるにつれて低くなっている。

問24 毎年12月に人権カレンダーを発行していますが、活用していますか。(1つに○)



- 人権カレンダーを「活用している」「時々活用している」と回答した人の割合は全体の48.0%で、「活用していない」「あることを知らない」と回答した人は50.3%となっている。
- 男女別に見ると、「活用している」「時々活用している」と回答した人の割合は、男性よりも女性の方が高くなっている。
- 年齢階層別に見ると、「活用している」「時々活用している」と回答した人の割合は、概ね年齢階層が高くなるにつれて高くなっている。

◎最後に、人権問題や人権行政に関する事で何かご意見やご要望がありましたら、自由にお書きください。

## 【20 歳代】

| 性別  | 内 容  |
|---|--|
| 男性  | メール等で周知しスマホで答えられるアンケートが好ましいと感じました。   |
| 女性  | コロナ禍になり、職業柄行動を制限される事が多くなり、辛い時があります。職業で制限されることは悲しいです。   |
|   | ネットで回答できるようにしてほしい。質問や選択肢が多く感じた。  |
|   | 芦屋町でも障がい（身体、精神）を持った人でも働きやすいように環境及び政策を考えてほしい。   |
|   | 芦屋町はサポート面等充実しており、住民のためにより町づくりを実現していると思います。でも大きな問題として最近メディアで取り上げられるようになったLGBTについてはまだこれから積極的に取組むべき問題だと思います。また女性差別というと社会進出を連想しがちですが、実際に一番多いのは家庭を持つ女性の家での負担が大きい事ではないでしょうか。これは個人問題ではなく、男性意識が低いために起こっています。一人親はサポートがありますが、家事、仕事、子育てをワンオペでこなす母親の人権のために憩いの場がほしいです。男性（父親）の意識改善のための取組みもお願い致します。 |
|   | 何事も過度に取り扱わないでほしい。やっていますという感じでしかなく、根本はほとんど変わっていない。広報あしやに記事を出していたとしても目にとまらない。誰もが必ず目を通したくなるようなものにした方がいい。中途半端にするならやらない方がいいし、お金の無駄だと思う。他の所にそのお金を使ってほしい。   |
|   | 警察は私情をもって話さない、してはいけない、法律、決まりに縛られすぎて子どもの意見、住民、人々の考えを尊重しないので輩が増えていると思う。法律に縛られすぎて教育の邪魔になっていると思う。悪いことはわるいと思うがもっと接し方を考えて一緒に教育に取り組んでほしい。   |
|   | 最近夫婦別姓など取り上げられていることが多く、今後結婚を考えていく上でこれこそ人権に関係していることではないでしょうか。それぞれ生まれて名前がついた名字でできることになってほしいと思います。障がい者の意見をもっと取り入れる会議など聞き声を聞き、生活しやすい芦屋町（バリアフリーの充実）を見直して平等な芦屋町であってほしいと思います。   |
|   | 性的少数者への理解はテレビの番組や芸能人が発信していることによって昨今はだいぶ進んでいるような気がします。私自身もテレビを見て知らずのうちに人権を侵害していたのだと思う機会もあるため、人権問題はメディアや芸能人など発信力のあるものが声をあげることで大きく変わると思います。   |
| 本アンケートが送られてきたことで町の取組みについて興味を持つことができました。大人になってからそれまで「普通」と考えてきたものの考え方を変えることは難しいのだなとつくづく感じます。やはりなるべく小さな頃から教育として触れていく機会を設けることが大切だと考えます。今回のように考える機会を頂きありがとうございました。 |  |
| 答えたくない  | もっと行政が個別に対応すべき。各人権の問題は個々によることが大変多い。一般的な講演会、まつりを開催しても意味がない。   |

## 【30 歳代】

| 性別 | 内 容  |
|----|--|
| 男性 | もっと障がい者が外国人と交流できたらいいと思います。   |
|    | 一人ひとりの意識を変え、常識に囚われない柔軟な考え方を持つことで相手を思いやる気持ちを育むことができ、少しずつでもよい方向へと向かうことができるのではないかと思います。また一人ひとりが関心を高め、よりよい社会を作っていけるように考え、行動することにより充実した生活を送っていけるのではないかと思います。                    |
|    | 新型コロナウイルスに伴う差別に関心があります。コロナ差別、ワクチン差別など知識や情報が少ないために身近で起きていると思います。実際に妻が一般の方に向かって汚い等の発言をしています。もっと行政の方からメディア等を通じてコロナに対する正しい知識や誰でも感染してしまう事等を拡散して少しでもコロナ差別がなくなる事を願っています。          |
|    | 大々的に取り上げるほど人権の意識が低い町なのか？と疑問に思う。それよりも町の発展のために別の活動は始まらないのかと思う日々です。   |
|    | 町営住宅にエレベーターが設置されていないため、高齢者にとっては外出が難しく自宅に籠ってしまうことの原因になっていると思います。今後更なる高齢化に対応すべく全ての高齢者が生活しやすい町づくりを行うためにもエレベーターの設置を含めユニバーサルデザインの取組みを進めるべきです。                                   |
| 女性 | 子どもの時からの教育が大切だと思う。   |
|    | 私自身同和地区で育ちました。解放運動にも参加していた記憶があります。小学生の頃は週に1回集まり学校の先生が勉強を教えてくれたりもしていました。大人になって考えるとなぜ部落地域だけそのような会があったのか不思議です。言葉は悪いですが、同和地区の住人の質は良くありません。住んでいる人も変わらなければならないと育った自分自身も思います。     |
|    | 人権問題などは身近な問題であるにも関わらず、日常生活をしている中ではあまり身近な問題という意識が薄い気がします。「人権問題」というとなかなか記事も見ないのですが、例えばインターネット上の問題で〇〇をしたら犯罪にまきこまれやすいという興味関心のあることをテーマにして、その中で人権問題の提起をしてくれると広報誌も読むことが多くなる気がします。 |
|    | 町長が町民の人権を尊重すべき。  |

## 【40 歳代】

| 性別 | 内 容   |
|----|---|
| 男性 | 外国人を働かせている企業は遠賀町や芦屋町に多い。当然その人達が職場に近い所に住む事になるから、人権に関して最優先で取り組むべきは外国人問題だろうと思う。技術研修生なんて名前は良いが、薄給で飼い殺し、19世紀末の中国の苦力と全く変わらない、そんな現状。                                 |
|    | 差別は基本的になくなることはないと思います。なぜなら心と考えと経験に左右されると考えています。差別を実行させないためには学校でも教育されていると思いますが、「知る」「経験する」「考える」を実行する事だと思います。このアンケートも「知る」「考える」を実行する手段のひとつと考えさせられました。ありがとうございました。 |
| 女性 | 「人権問題の教育」と名打つとどうしても敷居が高く感じられてしまう。普段の生活の中、教育の中で自然と問題に触れ、考える機会を増やす事で考え方や古い歴史を変えていければと思います。  |
|    | このような調査の内容や事業内容を決定していくのはほとんどの場合、当事者ではない人々が集まり過去のデータや相対的に見て、総合的な判断で進められることが多いと感じる。当事者を主体とすれば設問内容もより具体的で全く違った角度からの解決策や真剣に取り組む姿勢が感じられ、こちらも協力したいという気持ちが湧き上がる。     |

| 性別 | 内 容  |
|----|--|
| 女性 | 子への虐待をもっと厳しくするべき。子どもの人権を軽視している。精神障がい者の犯罪は健全者と同等に扱うべき。罪は罪。罰を受けるべき。日本の法律は甘すぎる。   |
|    | 周りで人権差別があるかどうかあまり感じたことがないので家族で話すら出たこともない。そもそも人権差別を無くそうという発言では差別は無くならないと思う。   |
|    | 小さな事でも相談できるような体制を整えてほしい。以前ご近所トラブル（騒音）で自治会、役場、警察にも相談に行ったが解決できなかった。個人のルールやモラルが尊重され、マナーや思いやりがあれば他人の人権も尊重すると思う。              |
|    | 人権問題は正しい知識を教える、学ぶことでなくなることはなくても理解者が増えていくと思う。よく寝た子を起こすなということを知りますが、差別をなくすためには「知る」ことは大切だと思う。教わらなかったことで大人になって重大な差別行為をしてしまう。 |

## 【50 歳代】

| 性別 | 内 容  |
|----|--|
| 男性 | 芦屋町は啓発する場も多いと思います。保守、革新とか右とか左にかかわらず人権にかかわる場を持っていることが続いていくと良いと思います。   |
|    | 時間はかかりますが学校教育を通して少しずつ理解を深める必要があると思います。とくに多様性に重点を置いた教育が不足していると感じております。  |
|    | 社会にとり人が人として生活出来るための地域の取組みは重要だと考える。   |
|    | 女性は特別ですか？高齢者は特別ですか？外国人は特別ですか？特別扱いをするからわがままになったり、何でも許されると勘違いしたりする人も出てきます。男が特別だとは言いませんが、〇〇の人権だと言っている事が差別や人権を侵していると感じます。特別扱いはほしなくてほしい。誰かに対して特別扱いは嫌いです。  |
|    | 人権問題に限らず全ての問題は個人の価値観によって決まると思います。いくら啓発活動を行っても理解する人は理解するし、理解しない人は理解しません。その人がその問題を積極的に理解する気になって初めて啓発活動が意味を成すと思います。本人がその気になるまで待つしかないと思います。  |
|    | 幼少の頃から正しい情報を伝える（園、学校にて）。家庭でも親が差別発言をしない生活。  |
| 女性 | テレビドラマより病んでいるのはいじめている方でいじめられている方ではない。病んでいるからカウンセリングを受けさせてあげると簡単に言える世の中になればいい。  |
|    | 芦屋町は人権問題に対して真摯に取り組んでいると感じます（このアンケートも）。これからも頑張ってください。   |
|    | 現在モラハラが理由で別居（離婚に向けて）しています。実際モラハラをしている主人は自分がモラハラをしているという自覚が全くありません。むしろ自分が被害者だと思っています。もっとDVが身近で起こっていることを理解してほしい。行政も相談窓口、援助など考えてほしいです。  |
|    | 子供が小学生の頃いじめ（言葉）を受けていた。ある日我慢できずにかばんを蹴ると逆に親から学校に連絡があり、先生方からお叱りを受け、いじめは相手が不快に思ったことがあるのがいじめだと言われ、見かけが強く見える子どもは大人からいじめたと言われ続けた。そのランドセルを蹴った家庭に謝りに行かされた。子どもは大人になってからもあの時は悪くないと思っている。みかけ強く見える子どもに手を差し延べられなかった事は反省する。両方の話を聞いてあげられるとよかった。いじめは困難なことと思うがお互いの心にもっと寄り添う事が大切だと思う。 |

| 性別 | 内 容  |
|----|--|
| 女性 | 自ら差別を利用して儲けようとしたり、働かなかったりという事例が目立つため、どうしても他の多数の人達が見えづらい。実態が不透明。  |
|    | 自分自身を愛し、隣人を愛せば差別のない芦屋町になると思います。発する言葉に「そこに愛はあるのか」と自問自答してみる。私たち大人が自分の言動に責任を持ち明るい明日のために今日を生きようと思いながらアンケートを書き終えました。改めて人権を考えさせられました事に感謝。  |
|    | 差別のない社会になればいいと思います。私は外国人をいじめたり差別したりする人が許せません。  |
|    | 人権カレンダーを各世帯に配布するより、具体的な人権対策をした方がいいのでは。標語や絵などで子どもに人権を考えさせることは大切なので、小中学生の家庭や希望者に渡す方が良く思う。高齢者、外国人、障がい者、LGBT などの人権対策には現状を知る機会を増やす事が大切だと思う。人権の講演会には聞きたい内容であったが時間が合わず行けなかった。今回のアンケートで人権について考える事ができ良かったと思う。 |
|    | 人権について慌ただしい毎日の中でゆっくり考えることは少ないですが、人権講演会や人権まつりなど行事に参加すると改めて考える時間が作れるように感じます。幼い頃から人権の話や行事に触れる機会が多ければ自然と頭の中で思い出すことも増えるのでしょうか。  |
|    | 同和地区は芦屋町で買取り、整備すればよいと思う。同和問題が根強いので。  |

## 【60 歳代】

| 性別  | 内 容   |
|---|---|
| 男性  | アンケートを取るのはいいが今後どう活かすか毎回疑問に思う。一步でも前進することが大事。   |
|   | 権利と義務は同じように啓発したほうが良いと思います。権利を主張する人が多すぎる。  |
|   | 難しい問題ですが、個々いろいろ考えて、まず話をするという事が一番大事なような気がします。  |
| 女性  | 45 年前芦屋町住人になった時はどこから来たとよく聞かれ、よそ者扱いをされたが今はそのような言葉は耳にしない。よそ者扱いされたと思うが不快ではなかった。  |
|   | 根拠のない偏見により差別をしようとする人がいる。抗議をすれば関係性攻撃を受ける。我慢するしかないがストレスになる。特に若い家族に多い。   |
|   | 最近気になるのは子ども達の人権です。親による育児放棄や虐待が心配です。子どもだけでなく親を救う事の支援なども必要だと思います。   |
|   | 時代とともに社会が変化し、新たな差別問題が発生しています。もしかして 20 年後には、私にとってその差別の意味すら分からない事が発生しているかもしれません。色々な人に色々な場面で啓発をする必要があると思います。特に学校教育の中（子どもの時から）での教育（啓発）が大切と考えます。 |
|   | 自分がそんなめにあって初めて知らされることもあり、知らない人までも知ってしまうことになり自分も流されてしまう。   |
|   | 社会的弱者と言われる人たちの人権が尊重される町は全ての人が住みやすい町です。芦屋町がそのような町になることを願っていますが、町民（とくに古くから居住している方）はとても差別意識が強いと感じます。もっともっと啓発活動（区長など）が必要と感じています。                |
| 町外からここに引っ越し 30 年以上経ちますが、やはり地元の方は地元意識が強いと感じています。表面上では仲良くなれても一步踏み込めない、何かよそ者はやっぱり受け入れない、そんな感じを受けました。 |   |

| 性別 | 内 容                                   |
|----|---------------------------------------|
| 女性 | 人権カレンダーに関しては書き込みスペースが少ないので活用できない。     |
|    | 不用品や修理の電話がよくかかる。どうして家の電話番号が分かるのか不安です。 |

## 【70 歳以上】

| 性別 | 内 容  |
|----|--|
| 男性 | 学校の教育の中及び親が子どもと一緒に学べた方がよい。   |
|    | 差別をなくすためには、機会があるその都度、家庭内での教育が必要である。  |
|    | 私は 83 才になりますが、人権とか国民主権が侵される事態になったことはありませんので、国の教育がうまくいっているのではないのでしょうか。  |
|    | 小生の過去の経験によると大多数の人が何か事がおきると自分の方から自分の出生地や仲間の名前を出して逆に普通にしている人を脅す。それらをバックボーンにして生活している者もいることが問題だと思う。したがってごく自然にこちらの方から触らぬようにしている事をまたそれを差別しているように思われることも多々あります。               |
|    | 人と人との交流を穏やかにと心がけることが大事であると思う。  |
|    | 人権問題で民生委員の方に相談したが、解決できなかった。うわさ話も 75 日というが、3~4 年もなるのに一方的な発言で作り話が消えることがない。   |
|    | 同和とは何か。きちんと学校で学ぶべきだと思う。その上で同和だ、何だかんだと意識しないで皆平等に生活できるようになると良いと思う。   |
|    | 同和問題について差別を受けているのは、私達普通の国民だと思います。  |
| 女性 | 難しい人権問題に取り組んで居られる関係者の方々は本当に大変だと思います。よりよい芦屋町になるために頑張ってください。   |
|    | 難しくてよく答えられませんでした。  |
|    | コロナ禍もなかなか終息せず、新聞に目が離せません。遠賀郡に何名までは出ますが差別のため、住所、名前なし、もちろんそれで結構です。私の近所でも差別がありましたから。町名だけでも知らせて頂くとより一層気をつけるのではないのでしょうか。コロナで差別はあってはならないことです。町名だけ知らせて早くコロナ終息を。               |
|    | 以前娘が働いていた職場で同和の方がおられて、自動車学校に行くのもお金がいない等の事を知って、他の人が差別するのではなく同和の人の方が差別でいい生活をしている事を知りました。それはどうでしょうか。  |
|    | 会社に入社したとき、人権、同和問題について年に一度は勉強会があり、それから問題について意識するようになった。話し合いの中である人がこの市営住宅は同和の人達、あの地区は部落の人達、行政の方で区別していると聞き、びっくりしたことを思い出しました。差別なんてこういう所から生まれていると思います。                      |
|    | 人権問題をいつもこのような方法でやる事が毎年必要ですか。なぜこんなに毎年やるのか。何か特別にされているのですか。今は学校などで教えているので子ども達は何も感じていないし、なぜそんな差別を大人が煽るのか。受け取る方の考え方にもメスをいれるべき。何が差別か知りたい。優遇されていると思う。差別の問題を大きくする程、いつまでも続くと思う。 |
|    | 昔に比べ地域でも横のつながりが薄くなり、自分本位に物事を考える人が多くなってきました。目に見える物は豊かになりましたが、心は逆行するように乏しくなり、改めて昔の人の優しさがよくわかる年齢となりました。これからも年を重ねる度に人権に関する体験をする事でしょう。人の気持ちが分かる人間でありたいと日々願っております。           |

| 性別 | 内 容  |
|----|--|
| 女性 | 地区のサロン等で同和問題のビデオ等を活用するようにして高齢者にも偏見のないように努めるようにしたらどうでしょう。実証した地区にはごほうびを。 |
|    | 同和問題をとやかく言われますが若い人（少年等）はほとんど知らない人達が多いと思います。今さら言うべきではなくそっとしておくべきだと思います。 |
|    | 二世帯で生活しているため、広報あしやは息子家族が日常生活で色々必要情報があると思い、私はほとんど読んだことはありません。           |



# 芦屋町人権教育・啓発基本計画策定のための町民意識調査結果報告書

令和4年3月

---

発行 福岡県芦屋町  
企画・編集 芦屋町教育委員会 生涯学習課 社会教育係

〒807-0198

福岡県遠賀郡芦屋町幸町2番20号

TEL 093 (223) 3546

FAX 093 (223) 3885

---